

中華人民共和国
人とトキが共生できる地域環境
づくりプロジェクト
終了時評価調査報告書

平成27年6月
(2015年)

独立行政法人国際協力機構
地球環境部

環 境
J R
15-118

中華人民共和国
人とトキが共生できる地域環境
づくりプロジェクト
終了時評価調査報告書

平成27年6月
(2015年)

独立行政法人国際協力機構
地球環境部

目 次

目次

地図

写真

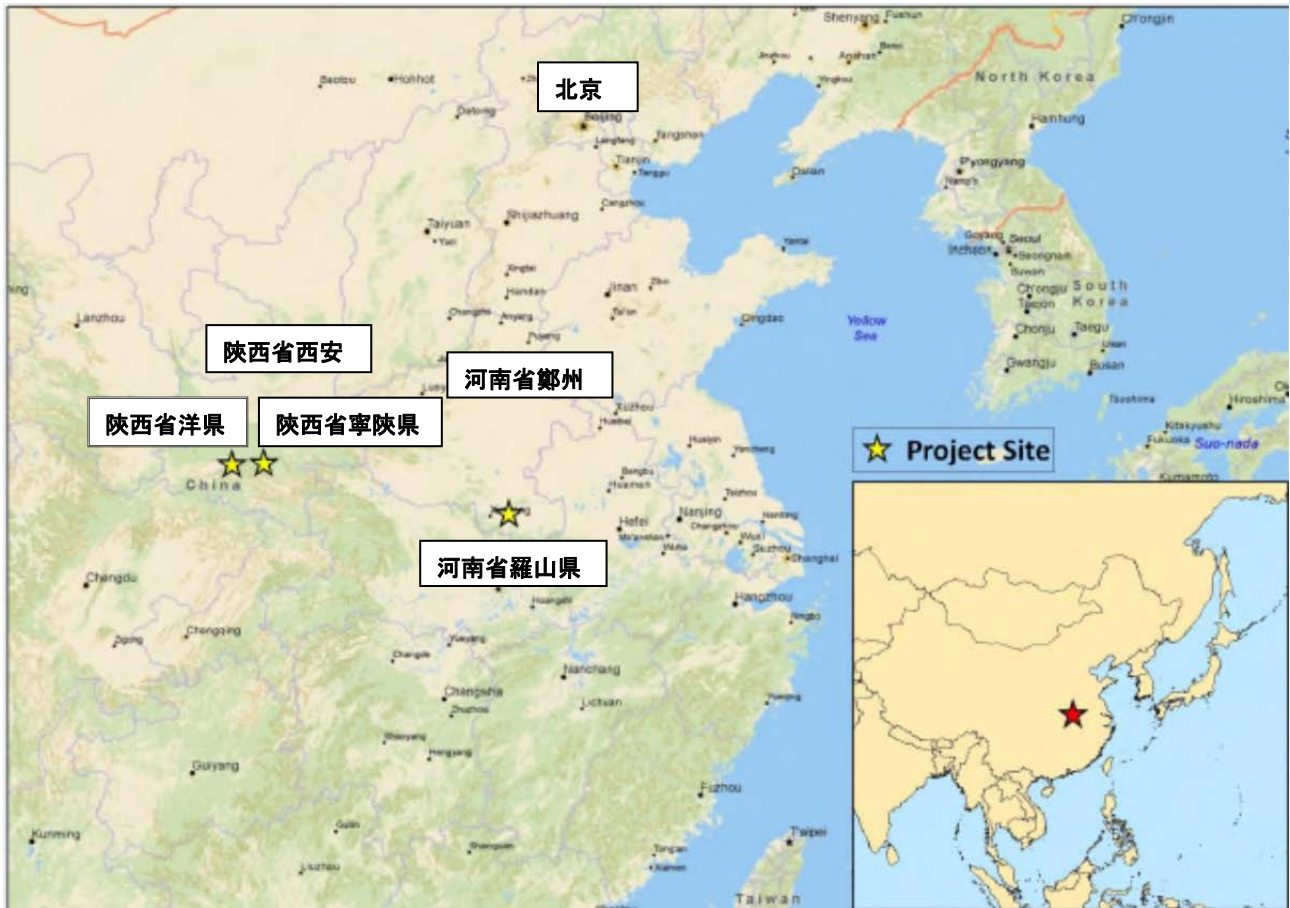
略語表

評価調査結果要約表

第1章	調査の概要	1
1-1	プロジェクトの背景	1
1-2	終了時評価調査の目的	1
第2章	終了時評価	2
2-1	調査団員	2
2-2	評価手法	2
2-3	調査日程	3
2-4	調査の結果	3
第3章	事業実績	4
3-1	投入の実績	4
3-2	活動の実績	4
3-2-1	成果1の達成状況	4
3-2-2	成果2の達成状況	5
3-2-3	成果3の達成状況	5
3-2-4	成果4の達成状況	6
3-3	プロジェクト目標の達成度	6
3-4	上位目標の達成予測	7
3-5	事業実施プロセスの検証	7
3-5-1	プロジェクトサイトの選定と連携	7
3-5-2	プロジェクトオフィスの設置	7
3-5-3	外国人立ち入り制限に対する対応	8
3-5-4	効果的な広報活動	8
第4章	評価結果	9
4-1	妥当性	9
4-2	有効性	9
4-3	効率性	9
4-4	インパクト	10

4-5	持続性.....	10
第5章	結論	11
第6章	提言（本プロジェクト後半の活動に向けて）	12
6-1	プロジェクト終了までの提言.....	12
6-2	プロジェクト終了後の提言	13
第7章	他の類似プロジェクトや新規案件形成などに有用な教訓	14
第8章	調査団所感	15
8-1	吉井団員（自然環境保全）所感.....	15
8-1-1	「人とトキの共生」に対する中国側関係者の意識の向上.....	15
8-1-2	トキ保護対策の進展	15
8-1-3	取り組み継続の必要性について	16
添付資料		
添付資料1	: ミニッツ（合同終了時評価報告書、和文）	19
添付資料2	: ミニッツ（合同終了時評価報告書、中文）	71

地圖



写



羅山県のトキ営巣場所の視察

真



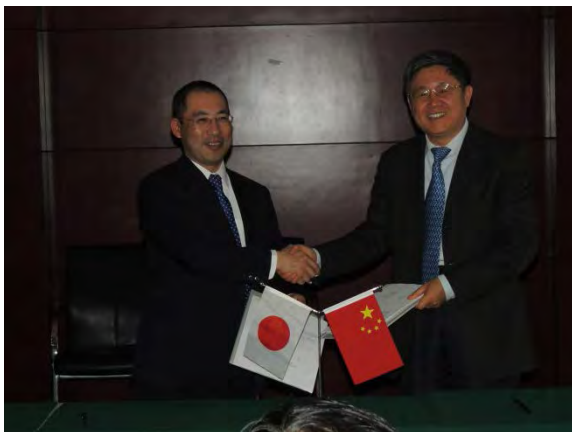
羅山県董寨で飼育されているトキ



寧陝県で栽培された有機米



洋県のモデル事業参加者に対するヒアリング



日中評価団長による終了時評価報告書への署名



合同調整員会に終了時評価報告書の内容を報告

略 語 表

略語	英語	日本語
C/P	Counterpart	カウンターパート
GPS	Global Positioning System	全地球測位システム
IUCN	International Union of Conservation of Nature and Natural Resources	国際自然保護連合
JCC	Joint Coordinating Committee	合同調整委員会
NPO	Non-Profit Organization	非営利組織
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PO	Plan of Operations	活動計画
SNS	Social Networking Service	ソーシャル・ネットワーキング・サービス

評価調査結果要約表

1. 案件の概要		
国名：中華人民共和国		案件名：人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト
分野：自然環境保全-生物多様性保全		援助形態：技術協力
所轄部署：地球環境部森林・自然環境グループ森林・自然環境保全第一チーム		協力金額（評価時点）： 約 4.9 億円
協力期間	(R/D): 2010 年 1 月 29 日	先方関係機関：中華人民共和国国家林業局国際合作司、 国家林業局野生動植物保護及び自然保護区管理司
	(延長):	日本側協力機関：
	(F/U):	他の関連協力：
1-1 協力の背景と概要 1970 年代末の改革開放以降、中華人民共和国（以下、「中国」と記す）経済は急速な発展を遂げたが、同時に自然環境への負荷緩和という課題にも直面した。近年、自然環境の保全と持続可能な開発は、中国社会全体が注目する課題となりつつある。なかでもトキは、国際自然保護連合（IUCN）のレッドリストにも指定されている絶滅危惧種である。日中のトキ保護協力関係は 1985 年より 30 年近くにわたって継続している。中国のトキは、1981 年の再発見時の 7 羽から現在（2014 年末）は野生個体数が 1,000 羽を越えるまでに増加している。日本のトキも中国から贈与された個体から復活し、野生トキの数は 100 羽を超えた。日中間のトキ保護協力は地球レベルでの絶滅危惧種の保護、生物多様性の象徴であるのみならず、日中友好・交流の象徴となっている。また、2003 年には、わが国環境省と中国国家林業局が「日中トキ共同保護計画」を策定し、両国がそれぞれの立場でトキ保護事業を進めること、また、両国がそれぞれの立場で相互に協力を進める旨を確認済である。 中国は、鳥インフルエンザ蔓延時のリスク分散等も考慮し、生息地を陝西省以外の省にも拡大する方針を有していた。陝西省洋県は、トキの保護区として指定され、比較的保護活動の体制が整っている。一方、河南省董寨国家級自然保護区は保護活動の経験が浅く、2007 年にトキの飼育繁殖を開始したところであり、プロジェクト開始時には放鳥の実績を有しておらず、体制強化が急務であった。また、各サイトの生態環境調査等が十分に行われておらず、トキの保護と農村地域の開発の両立に向けた具体的な対策も十分でなかった。そこで、係る状況に対応するため「人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト」が 2010 年 9 月 25 日に 5 年間の予定で開始された。		
1-2 協力内容 (1) 実施期間 2010 年 9 月 25 日～2015 年 9 月 24 日（60 カ月） (2) 対象地 陝西省洋県/寧陝県・河南省羅山県		

(3) ターゲットグループ

陝西省洋県/寧陝県・河南省羅山県の地域住民、トキを含む自然環境保全に関わる行政等関係者

上位目標：

対象地域およびその他の関連地域において、人とトキの共生モデルの発展と普及を通じて、中国の国家環境保護計画の推進と里山イニシアティブの実施に貢献する。

プロジェクト目標：

対象地域において、人とトキの共生に向けた環境が整備される。

アウトプット（成果）：

1. 環境情報（トキを含む自然環境および社会環境）が整備される。
2. トキの野生復帰を行う体制が構築される。
3. 住民参加型事業のモデルが構築される。
4. トキを含む自然環境保全に関する関係者の意識が向上する。

1-3 投入（レビュー時点）

日本側：総投入額 約 4.9 億円

専門家派遣 延べ 6 名（長期専門家 4 名、短期専門家 2 名。担当分野としては、チーフアドバイザー、鳥類保護/普及、鳥類モニタリング、環境教育、参加型開発、業務調整等）

機材供与 823 万元（約 1 億 6 千万円） 在外事業強化費 約 1,164 万元（約 2 億 3 千万円）

研修員受入 26 名 その他

相手国側：

カウンターパート（C/P）配置 34 名 北京でのプロジェクト事務所等 ローカルコスト負担
その他

2. 評価調査団の概要

調査者	日本側メンバー			
	氏名	分野	所属	出張期間
	神内 圭	総括	JICA 地球環境部森林・自然環境グループ 自然環境第一チーム 課長	4/16～4/25
	吉井 雅彦	自然環境保全	元環境省自然環境局環境情報分析官	4/16～4/25
	三戸森 宏治	評価計画	JICA 地球環境部森林・自然環境グループ 自然環境第一チーム	4/16～4/25
	吉田 進一郎	評価分析(1)	JICA 中国事務所	4/17～4/24
	李 飛雪	評価分析(2)	JICA 中国事務所	4/17～4/24
	中国側メンバー			
	氏名	所属	役職	
	劉 立軍	国家林業局対外合作項目センター	副主任	

	路 宝忠 熊 林春	陝西漢中トキ国家級自然保護区管理局 河南省信陽市野生動植物保護協會/河南省信陽市野生動植物保護管理ステーション	元副局長 事務局長、上級エンジニア
調査期間	2015 年 4 月 16 日～4 月 25 日		評価種類：終了時評価
3. 評価結果の概要			
3－1 実績の確認			
(1) 成果の達成度			
成果 4 項目はいずれも達成が見込まれており、プロジェクト目標は協力期間終了までにおおむね達成される見込みである。トキ保護と地域住民の参加モデル事業は、参加した村の満足度は概して高い。また、関係機関・関係者による共生環境づくりの協議については、モデル事業実施地区ごとに成果報告会・交流会を複数回開催している。 成果毎の実績は次のとおりである。 成果 1：3 サイトのトキの生息環境に関する基礎調査、洋県及び寧陝県のモデル事業実施対象村の社会環境基礎調査が行われ、これらの報告書は C/P 機関に配布された。 モニタリング情報の管理と共有については、羅山県董寨ではプロジェクト指導による情報記録モデルが導入され、洋県、寧陝県でも参考にされた。また、合同モニタリング研修会、プロジェクト定例会等を通じて各サイトのトキの生息・繁殖状況等が C/P 職員に共有された。また、C/P 職員が運用するモニタリングデータ管理システムが構築されており、C/P からその仕組みや改善方法に関する説明を受けた。 成果 2：プロジェクトが整備・提供した順化ケージ、水利施設（修復）、ドジョウ養殖施設、モニタリング機材などの施設や機材は、適正に利用・維持管理がなされている。順化ケージは、3 サイトにおいてトキの順化飼育に利用されている。修復水路等はプロジェクトにより整備がなされ、現在も C/P 機関もしくは村落により維持管理され、農家等の生産活動に貢献している。 トキモニタリング技術者は、研修会や現地指導により能力が向上し、現在各サイトにおいて業務を担っている。洋県 13 名、寧陝 2 名、董寨 6 名の計 21 名の中堅技術者が研修等に参加し、引き続き業務に従事している。特にバンディングにおける個体番号の表記手法の改善により、サイト毎の野生個体の識別が可能となり、保護対策に必要なさまざまな情報が得られるようになった。 成果 3：3 サイトで 7 つのモデル事業が実施された。洋県では有機梨栽培事業が草坝村で実施され、研修を通じて育成された農家が他の農家に技術指導をする等の波及効果がみられる。また、4 地区で水路等の復旧事業を実施し、300 戸、380 ムー*の水田を回復・修復した。 寧陝県では、寨沟村で有機板栗・生薬（猪苓、天麻）栽培、親子自然体験活動等のモデル事業が実施された。猪苓は栽培農家が開始当初の 11 農家から 50 農家に増加、板栗、天麻栽培も栽培農家数は安定している。非政府組織（NPO）との連携による親子自然体験活動は、参加者の支持			

により継続され、村に定着してきている。また、寨沟村、朱家嘴村で水路修復事業を実施、計 90 戸、90 ムーの水田が回復・改善。寨沟村では合作社による無農薬米の契約栽培が 140 ムーの水田で実施されている。

董寨では合作社の茶園で有機茶栽培モデル事業を実施。栽培技術の向上と販売ルートの多角化に加えて茶摘みツアーの試行もした。先端の有機茶栽培基地として研究機関等の研修会が行われている。供与した資機材は合作社により継続的に利用されている（*15 ムー＝1ha）。

成果 4：3 サイト合計で 29 名の小学校教師等の環境教育人材がプロジェクトで作成した教材を活用した説明や解説を行った。作成した教材・ガイドブック等は保護区、学校、村落等での環境教育・宣伝活動で利用されている。

広報は、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）への登録者が 2,300 名を超え、セミナー・シンポジウム参加者満足度は高いことが確認された。寧陝でのモデル事業成果交流会、董寨の有機茶栽培モデル事業報告会は県政府のウェブサイトでも紹介された。

（2）プロジェクト目標の達成度

成果 4 項目はいずれも達成が見込まれており、プロジェクト目標は協力期間終了までにおおむね達成されると判断できる。

トキの保護と地域住民の参加モデル事業は、第三者評価調査の結果はおおむね村の評価は高く、ヒアリングした村の満足度はいずれも高かったことから、人とトキの共生環境の改善に貢献したと判断できる。

関係機関・関係者による共生環境づくりの協議については、モデル事業実施地区ごとに成果報告会・交流会を複数回開催し、県政府、民間団体、企業・合作社等への成果波及を図っている。

（3）上位目標の達成予測

上位目標達成は、プロジェクトが作成予定の技術資料の手引書化等、プロジェクト期間中に出される成果が継続的に活用されることが前提となる。プロジェクト成果がプロジェクト最終成果発表会等を通じて広く共有され、活用方法等に関して議論がなされれば、プロジェクト終了後の達成見込みが一定程度見通せると思われる。

3－2 実施プロセスの検証

（1）プロジェクトサイトの選定と連携

プロジェクトはトキの放鳥計画がある 3 カ所を活動サイトとした。活動はサイト毎に計画を策定し事業を進めた。プロジェクトサイト間の技術交流、情報共有等がプロジェクトを通じて促進された。

（２）プロジェクトオフィスの設置

プロジェクトオフィスは、中国側事務局である北京全国鳥類バンディングセンター、陝西省西安に設置された。西安事務所は、全国鳥類バンディングセンター内の北京事務所と物理的な距離があったが、両事務所間で密接な連絡を取り、プロジェクトは順調に進捗した。

（３）外国人立ち入り制限に対する対応

プロジェクトサイト 2 カ所（陝西省洋県、寧陝県）では外国人立ち入り制限があり、日本人専門家の立ち入りには事前許可を得る必要があった。プロジェクト後半は同許可取得が難しくなり、国家林業局をはじめとした中国側の各方面への働きかけにも関わらず、当該サイトでは日本人専門家による直接の技術移転が困難となった。プロジェクトの運営方法を日本人専門家による技術指導から、中国側 C/P、プロジェクトスタッフ及び地元の専門家による技術指導に変更する必要が生じた。プロジェクトの日本人専門家による直接指導は限定的な部分があったものの、日本の里山再生等により培ってきた多様な主体の参加による組織運営・事業管理方法を C/P に対して伝える効果があった。

（４）効果的な広報活動

プロジェクト活動の四季報やウェイボー（SNS）での発信、地元の小学生が参加するトキ絵画コンテスト、絵本の読み聞かせ等、プロジェクト活動を周知して環境教育効果を得るために積極的な取り組みを行った。また、広報により自然環境ツアーの実施団体とのコネクションを得られる、地域住民からトキ目撃情報が提供される等の効果もあった。

3-3 評価結果の要約

（１）妥当性：高い

本プロジェクトは、日中共同トキ保護計画の目的と方針、方法と一致しており、中国の国家環境保護第 12 次五カ年計画、野生動物保護法、トキ保護に関する政策・施策などとも合致している。また、生物多様性条約（愛知目標、SATOYAMA イニシアティブ）やラムサール条約などに対する両国の国際的なコミットメントを扶助する事業である。

（１）有効性：高い

地域住民を含む関係者は、モデル事業や啓発活動を通じて、トキの生息環境の改善と生計向上や地域振興を両立することの重要性を更に深く理解するようになったことが現地調査結果から判明した。また、有機農業振興や水田の回復、野生のトキのモニタリング体制強化などは各サイトで着実な成果が出ており、政府、教育機関、住民等が協力して取り組んでいる。地域の生態系に配慮した農業の推進や、水路等の確保によるトキの生息環境の改善、環境教育を通じた環境意識の改善効果が確認できたことから、プロジェクト目標達成の見込みは高いと判断した。

（２）効率性：やや高い

プロジェクトは、限られた財源の中で中国国内のリソースを有効活用した。日本人専門家の活動の制約も、現地スタッフが代替することにより大部分がカバーされた。トキの順化ケージの建設では、プロジェクトが資材の一部を供与し、外務省の草の根無償、中国政府による建設費の負担などを組み合わせた効率的な投入が確認された。また、供与機材の一部は、農業合作社を通じて供与・管理し、使用等に当たって受益農民と協定書を結ぶなどの工夫を行っている。

一方、ニーズと費用対効果に留意し、事業インプットの利用状況や効果をモニタリングすれば、効率性はさらに改善する可能性がある。

中国における外国人の訪問に関する規定から、一部地域における日本人専門家の行動が制約された。

（３）インパクト：高い

生計向上活動等の波及効果は、寧陝県寨沟村や羅山県董寨で有機農業とエコツーリズムを軸にした村づくり事業が合作社により進められており、董寨では羅山県政府が今後５年間で県内のすべての茶の栽培を有機栽培に転換する方針を示している。

トキの野生復帰サイトが、プロジェクト実施期間中に２カ所から６カ所に増加、寧陝県でプロジェクトサイトの省級自然保護区設立手続きが進められている。野生復帰とモニタリング技術については、C/P 執筆のハンドブックが作成されており、今後、サイト外を含めた研修会の開催等により、当該技術の波及が期待される。

また、プロジェクトによる貢献や取り組みを、中国トキ保護 30 周年シンポジウム、日中韓豪合同渡り鳥保護会合、ラムサール条約締約国会議、世界公園会議等の機会において定期的に対外的に発信している。

（５）持続性：中程度

技術交流や研修事業などの能力向上は確認されている。C/P 組織には今後も継続的に予算及び人材が配置される見込みであり、組織の持続性は確保されている。また、プロジェクトが供与したトキのモニタリング・飼育機材は、維持管理経費が確保されれば引き続き活用される見込みである。中国側が維持管理経費確保の重要性を今後も認識することで、必要な予算措置がなされると見込まれる。董寨ではプロジェクトが提案したモニタリング手法が導入されており、今後も活用の見込みと期待される。

有機農業振興やエコツーリズムなど、一部モデル事業では、農業合作社や NPO を巻き込んで、商業ベースに乗せるための取り組みが進み、農産物（有機米や有機茶）は商品化まで完了している。

また、各プロジェクト実施サイトは、サイト間の技術交流や情報共有及び定期交流事業の重要性を認識している。地方政府は、環境教育やエコツーリズム等プロジェクトが実施した活動への支援を継続することが期待される。

3-4 結論

プロジェクトは計画に沿って実施され、おおむね想定された成果を上げている。事業対象地が分散し、関係機関も多い中で、トキの飼育、順化およびモニタリングに必要な施設を整備し、資機材の充足や研修、実地指導などを通じて C/P 機関のモニタリング等の能力が強化された。また、野生のトキの生息環境改善を担う住民を巻き込み、トキとその生息環境をリソースとした生計向上・地域振興のモデルを示したこと、環境教育の促進による意識の向上や転換は、「人とトキの共生」実現に貢献している。

また、中国国内と日本側の双方に対する広報活動にも力を入れており、プロジェクトの存在感を高めるのみならず、市民や意思決定者に対するトキ保護に関する宣伝にも貢献し、トキの保護を通じた日中の技術交流と友好にも貢献している。

さらにプロジェクトは、持続可能な自然資源の利用と管理を実践していく際に SATOYAMA イニシアティブが重要とする視点からのいくつかの取り組みを実施し、同イニシアティブの推進に貢献しつつある。

3-5 提言（当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言）

（1）プロジェクト成果の取りまとめと共有

モニタリング技術、生計向上活動、環境啓発活動が今後も継続されると共に、各地で参照されるため、プロジェクト成果を適切に取りまとめて、広く関係者に共有することが必要であり、プロジェクトとしての提言案のとりまとめ、分野別報告書の作成、各プロジェクトサイトでの共有をプロジェクト終了までに行うべきである。

（2）トキ保護啓発ツールの有効活用

プロジェクトが作成した絵本等の広報ツールの有効活用の方法を残り期間において考えることが必要である。プロジェクトサイトの各県林業局、保護区は今後も地域や学校との関係を継続し、環境教育を継続し、効果を拡大するように尽力することが必要である。

（3）供与機材の維持管理体制の確認

JICA が供与した機材は適切な管理のもと、引き続き維持管理がなされるよう、プロジェクトは適切な管理責任者を指名する必要がある。

（4）地域づくり分野について

保護区と地域の関係者の協働による事業・活動の継続がトキの保護にとって極めて重要である。また、各プロジェクトサイトにおける活動実施体制をプロジェクト終了時まで強化することや、トキ保護当局が、政府関係機関、小学校、農業合作社、民間団体といった多様な関係者による共働の主軸となり、引き続き調整、実施、支援に積極的な役割を果たすことが重要である。

(5) 生計向上活動の自立的発展の確保

プロジェクトによる対象サイトでの生計向上活動の自立的発展のため、プロジェクトの経験を取りまとめたうえで、広く共有することが期待される。

3-6 教訓（当該プロジェクトから導き出された他の類似プロジェクトの発掘・形成、実施、運営管理に参考となる事柄）

(1) プロジェクト広報体制

開始時点から広報を重要な業務と位置づけ、視覚的な広報素材作成担当のローカル・スタッフを配置し、環境教育担当専門家と共同で迅速に多数の広報素材を作成することにより、住民の環境啓発に大きな効果をもたらした。

(2) 地元専門家リソースの効果的な活用

本プロジェクトが対象とする生計向上はサイトにより多岐にわたったため、地域の条件に対応した地元の専門家リソースを優先的に探して活用した。同活用は、技術的な適合やコスト面で有効であった。

(3) 環境教育所管省庁との連携について

絵本など多様な教材や手法を用いた小学校等における環境教育活動は、子どもたちに歓迎され教育効果をもたらした。この取り組みを継続し、広げるためには、合同調整委員会（JCC）のメンバー等に学校教育関連部局を含めることで、自然環境保全部門と学校教育担当部門が連携しやすい体制を確保することが望ましい。

(4) 生計向上モデル事業の選定について

本プロジェクトは、生計向上のモデル事業の効果を最大化するため、対象サイトの地域住民の生業やニーズ、既存の生計向上への取り組みや製品の販路を的確に把握し、更に、地方政府の政策的支援の可能性等、十分な現況把握と分析を行うことにより、モデル事業を成功に導いた。各サイトの背景などを十分に考慮して、新たな生計向上手段を導入するだけでなく、地域の住民が経験を有する農業等の在来技術を改善することにより、限られたプロジェクト期間で効果を出すことが可能となる。

Summary of Terminal Evaluation

1. Project Overview		
Country: People's Republic of China		Project Title: Environment Construction at Co-existent Areas of Human Beings and Crested Ibis
Issue/Sector: Forestry and Nature Conservation		Cooperation Scheme: Technical Cooperation
Division in Charge: Forestry and Nature Conservation Group, Global Environment Department		Total Cost: 490 million JPY
Cooperation Period	(R/D): January 29, 2010 to September 24, 2015	Partner Country's Implementation Organization: International Cooperation Department of China's State Forestry Administration, National Forestry Administration Wildlife Conservation and Nature Reserve Management Division
	(F/U) :	Supporting Organization in Japan:
		Related Cooperation:
1-1 Background of the Project The People's Republic of China (hereinafter referred to as "China") has achieved rapid economic development since its reform and opening-up in the late 1970s, but simultaneously faced the challenge of mitigating loads on the natural environment as well. In recent years, conservation of the natural environment and sustainable development is becoming a challenge that draws attention from the entire Chinese society. The Asian crested ibis among others is an endangered species that are also designated in the Red List of the International Union of Conservation of Nature and Natural Resources (IUCN). The cooperative relationship between Japan and China for protecting the crested ibis has been continued for nearly 30 years from 1985. The wild population of the crested ibis in China has increased from 7 birds when rediscovered in 1981 to more than 1,000 birds at present (as of the end of 2014). The crested ibis in Japan has also resurrected from individuals granted from China, where the wild population of the crested ibis exceeded 100 birds. The cooperation between Japan and China to protect the crested ibis has become a symbol of protecting endangered species, enhancing biodiversity at a global level, and facilitating the friendship and exchange between both countries. In addition, the Ministry of Environment in Japan and the State Forestry Administration in China formulated the "Japan-China Joint Crested Ibis Conservation Plan" in 2003, in which it was already confirmed that the two countries would advance programs to protect the crested ibis in their authorities and promote the mutual cooperation. China had a policy of expanding crested ibis's habitats in provinces other than Shaanxi Province where the 7 birds rediscovered in 1981, in view of risks like as the bird flu prevalence. Yang Prefecture in Shaanxi Province was designated as a protected area for the crested ibis, where systems of protection activities have been put into place relatively well. On the other hand, staff of the Dongzhai National Nature Reserve in Henan Province are less experienced in protection activities, where the breeding and propagation of crested ibis was just started in		

2007 and there was an urgent needs for strengthening its structure as they had not experienced releasing the crested ibis to wild at the time of the project commencement. In addition, ecological surveys at each site have not yet been carried out sufficiently, and thus measures to secure the compatibility between the protection of crested ibis and the development of rural areas were also less satisfactory. Therefore, the “Environment Construction at Co-existent Areas of Human Beings and Crested Ibis” was started on 25 September 2010 for the planned period of five (5) years in order to cope with those matters.

1-2 Project Overview

(1) Cooperation Period

September 25, 2010 to September 9, 2015 (60 Month)

(2) Target Area

XhaanxiYang prefecture /Ningshan Prefecture • Henan province Luoshan Prefecture

(3) Target Groups

Local residents in Yang/Ningshan Prefectures in Shaanxi Province and Luoshan Prefecture in Henan Province, persons concerned such as government officers involved in nature conservation, including crested ibis protection

Overall Goal:

Contribute to the promotion of the national environmental protection plan in China and the implementation of the SATOYAMA Initiative through the development and dissemination of a symbiotic model for people and crested ibis in the target area and other related areas.

Project Purpose:

The environment for the coexistence of people and crested ibis is provided in the target area.

Output:

1. Environmental information (natural environment and social environment, including crested ibis) is in place.
2. A system is developed to perform the release of crested ibis into the wild.
3. A model is developed for community-participation-type projects.
4. Stakeholders' awareness of nature conservation is improved, including the protection of crested ibis.

1-3 Input (as of Terminal Evaluation)

Input provided by the Japanese side : 490 million JPY

- The inputs of 6 Experts (long- term experts 4 persons, short-term experts 2 persons (Chief Advisor, Preservation and Diffusion of Birds, Monitoring of Birds, Ecological/Environmental Education, Community Development, operational coordination and etc.)
- Provision of equipment in the amount of 8.23 million RMB (160 million JPY)
- Local activity cost in the amount of 11.64 RMB (230 million JPY)

- Acceptance of Training Participants : 26 persons etc. Input provided by the Chinese side: - Total 34 Counterpart (C/P) 34 staff - Office space in 1.Beijing, Local cost and etc.				
2. Evaluation Team				
Members of Evaluation Team	The Japanese side:			
	Name	Duty	Position/Organization	period
	Kei JINNAI	Leader	Director, Forestry and Nature Conservation Division 1, Global Environment Department	4/16～4/25
	Masahiko YOSHII	Nature Conservation	Former Ministry of the Environment, Environmental Information Analyst	4/16～4/25
	Koji MITOMORI	Evaluation Plan	Forestry and Nature Conservation Division 1, Global Environment Department	4/16～4/25
		Evaluation Analysis 1		
	Shinichiro YOSHIDA	Evaluation Analysis 2	JICA China Office	4/17～4/24
	Li Feixue		JICA China Office	4/17～4/24
	The Chinese side:			
	Name	Organization	Duty	
	Liu Lijun	International Forestry Cooperation Center State Forestry Administration	Deputy Director General	
	Lu Baozhong	Management office of Shaanxi Hanzhong Crested Ibis National Nature Reserve	Former Deputy Director-General	
	Xiong Linchun	Xinyang Municipal Wildlife Protection Association/ Wildlife Protection Section, Xinyang Municipal forestry Bureau, Henan Province	Secretary General/ Section Chief, Senior Engineer	
Period of Evaluation	April 16 to 25, 2015		Type of Evaluation: Terminal Evaluation	
3. Result of Evaluation				
3-1 Project Performance				
(1) Level of achievement of the outputs				
The four items of the outputs are expected to be all achieved, and thus the project purpose is expected to be generally achieved by the end of the cooperation period. Model projects for protecting crested ibis and local residents’ participation generally attain a high level of satisfaction at participating villages. With regard to the				

consultations on creating a symbiotic environment by concerned agencies and persons, additionally, results reporting meetings and exchange meetings have been held more than once in each district for implementing a model project.

Performances in each output are as follows:

Output 1: Basic surveys of habitat environments for the crested ibis at the three sites and basic surveys of social environments at target villages for implementing model projects in Yang and Ningshan Prefectures were carried out, and related reports were distributed to the C/P agencies.

With regard to the management and sharing of monitoring information, recording methods for monitoring were introduced through the project guidance at Dongzhai in Luoshan Prefecture, which was also referred to in Yang and Ningshan Prefectures. In addition, information on the status of inhabitation and breeding of crested ibis at each site and others were shared among C/P officers through joint monitoring workshops, project's regular meetings and other similar opportunities. Furthermore, a monitoring data management system operated by C/P officers was developed during the project period, and the mission team received their explanation of its mechanism and how to improve it.

Output 2: Facilities and equipment, such as acclimation cages, were developed and provided by the project. Water use facilities (repaired), loach farming facilities, and monitoring equipment which were provided by the project have been used and maintained properly. Acclimation cages are used for acclimated breeding of crested ibis at the three sites. Repaired waterways and others have been provided by the project, and they are maintained by the C/P agency or villages for contributing to production activities of farmers.

Technicians for monitoring of the crested ibis have improved their competence through training sessions and field guidance, undertaking tasks at their respective sites nowadays. A total of 21 mid-level technicians: 13 in Yang Prefecture, 2 in Ningshan Prefecture, and 6 in Dongzhai participated in the training and other events, continuing to engage in their services. In particular the improvement of a technique for representing individual numbers in the banding enabled the identification of wild individuals at each site, which came to provide a variety of information required for protection measures.

Output 3: Seven model projects were carried out at three sites. An organic pear cultivation project was carried out at the Caoba Village in Yang Prefecture, where a ripple effect is found, including a situation in which farm households cultivated through the training provide technical guidance to other farm households. In addition, projects were carried out for restoring waterways and others in four districts, which restored and repaired 380 mu* of paddy fields for 300 households.

In Ningshan Prefecture, model projects were carried out at Zhaigou Village, including the cultivation of organic Chinese chestnuts and herbal medicine (*Polyporus* and *Gastrodia tuber*) and parent-child nature experience activities. The number of farm households cultivating *Polyporus* increased from 11 households at the start to 50 household farmers, while the number of farm households is stable for cultivating Chinese chestnuts

and *Gastrodia* tuber. Parent-child nature experience activities in collaboration with non-governmental organizations (NGO) are continued through participants' support, becoming well established at the villages. In addition, waterway repair projects were carried out at Zhaigou and Zhujiashui Villages, in which a total of 90 mu of paddy fields were restored and improved for 90 households. Contract cultivation of pesticide-free rice is implemented for 140 mu of paddy fields by a cooperative at Zhaigou Village.

A model project for cultivating organic tea was carried out by a tea garden of a cooperative at Dongzhai. In addition to the improvement of cultivation technologies and the diversification of marketing channels, trial tea-picking tours was conducted. Training workshops are conducted by local research institutes at the tea garden as a base of organic tea cultivation. The donated equipment has been used continuously by the cooperatives (* 15 mu = 1 ha).

Output 4: A total of 29 staff for environmental education including primary school teachers performed explanations and commentaries with the use of teaching materials prepared in the project at the three sites. Teaching materials, guidebooks and others that were prepared are used in environmental education and publicity activities at protected areas, schools, villages, and the like.

With regard to public relations, subscribers to a social networking service (SNS) exceeded 2,300, and it was verified that participants in seminars and symposiums were highly satisfied with them. An exchange meeting on outcomes of the model projects at Ningshan and a reporting meeting on the model project for organic tea cultivation at Dongzhai were also introduced at the web site of the prefectural government.

(2) Level of achievement of the project purpose

All of the four outputs are expected to be achieved, and it can be determined that the project purpose will be largely achieved by the end of the cooperation period.

Model projects have contributed to improvement of the environment for coexistence people and crested ibis, seeing that they were highly rated in general at villages as a result of the third-party evaluation study shows, accompanied with the high level of satisfaction at all of the interviewed villages.

With regard to the consultations on the creation of symbiotic environments by related agencies and stakeholders, result reporting meetings and exchange meetings were held several times in each area of model project implementation, intended to disseminate the results to prefectural governments, private organizations, companies, cooperatives, etc.

(3) Expected achievement of the overall goals

The achievement of overall goals is subject to the continuous utilization of outcomes produced during the project period, including the elaboration of a manual based on technical documents to be prepared in the project. It is believed that their possible attainment after the end of the project would be prospected to a certain extent, if project outputs are shared widely through a final project meeting.

3-2 Verification of the implementation process

(1) Selection of project sites and collaboration

The three locations where there was a plan to release crested ibis was selected as the project activity sites. A plan was formulated at each site for implementing project activities. Technical exchanges, information sharing and others among the project sites were expedited through the project.

(2) Establishment of the project office

The project offices were established at the National Bird Banding Center (NBBC) of China in Beijing as the secretariat on the Chinese side and in Xi'an City, Shaanxi Province. Although the Xi'an office was located far from the Beijing office within the National Bird Banding Center, close communications were established between the two offices, and thus the project made progress smoothly.

(3) Response to the restricted foreign access

Foreign access restrictions are imposed on the two project sites (in Yang and Ningshan Prefectures, Shaanxi Province), where Japanese experts needs to obtain permission in advance for their access. It became more difficult to obtain the permit during the second half of the project period, and the direct technology transfer by Japanese experts was made difficult at these sites despite the appeal to various organizations of the Chinese side including the State Forestry Administration. The method of project operation needed to be changed from the technical guidance by Japanese experts to that by the Chinese C/P, the project staff and local experts. Although the direct guidance by the Japanese experts in the project was partly limited, there was still the effect of transferring methods of organizations management and project management through the participation of various actors that had been fostered in the restoration of socio-ecological production landscapes and seascapes (“satoyama”) in Japan.

(4) Effective public relations activities

Proactive approaches were taken to have effects of the environmental education by making project activities better known, including the transmission of information on project activities through a quarterly journal and Weibo (SNS), painting contests on the crested ibis in which local elementary school students participated, and story-telling of picture books. In addition, there were also effects that publicity activities could provide a connection with an implementing organization of nature tours and also that witness information on the crested ibis was provided from local residents.

3-3 Evaluation Results

(1) Relevance: High

This project is consistent with the objective, policy and method of the Japan-China Joint Crested Ibis Conservation Plan and also coincides with the National 12th Five-year Plan on Environmental Protection, the

Wildlife Protection Law, and the policies and measures of the crested ibis protection in China. In addition, it is the project that assists international commitments of both countries to the Convention on Biological Diversity (Aichi Target, SATOYAMA Initiative), the Ramsar Convention, etc.

(2) Effectiveness: High

It was found that the field survey results showed the stakeholders including local residents came to understand the importance of balancing the improvement of habitats for the crested ibis and livelihood improvements or regional development more deeply through the model projects and awareness building activities. Furthermore, the promotion of organic farming, the restoration of paddy fields, and the strengthening of a monitoring system for wild crested ibis achieved solid results at each site, undertaken by the government, educational institutions, and local residents in cooperation. Since the promotion of agriculture which is friendly to the ecosystems in the area, improvement of habitat of the crested ibis by securing waterways, and improving the people's environmental awareness through environmental education are confirmed by the study team. Thus the prospect of achieving the project purpose was determined to be high.

(3) Efficiency: Relatively High

Local resources, like academic professionals, were utilized effectively in the project under its limited financial resources. Limitations on Japanese experts' activities in some project sites were mostly overtaken through by counterpart and local staff activities. Efficient inputs were verified in constructing the acclimation cage for the crested ibis through the combination of the donation of some materials by the project, the Grant Assistance for Grassroots Projects by the Ministry of Foreign Affairs of Japan, and the burden of construction costs by the Government of China. In addition, part of the donated equipment was provided and managed through agricultural cooperatives in accordance with written agreement on their use.

Meanwhile, it is likely that the efficiency of the project would be further improved by monitoring the status of utilizing project equipment, and their effects with attention to its needs and cost-effectiveness.

Japanese experts' actions were limited in some areas due to the travel permission to some project sites.

(4) Impact: High

With regard to ripple effects of livelihood improvement activities, etc., village development projects which are mainly focusing on organic agriculture and eco-tourism at Zhaigou Village in Ningshan Prefecture and at Dongzhai in Roshan Prefecture have been carried out by the cooperatives. It is also noted that the Roshan Prefectural Government sets forth a policy to convert all of tea cultivation in the prefecture into organic cultivation at Dongzhai within the next five years.

Sites of the crested ibis release were increased from two to six locations during period of project implementation, and procedures are being taken to establish provincial nature reserves at the project sites in Ningshan Prefecture. For the technologies of crested ibis release and monitoring, a handbook written by C/P

was prepared, and such technologies are expected to be disseminated through holding training workshops at various places in the future.

In addition, the efforts made by the project have been delivered externally at various opportunities such as the 30th anniversary symposium on the crested ibis protection in China, the joint meeting on the protection of migratory birds in Japan, China, Korea and Australia, the meeting of the Conference of the Contracting Parties to the Ramsar Convention on Wetlands, and the World Parks Congress.

(5) Sustainability: Moderate

Capacity improvements are verified through technical exchanges and training programs. It is expected that budgets and human resources will be allocated to the C/P organization in the future. In addition, the equipment for monitoring and breeding of the crested ibis is expected to be utilized continuously with maintenance expenses. It is expected that the China side will take necessary budgetary measures in recognition of the importance of bearing its maintenance expenses in the future.

The monitoring methods proposed by the project are introduced at Dongzhai, where it is expected to be utilized in the future.

In some of the model projects such as organic farming promotion and eco-tourism, efforts have made progress for putting them on a commercial basis while involving agricultural cooperatives and NPOs, and agricultural products (organic rice and organic tea) have been commercialized.

In addition, people are aware of the importance of technology exchanges and information sharing as well as regular exchange programs among the sites at each site of project implementation. Local governments are expected to continue their support for the activities carried out by the project such as environmental education and eco-tourism.

3-4 Conclusion

The project has been carried out in accordance with its plan, and achieved as expected. While the target project areas are dispersed with many related organizations, facilities required for breeding, acclimatization and monitoring of the crested ibis were developed, and capacities of the C/P organizations were also strengthened. In addition, the presentation of a model of livelihood improvement and regional development with the crested ibis have worked for the improvement and transformation of people's consciousness to realizing the "coexistence between humans and crested ibis."

In addition, the project's efforts have focused on public relations activities both within China and for the Japanese side, which have not only enhanced the presence of the project but also contributed to promoting the publicity for citizens and decision makers regarding the protection of crested ibis and also enhancing technology exchanges and friendship between Japan and China through the protection of the crested ibis.

In the project, moreover, several initiatives from the perspectives that the SATOYAMA Initiative considers significant have been implemented in practicing the utilization and management of natural resources in a

sustainable manner.

3-5 Recommendations (specific measures, proposals, advice to the project)

(1) Compilation and sharing of project outcomes

For continuing Monitoring techniques, livelihood improvement activities and environmental awareness building activities at the project sites in the future, project outcomes should be properly to be shared among concerned parties; therefore, the compilation of draft proposals, the preparation of sectoral reports, and their sharing at each project site need to be conducted before the end of the project.

(2) Effective use of awareness building tools for protecting the crested ibis

It is necessary the project to consider how to make use of Public Relations tools, such as picture books, prepared by the project by the end of the project. It is essential for the prefectural forestry bureaus and the protected areas at the project site to make efforts for continuing the environmental education for expanding its effects by sustaining its relationships with local communities and schools in the future.

(3) Maintenance of equipment provided by the project

It is necessary to designate an appropriate officers in charge for equipment management to ensure the sustained maintenance of the equipment provided by the project.

(4) About the field of local development

For the continuation of programs/activities co-existence of local stakeholders economic activities and the crested ibis protection, a system for implementing activities should be strengthened at each project site by the end of the project, and the crested ibis protection authority need to take a role for a main actor in the collaboration among various stakeholders including, related government agencies, elementary schools, agricultural cooperatives, and private organizations.

(5) Ensuring the self-reliant development of livelihood improvement activities

For the purpose of self-sustaining development of livelihood improvement activities at the target sites, it is expected that project experiences will be compiled and be widely shared.

3-6 Lesson Learned (the useful matters from the project for exploration/formation, implementation and operational management of other similar projects)

(1) Publicity activities by the project

The project assigned a local staff in charge of materials preparation, as a result of it the project drastically produced a lot of materials of public relations. It is important for the project to regard Public relations activities as one of the top priority matter.

(2) Effective use of local professional resources

Because livelihood improvement activities that this project aimed at covered a wide range depending on the sites, local expert resources corresponding to local conditions were searched for and utilized preferentially. Such utilization was effective in terms of the technical suitability and costs.

(3) Collaboration with ministries/agencies in charge of environmental education

Environmental education activities at elementary schools or the like using a variety of teaching materials and techniques, including picture books, were welcomed by children, bringing substantial educational effects. In order to continue and expand this effort, it is desirable that a system will be secured for facilitating the collaboration between the natural environment conservation sector and the school education sector by including school education-related departments in the members of the Joint Coordination Committee (JCC).

(4) Selection of model projects for livelihood improvements

This project led model projects to success by making a sufficient comprehension and analysis of current situations, including by accurately understanding local residents' livelihoods and needs, existing initiatives for making livelihood improvements and sales channels of products and additionally local governments' potential for policy support at the target sites in order to maximize effects of such model projects for livelihood improvements. While sufficiently considering backgrounds of each site, the improvement of conventional techniques such as farming practices experienced by local residents in addition to the introduction of new means of livelihood improvements would enable the project to produce effects during its limited period.

第1章 調査の概要

1-1 プロジェクトの背景

1970年代末の改革開放以降、中国経済は急速な発展を遂げたが、同時に自然環境への負荷緩和という課題にも直面した。近年、自然環境の保全と持続可能な開発は、中国社会全体が注目する課題となりつつある。なかでもトキは、国際自然保護連合（International Union of Conservation of Nature and Natural Resources : IUCN）のレッドリストにも指定されている絶滅危惧種である。

日中のトキ保護協力関係は1985年より30年近くにわたって継続している。中国のトキは、1981年の再発見時の7羽から現在（2014年末）は野生個体数が1,000羽を越えるまでに増加している。日本のトキも中国から贈与された個体から復活し、野生トキの数は100羽を超えた。日中間のトキ保護協力は地球レベルでの絶滅危惧種の保護、生物多様性の象徴であるのみならず、日中友好・交流の象徴となっている。また、2003年には、わが国環境省と中国国家林業局が「日中トキ共同保護計画」を策定し、両国がそれぞれの立場でトキ保護事業を進めること、また、両国がそれぞれの立場で相互に協力を進める旨を確認済みである。

中国のトキの保護、繁殖の取組みは、従来、原生息地の陝西省洋県で実施されてきたが、2000年以降、中国政府は鳥インフルエンザ蔓延時のリスク分散等も考慮し、生息地を省内他地区や他省に拡大する方向を打ち出し、新たな地域においてトキの保護に向けた取り組みが開始された。

プロジェクト開始前の2010年当時、洋県では既にトキ保護のための国家級自然保護区が設立され、比較的保護活動の体制が整っていたが、2007年に野生復帰が実施された陝西省寧陝県、また2007年にトキの飼育繁殖事業が開始された河南省董寨国家級自然保護区は、飼育繁殖、野生トキの保護モニタリング等の経験が浅いので、体制強化が必要となっていた。また、洋県を含め各サイトにおいて、トキの生息と調和しつつ住民生活を向上させ、保護事業への積極的な協力を得ることが、重要な課題となっていた。そこで、係る状況に対応するため「人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト」が2010年9月25日に5年間の予定で開始された。プロジェクト終了を前に、終了時評価調査を実施することになった。

1-2 終了時評価調査の目的

本終了時評価調査の目的は以下の通りである。

- (1) プロジェクト活動の実施成果の確認
- (2) 評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）の視点からの事業評価
- (3) プロジェクトの残り期間の課題及び今後の方向性についての確認

上記を中国側関係者との合同で実施し、調査の結果を終了時評価調査報告書として取りまとめ、合同調整委員会（Joint Coordinating Committee : JCC）において内容を提出する。

今回の終了時評価は、2013年5月に作成されたプロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix for Evaluation : PDM）version 03 と活動計画（Plan of Operations : PO）version をもとに実施された。

第2章 終了時評価

2-1 調査団員

(1) 日本側

氏名	分野	所属	出張期間
神内 圭	総括	JICA 地球環境部森林・自然環境グループ 自然環境第一チーム 課長	4/16～4/25
吉井 雅彦	自然環境保全	元環境省自然環境局環境情報分析官	4/16～4/25
三戸森 宏治	評価計画	JICA 地球環境部森林・自然環境グループ 自然環境第一チーム	4/16～4/25
吉田 進一郎	評価分析(1)	JICA 中国事務所	4/17～4/24
李 飛雪	評価分析(2)	JICA 中国事務所	4/17～4/24

(2) 中国側

氏名	所属	役職
劉 立軍	国家林業局对外合作項目センター	副主任
路 宝忠	陝西漢中トキ国家級自然保護区管理局	元副局長
熊 林春	河南省信陽市野生動植物保護協会/河南省信陽市野生動植物保護管理ステーション	事務局長、上級エンジニア

2-2 評価手法

評価団により、プロジェクトの専門家チームや各関係者に対する聞き取り調査、事業活動の視察などを実施して、評価に必要な情報を収集した。収集情報を分析し、プロジェクトの実績と実施プロセスの検証や、評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）をもとにした評価を行なった。さらに、評価結果をもとに提言と教訓の共有を行なった。JICA 評価ガイドラインによる評価5項目の説明は以下の通りである。

評価5項目	説明
妥当性	開発援助と、ターゲットグループ・相手国・ドナーの優先度並びに政策・方針との整合性の度合い。
有効性	開発援助の目標の達成度合いを測る尺度。
効率性	インプットに対するアウトプット（成果）（定性並びに定量的）を計測する。開発援助が期待される結果を達成のために最もコストのかからない資源を使っていることを示す経済用語。最も効率的なプロセスが採用されたかを確認するため、通常、他のアプローチとの比較を必要とする。
インパクト	開発援助によって直接または間接的に、意図的または意図せずに生じる、正・負の変化。開発援助が、地域社会・経済・環境並びにその他の開発の指標にもたらす主要な影響や効果を含む。
持続性	ドナーによる支援が終了しても、開発援助による便益が継続するかを測る。開発援助は、

評価5項目	説明
	環境面でも財政面でも持続可能でなければならない。

2-3 調査日程

日本側の評価調査団は2015年4月16日から4月25日までの期間で、中国側の評価調査団は、4月18日から4月24日まで調査を行った。

月日	時間	行程	宿泊地
4月16日(木)	13:55	羽田発	北京
	17:25	北京着	
4月17日(金)	10:00～終日	JICA 中国事務所にて会議	
4月18日(土)	9:22～13:57	北京－信陽 G571	信陽
	14:30～15:30	信陽－董寨 移動	
	15:30～17:30	董寨保護区管理局及びトキ人工飼育センターの訪問	
	17:30～18:30	董寨 - 信陽 移動	
4月19日(日)	8:30～9:30	信陽(ホテル) - 董寨 移動	西安
	9:30～10:00	野生トキの観察	
	10:30～12:00	董寨霊鼎峰茶葉合作社の訪問	
	13:30～14:30	董寨 - 信陽 移動	
	15:17～19:15	信陽東 - 西安北(G818)	
	19:40～20:20	西安北 - ホテル 移動	
4月20日(月)	AM	洋県プロジェクト関係者へのインタビュー(鳥類モニタリング、環境教育、生計向上分野)	
	PM	洋県プロジェクト関係者へのインタビュー〔自然環境体験ツアー(エコツアー)〕	
4月21日(火)	AM	寧陝県プロジェクト関係者へのインタビュー	
	13:30～15:30	報告書団内協議	
4月22日(水)	終日	報告書協議	
4月23日(木)	終日	報告書協議	
4月24日(金)	8:30～12:00	第5回JCCの開催及び署名式典	
	午後	プロジェクト専門家との打ち合わせ	
4月25日(土)	6:00～7:00	ホテルー空港	
	8:00～15:55	西安－上海 上海－成田 MU521	

2-4 調査の結果

現地調査期間中に、聞き取り調査と各関係者との協議、各種の資料レビュー、現場視察などを行った。レビューの結果を和文と中文の合同終了時評価調査報告書として取りまとめ、どちらも正として日本側および中国側のレビュー調査団団長によって署名された。報告書は、現地調査の終盤に開催されたJCCに提出し、正式に受け入れられた(和文は添付資料1、中文は添付資料2)。

第3章 事業実績

本章では、PDMにある指標に関連する事業実績を記述する。

3-1 投入の実績

日本側・中国側のプロジェクトに対する投入の実績は以下のとおりである。

(1) 中国側

- ・カウンターパート（C/P）配置：34名（2015年3月末現在）
内訳：林業科学研究院全国バンディングセンター2名、陝西省林業庁5名、陝西漢中トキ国家級自然保護区管理局10名、寧陝県6名、河南省林業庁2名、河南董寨国家級自然保護区管理局9名、運転手1名
- ・予算措置 総額：1,261万元（2015年3月現在）（C/P活動費、プロジェクト事務経費、供与機材維持管理費、トキ順化ケージ用地・施工費、運転手人件費等）
- ・プロジェクト事務局：全国バンディングセンター

(2) 日本側

- ・長期専門家：合計 165人月（MM）（2015年9月プロジェクト終了までの見込み）
 1. チーフアドバイザー 60MM
 2. 業務調整/環境教育 57MM
 3. 鳥類保護 48MM
- ・短期専門家：合計 25MM
鳥類保護、参加型開発分野 2名
- ・資機材供与：823万元（トキ順化ケージ建設資材3カ所、四駆車3台、ミニバン1台、ピックアップ車3台、モニタリング用機材等）
- ・在外強化費：1,164万元（2015年3月末までの実績）
試験施工費、技術研修費、通訳
- ・C/P本邦研修：26名

3-2 活動の実績

3-2-1 成果1の達成状況

成果1	指標
環境情報（トキを含む自然環境および社会環境）が整備される。	1.1 環境情報に関する報告書が作成される。 1.2 自然環境情報の管理・共有の仕組みと改善方法をC/P職員が明確に説明できる。

3 サイトのトキの生息環境に関する基礎調査、洋県及び寧陝県のモデル事業実施対象村の社会環境基礎調査が行われ、これらの報告書はC/P機関に配布された。

モニタリング情報の管理と共有については、羅山県董寨ではプロジェクト指導による情報記録モデルが導入され、洋県、寧陝県でも参考にされた。また、合同モニタリング研修会、プロジェクト定例会等を通じて各サイトのトキの生息・繁殖状況等がC/P職員に共有された。各サイト間の情報共有・技術交流の場を引き続き確保することにより、情報整備と共有の更なる強

化が期待される。また、C/P 職員が運用するモニタリングデータ管理システムが構築されており、C/P からその仕組みや改善方法に関する説明を受けた。

3-2-2 成果2の達成状況

成果2	指標
トキの野生復帰を行う体制が構築される。	2.1 ケージや湿地環境、ドジョウ養殖施設、モニタリング機材など、事業を通じて整備されたハードウェアが適正に利用・維持管理される。 2.2 中堅のモニタリング技術者が 20 人育成される（研修や実地訓練の結果を実践している）。

プロジェクトが整備・提供した順化ケージ、水利施設（修復）、ドジョウ養殖施設、モニタリング機材などの施設や機材は、適正に利用・維持管理がなされている。順化ケージは、3 サイトにおいてトキの順化飼育に利用されている。特に、プロジェクトで支援した董寨では2回の放鳥、野生下での繁殖にも成功しており、野生復帰を行う体制が整備された。修復水路等はプロジェクトにより整備がなされ、現在も C/P 機関もしくは村落により維持管理され、農家等の生産活動に貢献している。ドジョウ養殖施設は当初技術的な課題等があったが現在は解決し、事業農家により使用されている。保護区の継続的な買取りが、農家の経営意欲維持に貢献している。また、周辺の農家数軒でも生産が始められた。

トキモニタリング技術者は、研修会や現地指導により能力が向上し、現在各サイトにおいて業務を担っている。洋県 13 名、寧陝 2 名、董寨 6 名の計 21 名の中堅技術者が研修等に参加し、引き続き業務に従事している。特にバンディングにおける個体番号の表記手法の改善により、サイト毎の野生個体の識別が可能となり、保護対策に必要なさまざまな情報が得られるようになった。モニタリングチームは、限られた人員や予算、装備の中で、任務達成に努力している。

3-2-3 成果3の達成状況

成果3	指標
住民参加型事業のモデルが構築される。	3.1 少なくとも 6 種類のモデル事業が提案され、モデル事業やその受益者の選定方法や選定結果に関係者が賛成する。 3.2 添付資料 1、2 別添資料 01 に詳細を記載。

3 サイトで 7 つのモデル事業が実施された。洋県では有機梨栽培事業が草坝村で実施され、研修を通じて育成された農家が他の農家に技術指導をする等の波及効果がみられる。また、4 地区で水路等の復旧事業を実施し、合わせて 300 戸、380 ムーの水田が回復・修復された。

寧陝県では、寨沟村で有機板栗・生薬（猪苓、天麻）栽培、親子自然体験活動等のモデル事業が実施された。高収益が期待される猪苓は栽培農家が開始当初の 11 農家から 50 農家に増加、板栗、天麻栽培も栽培農家数は安定している。非営利組織（Non-Profit Organization : NPO）との連携による親子自然体験活動は、参加者の支持により継続され、村に定着してきている。また、寨沟村、朱家嘴村で水路修復事業を実施、計 90 戸、90 ムーの水田が回復・改善され、棚田の景観が回復した。寨沟村では合作社による無農薬米の契約栽培が 140 ムーの水田で実施されている。

董寨では合作社の茶園で有機茶栽培モデル事業が実施された。プロジェクトは継続的な技術研

修とともに、メタン液肥運搬車、殺虫灯等の資材・機材を提供、さらに茶摘みツアーも試行し、栽培技術の向上と販売ルートの多角化を支援した。先端の有機茶栽培基地として研究機関等の研修会が行われ、周辺地域から多くの視察を受け入れている。供与した資機材は合作社により継続的に利用されている。

*15 ムー＝1ha

3-2-4 成果4の達成状況

成果4	指標
トキを含む自然環境保全に関する関係者の意識が向上する。	4.1 少なくとも 20 人の教師や環境教育の人材が、作成されたガイドブックやマニュアル、あるいは教材などを適正に活用・説明できる。 4.2 (洋県) C/P 機関やトキ愛護団体が環境教育・宣伝に関するプロジェクトの提案を自主的に実施できる。 (寧陝) 環境教育がトキ生息地の学校教育の中(特にカリキュラムの中の自由時間のようなものの中)で定例化する。 (董寨) 霊山鎮の小学校の教師の少なくとも 10 名が、トキの生態に関して説明できる。 (董寨) バードウォッチングのコースが来訪者に有効に利用される。 4.3 ウェイボー(中国最大の SNS)の登録者数が 2,000 人を超える。 4.4 セミナー・シンポジウムに参加した人の 80%がイベントに総合的に満足する。

3 サイト合計で 29 名の小学校教師等の環境教育人材がプロジェクトで作成した教材を活用した説明や解説を行った。作成した教材・ガイドブック等は保護区、学校、村落等での環境教育・宣伝活動で利用されている。

広報は、SNS への登録者が 2,300 名を超え、セミナー・シンポジウム参加者満足度は高いことが確認された。寧陝でのモデル事業成果交流会、董寨の有機茶栽培モデル事業報告会は県政府のウェブサイトでも紹介された。

洋県では、保護区職員がプロジェクト導入の宣伝普及活動を実施できるようになった。寧陝県では、小学校での環境教育プログラムがカリキュラムの一環として定期的実施されている。董寨では、11 の小学校を対象としてトキ解説を実施しており、参加した教師がトキの生態について初歩的な説明ができるようになった。バードウォッチングのコースは来訪者に継続的に利用されている。プロジェクトは案内解説版の設置を支援している。

3-3 プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標	指標
対象地域において、人とトキの共生に向けた環境が整備される。	1. モデル事業を実施した村の少なくとも 50%の住民が、プロジェクト関係機関が実施するトキ保護と地域住民の参加型モデル事業に対して総合的に満足する。

	2. トキ保全に携わる第三者専門家が、事業対象地において人とトキの共生環境が総合的に改善したと判断する。 3. トキ保護や農業、観光を担当する各当局、農業合作社、「農家楽」経営者、観光事業者、教育機関、民間団体などが、人とトキの共生環境づくりに関するテーマ毎（有機農業促進、エコツーリズム振興、環境教育推進、水田・冬水田拡大など）の協議を行う。
--	---

成果4項目はいずれも達成が見込まれており、プロジェクト目標は協力期間終了までにおおむね達成されると判断できる。

第三者評価調査対象の村の評価は高く、ヒアリングを行った村の満足度はいずれも高かったことから、人とトキの共生環境の改善に貢献したと判断できる。

関係機関・関係者による共生環境づくりの協議については、モデル事業実施地区ごとに成果報告会・交流会を複数回開催し、県政府、民間団体、企業・合作社等への成果波及を図っている（洋県有機梨栽培、寧陝中薬材栽培・水田回復・自然体験、董寨有機茶栽培）。

3-4 上位目標の達成予測

上位目標	指標
対象地域およびその他の関連地域において、人とトキの共生モデルの発展と普及を通じて、中国の国家環境保護計画の推進と里山イニシアティブの実施に貢献する。	1. 事業で提言された内容が関連の保全政策に反映される。 2. トキの野生復帰とモニタリング及びデータ管理など技術資料が手引書化され、他地域でも参照される。 3. 事業対象地での取り組みが、他の地域の関係者に参照される。 4. トキ保全の取り組みが国際的なイベントで少なくとも年に1回継続的に発表される。

上位目標は、技術資料の手引書化等プロジェクト期間中に出される成果が継続的に活用されることが前提となる。国際的なイベントでの発表はプロジェクト期間中に行われている。プロジェクト成果の活用が見込みがプロジェクト最終成果発表会等を通じて広く共有され、活用方法等に関して議論がなされれば、プロジェクト終了後の達成見込みが一定程度見通せると思われる。

3-5 事業実施プロセスの検証

3-5-1 プロジェクトサイトの選定と連携

プロジェクトはトキの放鳥計画がある3カ所を活動サイトとした。活動はサイト毎に計画を策定し事業を進めた。プロジェクトサイト間の技術交流、情報共有等がプロジェクトを通じて促進された。情報交換・共有のための仕組みや体制づくりはこれからである。

3-5-2 プロジェクトオフィスの設置

プロジェクトオフィスは、中国側事務局である北京全国鳥類バンディングセンターが陝西省西安に設置された。西安事務所の設置は、陝西省林業庁、洋県、寧陝県等のC/Pと意思疎通を機動的に行うことに貢献した。他方、西安事務所は、全国鳥類バンディングセンター内の北京事務所と物理的な距離があったが、両事務所間で密接な連絡を取ったことによりプロジェクトは順調に進捗した。

3-5-3 外国人立ち入り制限に対する対応

プロジェクトサイト2カ所（陝西省洋県、寧陝県）では外国人立ち入り制限があり、日本人専門家の立ち入りには事前許可を得る必要があった。プロジェクト前半は、関係者の尽力により活動に大きな影響を与えることなく進めることが出来た。一方、プロジェクト後半は同許可取得が難しくなり、国家林業局をはじめとした中国側の各方面への働きかけにも関わらず、当該サイトでは日本人専門家による直接の技術移転が困難となった。プロジェクトの運営方法を日本人専門家による技術指導から、中国側 C/P、プロジェクトスタッフ及び地元の専門家による技術指導に変更する必要が生じた。

日本人専門家による直接指導が難しくなった一方で、日本の里山再生等により培ってきた多様な主体の参加による組織運営・事業管理方法を C/P に対して伝える効果があった。

3-5-4 効果的な広報活動

プロジェクトは数多くの広報ツールを活用して積極的な発信を行った。プロジェクト活動の四季報やウェイボー（SNS）での発信、地元の小学生が参加するトキ絵画コンテスト、絵本の読み聞かせ等、プロジェクト活動を周知して環境教育効果を得るために積極的な取り組みを行った。また、広報により自然環境ツアーの実施団体とのコネクションを得られ、地域住民からトキ目撃情報が提供される等の効果もあった。プロジェクトが作成したトキのデザインのエコバックやグッズは地域の環境教育や国際会議等の発表において有効に活用された。

第4章 評価結果

評価5項目による評価結果の概要は以下の通りである。

4-1 妥当性

高いと評価。本プロジェクトは、日中共同トキ保護計画の目的と方針、方法と一致しており、中国の国家環境保護第12次五カ年計画、野生動物保護法、トキ保護に関する政策・施策などとも合致している。また、生物多様性条約（愛知目標、SATOYAMA イニシアティブ）やラムサール条約などに対する両国の国際的なコミットメントを扶助する事業である。更に、JICAは中国における「環境問題等地球規模の問題に対処するための協力」を重視しており実施の意義は高い。

4-2 有効性

高いと評価。地域住民を含む関係者は、モデル事業や啓発活動を通じて、トキの生息環境の改善と生計向上や地域振興を両立することの重要性を更に深く理解するようになったことが現地調査結果から判明した。また、モデル事業等は住民から支持を得て、より積極的に取り組みに参加する者が現れてきており、本プロジェクトが提示するモデルの有効性が確認できる。有機農業振興や水田の回復、野生のトキのモニタリング体制強化などは各サイトで着実な成果が出ている。政府、教育機関、住民等が協力して取り組んでおり、地域の生態系に配慮した農業の推進や、水路等の確保によるトキの生息環境の改善、環境教育を通じた環境意識の改善効果が確認でき、プロジェクト目標である「人とトキが共生できる環境づくり」にプロジェクトが貢献したといえる。モデル事業対象地における、有機認証取得を促進する自治体補助金や農業合作社の契約栽培が住民参加型事業モデル構築を促進した。

4-3 効率性

やや高いと評価。プロジェクトは、中国国内の人的リソースを有効に起用しており、限られた財源の中で効率的な投入をした。日本人専門家の活動の制約も、現地スタッフにより大部分がカバーされた。また、董寨のトキモニタリング活動は、最後の1年間の技術指導は日本人専門家を派遣せずに全国鳥類バンディングセンターのC/Pが代行した。トキの順化ケージの建設では、プロジェクトが資材の一部を供与し、外務省の草の根無償、中国政府による建設費の負担などを組み合わせた効率的な投入が確認された。供与機材のなかには、当初使用状況などを記録していないものもあったが、多くは有効に活用されており、公共性を担保するために一部の資機材は農業合作社を通じて供与・管理し、受益農民と協定書を結ぶなどの工夫を行っている。モデル事業による生計向上や環境教育活動は、トキ保護施策に対する農民及びモデル事業関係者の支持を高めたと判断される。

一方、ニーズと費用対効果に留意し、事業インプットの利用状況や効果をモニタリングすれば、効率性はさらに改善する可能性がある。

日本人専門家やC/P職員が適正に配置され、その技術力が効率的に活用されているが、中国における外国人の訪問に関する規定から、一部地域における日本人専門家の行動が制約されたことが、活動の効率性に一定程度影響を与えた。

4-4 インパクト

高いと評価。生計向上活動等の波及効果は、寧陝県寨沟村や羅山県董寨で有機農業とエコツーリズムを軸にした村づくり事業が合作社により進められており、また、董寨では羅山県政府が今後5年間で県内のすべての茶の栽培を有機栽培に転換する方針を示しているなど進展がみられる。

トキの野生復帰サイトが、プロジェクト実施期間中に2カ所から6カ所に増加したこと、寧陝県でプロジェクトサイトの省級自然保護区設立手続きが進められていることなどはプロジェクトによる間接的なインパクトと評価できる。野生復帰とモニタリング技術については、C/P 執筆のハンドブックが作成されており、今後、サイト外を含めた研修会の開催等により、当該技術の波及が期待される。

プロジェクトが作成した環境教育マテリアル等は、保護区職員や地域の教員によって引き続き活用されており、寧陝県では学校の正規授業に盛り込まれる例も見られた。

また、プロジェクトによる貢献や取り組みを対外的に発信しており、中国トキ保護 30 周年シンポジウム（2011 年）、日中韓豪合同二国間渡り鳥保護会合、アジア湿地シンポジウム、ラムサール条約第 11 回締約国会議（2012 年）、第 16 回世界鳥類学会、世界公園会議、日中韓トキ会議、日中韓豪合同二国間渡り鳥保護会合（2014 年）などにおいてプロジェクト専門家や C/P が事例紹介をした。

4-5 持続性

中程度と評価。プロジェクト成果の持続性を確保するためには、「人とトキの共生」に向けた関係者の理念の転換、技術の定着と有効活用及び人材の育成が核となる。

技術交流や研修事業などの能力向上は確認されている。C/P は一部人事異動があったが、継続的に人員や運営予算が確保されており、組織としての持続性は維持されると見込まれる。また、プロジェクトが供与したトキのモニタリング・飼育機材は各サイトで有効に活用されており、維持管理経費が確保されれば引き続き活用される見込みである。中国側が維持管理経費確保の重要性を今後も認識することで、必要な予算措置がなされると見込まれる。董寨ではプロジェクトが提案したモニタリング手法が導入されており、今後も活用の見込みと期待される。

有機農業振興やエコツーリズムなど、一部モデル事業では、農業合作社や NPO を巻き込んで、商業ベースに乗せるための取り組みが進み、農産物（有機米や有機茶）は商品化まで完了している。地方自治体の農業振興の補助金や農業合作社からの有機農業導入への資金援助は事業の持続性確保のために有効であり、継続が期待される。

順化ケージなど一部の供与資機材や施設については、補修・維持管理計画を明確にし、将来も持続させる必要がある。また、各プロジェクト実施サイトは、サイト間の技術交流や情報共有及び定期交流事業の重要性を認識しており、したがって今後もこの連携体制が続くことが重要である。地方政府においては、環境教育やエコツーリズム等プロジェクトが実施した活動の意義や重要性を認識し、これらの活動主体に対する支援を継続することが期待される。

第5章 結論

日中両国政府及び関係部局の支援のもと、日本人専門家、C/P 職員及び中国国内専門家の多大な尽力により、プロジェクトは計画に沿って実施され、おおむね想定された成果を上げている。事業対象地が分散し、関係機関も多い中で、トキの飼育、順化およびモニタリングに必要な施設を整備し、資機材の充足や研修、実地指導などを通じて C/P 機関のモニタリング等の能力が強化された。また、野生のトキの生息環境改善を担う住民を巻き込み、トキとその生息環境をリソースとした生計向上・地域振興のモデルを示したこと、環境教育の促進による意識の向上や転換は、「人とトキの共生」実現に貢献している。特に河南省羅山県でトキの野生復帰と生態系に配慮した地域づくりが同時進行で顕著な進捗を見せた。

また、中国国内と日本側の双方に対する広報活動にも力を入れており、プロジェクトの存在感を高めるのみならず、市民や意思決定者に対するトキの保護に関する宣伝にも貢献している。日本の地方自治体や研究機関、市民団体など、トキ保護に関係するさまざまな組織へのサポートを行っており、トキの保護を通じた日中の技術交流と友好に貢献している。

さらにプロジェクトは、持続可能な自然資源の利用と管理を実践していく際に SATOYAMA イニシアティブが重要とする視点からのいくつかの取り組みを実施し、同イニシアティブの推進に貢献しつつある。

第6章 提言（本プロジェクト後半の活動に向けて）

6-1 プロジェクト終了までの提言

(1) プロジェクト成果の取りまとめと共有

本プロジェクトはトキと共生するための地域環境づくりのモデルをプロジェクト期間中に提示した。モニタリング技術、生計向上活動、環境啓発活動が今後も継続されると共に、各地で参照されるためには、プロジェクト成果を適切に取りまとめて、広く関係者に共有することが必要である。

プロジェクトとしての提言案のとりまとめ、分野別報告書の作成、各プロジェクトサイトでの共有をプロジェクト終了までに行うべきである。

(2) トキ保護啓発ツールの有効活用

本プロジェクトは、広報ツールとしてトキの絵本等を作成し、トキ保護の重要性を広く伝えるために貢献してきた。プロジェクトが作成した広報ツールの有効活用の方法を残り期間において考えることが必要である。プロジェクトサイトの各県林業局、保護区は今後も地域や学校との関係を継続し、環境教育が継続し、効果を拡大するように尽力することが必要である。また、自然体験ツアーについて、今後も継続的に実施がなされるよう、関係機関が指導者育成や活動フィールドの整備を通じてバックアップすることが期待される。

(3) 供与機材の維持管理体制の確認

JICA が供与した機材は適切な管理のもと、引き続き維持管理がなされるよう、プロジェクトは適切な管理責任者を指名する必要がある。

また、トキ順化ケージ、水田用水路等のプロジェクトが支援したインフラストラクチャーは、トキの生息環境の継続確保のために重要である。今後も維持管理が適切になされるよう予算を確保することが必要である。

(4) 地域づくり分野について

保護区と地域の関係者の協働による事業・活動の継続がトキ保護にとって極めて重要である。また、各プロジェクトサイトにおける活動実施体制をプロジェクト終了時までに強化することや、トキ保護当局が、政府関係機関、小学校、農業合作社、民間団体といった多様な関係者による共働の主軸となり、引き続き調整、実施、支援に積極的な役割を果たすことが重要である。

(5) 生計向上活動の自立的発展の確保

プロジェクトによる対象サイトでの生計向上支援は、有機梨の栽培、有機茶栽培等、自立的に発展している事業も確認されている。今後のトキ生息域拡大に対応して「人とトキが共生できる地域環境」を広げていくためには、プロジェクトの経験を取りまとめたうえで、広く共有することが重要である。プロジェクト残り期間において対応がとられることが期待される。また、長期的な農業推進のためには住民に対する低利で長期の融資が望まれる。

6-2 プロジェクト終了後の提言

調査団は、プロジェクト終了後にトキの保護を継続・拡大するために重要な点を次のとおり提言する。

(1) 情報交換・共有の促進

プロジェクトが実施を支援した定例会が効果的であったことから、プロジェクト終了後も、洋県及び各放鳥実施地区が参加する情報交換会の開催が望まれる。その会合に日本側関係者が参加できれば日中間の技術交流の機会ともなろう。

(2) モニタリング体制の強化

広域的なデータの集計、分析、施策へのフィードバック及び研修などを行うための組織能力の育成が必要となる。

また、ボランティアの育成によるモニタリング活動の強化や、生徒の参加による調査の実施、住民協力の促進をととした多面的なモニタリングの実施が望まれる。そのための人材の育成と活動への支援が必要となる。

(3) モデル事業の定着のための取り組み

エコツーリズム等自然体験ツアーの展開に有効な受入施設の整備が必要である。特に都市の子どもが安心して利用できる施設（キャンプ場・トイレ等）のモデル整備が望まれる。また、有機農業の更なる普及のために、有機・減農薬農産品の販路拡大のための専門家の指導、消費者を対象としたツアーの実施、アンテナショップ開設、研修の実施、マニュアルの整備などが必要である。

(4) 日中トキ保護協力の継続

上記の活動に関連して、トキ生息地の関係者や児童・学生の相互訪問等による国民レベルでの交流を確保することが望まれる。

第7章 他の類似プロジェクトや新規案件形成などに有用な教訓

本プロジェクトは野生生物保護のプロジェクトとして、トキという絶滅危惧種の保護と現地住民の生計向上を密接に結びつけた積極的な試みを行い、今後の類似案件の参考となる大きな成果を挙げた。その過程から導き出された主な教訓を以下に記載する。

(1) プロジェクト広報体制

希少な野生生物の保全等、地域住民の支援や理解を得た上で実施する必要がある事業においては、広報活動は重要なプロジェクト実施ツールである。このプロジェクトでは、開始時点から広報を重要な業務と位置づけ、視覚的な広報素材作成担当のローカル・スタッフを配置し、環境教育担当専門家と共同で迅速に多数の広報素材を作成することにより、住民の環境啓発に大きな効果をもたらした。

(2) 地元リソースの効果的な活用

本プロジェクトが目指す地域環境づくりのニーズはサイトにより多岐にわたり、果樹、茶、生薬栽培やドジョウ養殖などでは地域の条件に対応した専門的技術指導を必要としていたため、地元の専門家リソースを優先的に探して活用した。同活用は、技術的な適合やコスト面で有効であった。

(3) 環境教育所管省庁との連携について

絵本など多様な教材や手法を用いた小学校等における環境教育活動は、子どもたちに歓迎され教育効果をもたらした。この取り組みを継続し、広げるためには、JCCのメンバー等に学校教育関連部局を含めることで、自然環境保全部門と学校教育担当部門が連携しやすい体制を確保することが望ましい。

(4) 生計向上モデル事業の選定について

生計向上のモデル事業の効果を最大化するためには、十分な現況把握と分析を行うことが重要である。このプロジェクトでは、対象サイトの地域住民の生業やニーズ、既存の生計向上への取り組みや製品の販路を的確に把握し、更に、地方政府の政策的支援の可能性を十分に考慮することにより、モデル事業を成功に導いた。各サイトの背景などを十分に考慮して、新たな生計向上手段を導入するだけでなく、地域の住民が経験を有する農業等の在来技術を改善することにより、限られたプロジェクト期間で効果を出すことが可能となる。

第8章 調査団所感

8-1 吉井団員（自然環境保全）所感

今回、終了時評価調査に参加させて頂き、2年前の中間レビュー調査での経験とともに感じたことを、以下に述べさせて頂く。

8-1-1 「人とトキの共生」に対する中国側関係者の意識の向上

トキの保護について、これまで中国での取り組みは、営巣木の保護や繁殖地での農薬の使用制限とそれに対する補償といった規制的な内容が中心であった。これに対し、本プロジェクトは、より積極的にトキの生息環境を改善しつつ農民ら地域住民の生計向上を図ることで、人とトキの共生を実現することを目的として実施された。その具体的取り組みとなった用水路修復による水田復活や有機農業の振興などのモデル事業は、トキ保護のために農民の自発的な環境改善を促すというアプローチの有効性を中国側の関係者に「気づかせる」とともに、農民ら地域住民に「住民参加」という形で受け入れられたという意味において顕著な成果をあげたと言えるだろう。

かつて日本でも、野生生物保護は人の暮らしと対立するように受け止められていた時期があった。しかし、今回ヒアリングした農民ら地域住民は異口同音に、自分たちの生活向上とトキの保護の両方が大事だと言い切った。それはプロジェクトで実施したモデル事業がトキの保護に資するだけでなく、自分たちの収入増につながることを住民に知らしめたからであろう。また、本プロジェクトによる支援が押しつけのものではなく、それぞれの地域において真に必要とされる支援であったこと、あるいは、地域に元々埋まっていた *seeds* を掘り出して育てたからということもあるだろう。前者は地域にとって不可欠な施設であるにも関わらず資金が無く放置されていた灌漑用水路の修復による水田の復活であり、後者はもともと意欲を持っていた教師や NPO を巻き込んだ環境教育やエコツアーがそれに当たる。有機農法による茶や梨の栽培は、地域ぐるみで有機農業を振興していたことや、より安定した収入を得るために差別化を模索していたことが推進力になったもので、両方の要素が組み合わさったものと言えるかもしれない。

8-1-2 トキ保護対策の進展

直接的なトキの保護に関しては、2つの特筆される成果をあげることができる。1つはバンディングにおける個体番号の表記方法の改善であり、もう1つは董寨での野生復帰体制の整備である。

本プロジェクト以前には、野生トキが生息する洋県と寧陝県の2つのサイトでは、バンディングの際、統一された記号、数字のリング装着が行われておらず、野外のモニタリングでは個体の識別はもとより、リングを装着した個体がどのサイトを出自とするかも判別できなかった。これに対し本プロジェクトで機材と技術の提供が行われた結果、他の野生復帰サイトを含め、統一ルールによるカラーリングの装着が行われるようになった。

このことで、リングを装着した野外で観察される個体の識別が可能となった結果、洋県を出自とするメスが寧陝県に飛来し番いを形成したことが確認されるなど、早速その効果が現れて

いる。さらには、個体識別のモニタリングデータが継続的に集積されることで、生存率や繁殖率など個体群動態の把握に必要なパラメーターが解明されつつあり、今後の野生トキの保護にとって必要不可欠で重要な進展となった。

また、河南省董寨では2013年、2014年の2回にわたって、日本と北京動物園で繁殖した個体を野生順化させたうえで放鳥し、その翌春から早くも野生下での繁殖にも成功している（2014年1番、2015年4番）。本プロジェクトでは、大使館の「草の根無償資金協力」と連携した順化ケージの整備、全地球測位システム（Global Positioning System : GPS）発信機での追跡を含むモニタリングとそのデータ整理、周辺小学校での普及啓発等に、資機材提供、専門家指導、訪日研修などさまざまな手法で野生復帰を支援してきた。プロジェクト以前から保護や野生復帰の実績があり、ある程度手法が確立している他の2サイトに比べ、事業の計画段階から日本の技術が導入された董寨では、より合理的な野生復帰の体制整備と取り組みが行われており、今回の調査での保護区職員によるプレゼンテーションでも、経過と成果報告が理路整然と行われていたことが印象的であった。また、小学校での普及啓発活動が繁殖個体の情報提供の契機となるなど取り組みが目に見えるかたちで成果につながっており、この董寨の経験が今後、他の2サイトを含め中国国内での野生復帰事業にとって良いモデルになるものと期待される。

8-1-3 取り組み継続の必要性について

(1) プロジェクトサイト間の技術交流、情報共有の継続

プロジェクト終了後の各サイト間の技術交流や情報共有の場の継続については、国家林業局は必要性を認めながらも、それに必要な予算は各保護区で確保すべきとして最後までコミットを避けていた。野生復帰に関わる各サイトが一同に会したのは、プロジェクト期間中に開催された30周年シンポジウムが初めてだったとの話もあり、現状ではプロジェクト終了とともに、各サイト間の横の交流・連絡も途絶えてしまうおそれがある。継続していくための仕組みや体制づくりはこれからの課題であるが、国際協力をてこにしつつ、これまでのような技術交流、情報共有の場を継続していくことが望まれる。

(2) モデル事業の定着支援

また、モデル事業では、それによってトキを保護することが経済的にも有効であることを参加した地域住民が「気づき」はじめたところであり、今後、これを定着させて「確信」に結びつけるとともに、他の地域住民や野生復帰サイトにも広げることが重要である。しかし、それはまだ端緒についたばかりであり、プロジェクトや（それを受けて中央から配布される別枠予算を含めた）地方政府の補助金などの支援が頼りという危うさを感じさせるものも無くはない。董寨がこれまでの成果を踏まえ、5年以内に100%有機茶への転換を目標に掲げているように、今後の数年間がモデル事業の定着に重要な時期であり、プロジェクトの継続を含め、引き続き人とトキの共生に向けた環境の整備への努力が強く期待される。

(3) 開発した手法の改良発展と他地区への波及

プロジェクトが導入した親子自然体験活動や絵本を使った環境教育の手法は、子どもたちや保護者、教師の好評を得、大きな効果をあげているが、中国では新たな試みであり、今後他地区への波及が期待される。

添 付 資 料

添付資料 1：ミニッツ（合同終了時評価調査報告書、和文）

添付資料 2：ミニッツ（合同終了時評価調査報告書、中文）

人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクトに係る
終了時評価調査協議議事録

人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト（以下「プロジェクト」という）に関し、日中双方で実施成果の確認、事業評価、残り期間の課題および今後の方向性の確認を行うことを目的として、日本側独立行政法人国際協力機構神内圭及び中国側国家林業局劉立軍を団長とする合同評価調査団を結成し、2015年4月16日から2015年4月24日までの日程をもって調査を実施した。

合同評価調査団は、日中両国関係者への質疑応答や現地調査を行い、その結果、ここに添付する終了時合同評価報告書に記載する諸事項について合意するとともに、評価調査結果について当該プロジェクト合同調整委員会並びに双方の政府に対して報告することに合意した。

本協議議事録は、等しく正文である日本語、中国語による各2通を作成した。

2015年4月24日 中国 西安

神内 圭

神内 圭

日本国 独立行政法人国際協力機構
地球環境部
終了時評価調査団長

劉立軍

劉 立軍

中国国家林業局
对外合作項目センター
終了時評価調査団長

添付資料

中華人民共和国
人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト
終了時合同評価調査報告書

西 安

2015 年 4 月 24 日

第1章 調査の概要

1.1 序文

2010 年 1 月 29 日に日本と中華人民共和国政府との間で署名された討議議事（以下、「R/D」）に基づき、2010 年 9 月 25 日から 5 年間の「人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト」（以下、「プロジェクト」という）が開始された。

現在のプロジェクト・デザイン・マトリックス（以下、「PDM」）バージョン 03 によれば、プロジェクトの目標は以下のとおりである。

【プロジェクト目標】

プロジェクト対象地域において、人とトキの共生に向けた環境が整備される。

【上位目標】

対象地域およびその他の関連地域において、人とトキの共生モデルの発展と普及を通じて、中国の国家環境保護計画の推進と里山イニシアティブの実施に貢献する。

独立行政法人国際協力機構（以下、「JICA」）は、技術協力を効果的に実施するために、プロジェクト管理手法としてプロジェクト・サイクル・マネージメント（以下、「PCM」）手法を採用している。本報告書は、PCM 手法の一環として、プロジェクト協力期間終了の約半年前で実施された終了時評価の概要報告書である。

1.2 調査の目的

本調査の目的は以下の通りである。

- (1) プロジェクト活動の実施成果の確認
- (2) 評価 5 項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）の視点からの事業評価
- (3) プロジェクトの残り期間の課題及び今後の方向性についての確認

上記調査を日中関係者の合同で実施し、その結果を終了時合同評価調査報告書として取りまとめ、合同調整委員会（以下、「JCC」）において内容を提出する。

今回の終了時評価は、2013 年 5 月に作成された PDM バージョン 03（別添資料 1）と Plan of Operations バージョン 04（以下、「PO」、別添資料 2）をもとに実施された。

1.3 終了時評価調査団員

(1) 日本側

氏名	分野	所属	出張期間
神内圭	総括	JICA 地球環境部森林・自然環境グループ自然環境第一チーム 課長	4/16-25
吉井雅彦	自然環境保全	元環境省自然環境局環境情報分析官	4/16-25
三戸森宏治	評価計画	JICA 地球環境部森林・自然環境グループ自然環境第一チーム	4/16-25
吉田 進一郎	評価分析（1）	JICA 中国事務所	4/17-24
李 飛雪	評価分析（2）	JICA 中国事務所	4/17-24

(2) 中国側

氏名	所属	役職
----	----	----

劉 立軍	国家林業局对外合作項目センター	副主任
路 宝忠	陝西漢中トキ国家級自然保護区管理局	元副局長
熊 林春	河南省信陽市野生動植物保護協会/河南省信陽市野生動植物保護管理ステーション	事務局長、上級エンジニア

1.4 評価方法

1.4.1 評価手順

日本側、中国側双方による合同評価調査団は、PDM(別添 1)、詳細活動計画表(以下、「PO」)(別添 2)、自己評価表、質問票等の資料分析、プロジェクト関係機関及びプロジェクト関係者への聞き取り調査及び一部のサイト調査等を行った。これらの結果をもとに、終了時合同評価報告書を作成した。

1.4.2 調査項目

➤ プロジェクトの実績の確認

R/D 及び PDM の計画に沿って、プロジェクトの投入、成果、プロジェクト目標が達成された度合いを検証する。

➤ 実施プロセスの検証

プロジェクトの実施過程全般を見る視点であり、活動が計画通り行われているか、また、プロジェクトのモニタリングやプロジェクト内のコミュニケーションが円滑に行われているかを検証する。

➤ 評価 5 項目

- (1) 妥当性：
開発援助と、ターゲットグループ・相手国・ドナーの優先度ならびに政策・方針との整合性の度合い。
- (2) 有効性：
開発援助の目標の達成度合いを測る尺度。
- (3) 効率性：
インプットに対する成果（定性ならびに定量的）を計測する。開発援助が期待される結果を達成するために最もコストのかからない資源を使っていることを示す経済用語。もっとも効率的なプロセスが採用されたかを確認するため、通常、他のアプローチとの比較を必要とする。
- (4) インパクト：
開発援助によって直接または間接的に、意図的または意図せずに生じる、正・負の変化。開発援助が、地域社会・経済・環境ならびにその他の開発の指標にもたらす主要な影響や効果を含む。
- (5) 自立発展性：
ドナーによる支援が終了しても、開発援助による便益が継続するかを測る。開発援助は、環境面でも財政面でも持続可能でなければならない。

第2章 事業実績

本章では、PDM にある指標に関連する事業実績を全般的に記述する。

2.1 投入の実績

日本側・中国側のプロジェクトに対する投入の実績は以下のとおりである。

中国側

- ・カウンターパート（以下「C/P」）配置：34名（2015年3月末現在）

内訳：林業科学研究院全国バンディングセンター2名、陝西省林業庁5名、陝西漢中トキ国家級自然保護区管理局10名、寧陝県6名、河南省林業庁2名、河南董寨国家級自然保護区管理局9名、運転手1名

- ・予算措置 総額：1,261 万元（2015 年 3 月現在）（C/P 活動費、プロジェクト事務経費、供与機材維持管理費、トキ順化ケージ用地・施工費、運転手人件費等）

- ・プロジェクト事務局：全国バンディングセンター

日本側

- ・長期専門家：合計 165MM（2015 年 9 月プロジェクト終了までの見込み）

1.チーフアドバイザー 60 MM

2.業務調整/環境教育 57 MM

3.鳥類保護 48 MM

- ・短期専門家：合計 25MM

鳥類保護、参加型開発分野 2 名

- ・資機材供与：823 万元（トキ順化ケージ建設資材 3 か所、四駆車 3 台、ミニバン 1 台、ピックアップ車 3 台、モニタリング用機材等）

- ・在外強化費：1,164 万元（2015 年 3 月末までの実績）

試験施工費、技術研修費、通訳

- ・C/P 本邦研修：26 名

2.2 活動の実績

2.2.1 成果1の達成状況

成果 1	指標
環境情報(トキを含む自然環境および社会環境)が整備される。	1.1 環境情報に関する報告書が作成される。 1.2 自然環境情報の管理・共有の仕組みと改善方法を C/P 職員が明確に説明できる。

3 サイトのトキの生息環境に関する基礎調査、洋県及び寧陝県のモデル事業実施対象村の社会環境基礎調査が行われ、これらの報告書はカウンターパート機関に配布された。

モニタリング情報の管理と共有については、董寨ではプロジェクト指導による情報記録モデルが導入され、洋県、寧陝県でも参考にされた。また、合同モニタリング研修会、プロジェクト定例会等を通じて各サイトのトキの生息・繁殖状況等がカウンターパート職員に共有された。各サイト間の情報共有・技術交流の場を引き続き確保することにより、情報整備と共有の更なる強化が期待される。

2.2.2 成果 2 の達成状況

成果 2	指標
トキの野生復帰を行う体制が構築される。	2.1 ケージや湿地環境、ドジョウ養殖施設、モニタリング機材など、事業を通じて整備されたハードウェアが適正に利用・維持管理され

	る。 2.2 中堅のモニタリング技術者が 20 人育成される（研修や実地訓練の結果を実践している）。
--	---

プロジェクトが整備・提供した順化ケージ、水利施設（修復）、ドジョウ養殖施設、モニタリング機材などの施設や機材は、適正に利用・維持管理がなされている。順化ケージは、3 サイトにおいてトキの順化飼育に利用されている。特に、プロジェクトで支援した董寨では 2 回の放鳥、野生下での繁殖にも成功しており、野生復帰を行う体制が整備された。修復水路等はプロジェクトにより整備がなされ、現在もカウンターパート機関若しくは村落により維持管理され、農家等の生産活動に貢献している。ドジョウ養殖施設は当初技術的な課題等があったが現在は解決し、事業農家により使用されている。保護区の継続的な買取りが、農家の経営意欲維持に貢献している。また、周辺の農家数軒でも生産が始められた。

トキモニタリング技術者は、研修会や現地指導により能力が向上し、現在各サイトにおいて業務を担っている。特にバンディングにおける個体番号の表記手法の改善により、サイト毎の野生個体の識別が可能となり、保護対策に必要な様々な情報が得られるようになった。モニタリングチームは、限られた人員や予算、装備の中で、任務達成に努力している。

2.2.3 成果 3 の達成状況

成果 3	指標
住民参加型事業のモデルが構築される。	3.1 少なくとも 6 種類のモデル事業が提案され、モデル事業やその受益者の選定方法や選定結果に関係者が賛成する。 3.2 別添資料 01 に詳細を記載。

3 サイトで 7 つのモデル事業が実施された。洋県では有機梨栽培事業が草坝村で実施され、研修を通じて育成された農家が他の農家に技術指導をする等の波及効果がみられる。また、4 地区で水路等の復旧事業を実施し、合わせて 300 戸、380 ムーの水田が回復・修復された。

寧陝県では、寨沟村で有機板栗・生薬（猪苓、天麻）栽培、親子自然体験活動等のモデル事業が実施された。高収益が期待される猪苓は栽培農家が開始当初の 11 農家から 50 農家に増加、板栗、天麻栽培も栽培農家数は安定している。NPO との連携による親子自然体験活動は、参加者の支持により継続され、村に定着してきている。また、寨沟村、朱家嘴村で水路修復事業を実施、計 90 戸、90 ムーの水田が回復・改善され、棚田の景観が回復した。寨沟村では合作社による無農薬米の契約栽培が 140 ムーの水田で実施されている。

董寨では合作社の茶園で有機茶栽培モデル事業が実施された。プロジェクトは継続的な技術研修とともに、メタン液肥運搬車、殺虫灯等の資材・機材を提供、さらに茶摘みツアーも試行し、栽培技術の向上と販売ルートの多角化を支援した。先端の有機茶栽培基地として研究機関等の研修会が行われ、周辺地域から多くの視察を受け入れている。供与した資機材は合作社により継続的に利用されている。

*15 ムー＝1ha

2.2.4 成果 4 の達成状況

成果 4	指標
トキを含む自然環境保全に関する関係者の意識が向上する。	4.1 少なくとも 20 人の教師や環境教育の人材が、作成されたガイドブックやマニュアル、或いは教材などを適正に活用・説明できる。 4.2 （洋県）C/P 機関やトキ愛護団体が環境教育・宣伝に関するプロジェクトの提案を自主的に実施できる。 （寧陝）環境教育がトキ生息地の学校教育の中（特にカリキュラムの中の自由時間のようなものの中）で定例化する。 （董寨）霊山鎮の小学校の教師の少なくとも 10 名が、トキの生態に関して説明できる。 （董寨）バードウォッチングのコースが来訪者に有効に利用される。 4.3 ウェイボー（中国版フェイスブック）の登録者数が 2,000 人を超える。

	4.4 セミナー・シンポジウムに参加した人の 80%がイベントに総合的に満足する。
--	---

3 サイト合計で 29 名の小学校教師等の環境教育人材がプロジェクトで作成した教材を活用した説明や解説を行った。作成した教材・ガイドブック等は保護区、学校、村落等での環境教育・宣伝活動で利用されている。

広報は、SNS への登録者が 2,300 名を超え、セミナー・シンポジウム参加者満足度は高いことが確認された。寧陝でのモデル事業成果交流会、董寨の有機茶栽培モデル事業報告会は県政府のウェブサイトでも紹介された。

洋県では、保護区職員がプロジェクト導入の宣伝普及活動を実施できるようになった。寧陝県では、小学校での環境教育プログラムがカリキュラムの一環として定期的に実施されている。董寨では、11 の小学校を対象としてトキ解説を実施しており、参加した教師がトキの生態について初歩的な説明ができるようになった。バードウォッチングのコースは来訪者に継続的に利用されている。プロジェクトは案内解説版の設置を支援している。

2.3 プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標	指標
対象地域において、人とトキの共生に向けた環境が整備される。	1. モデル事業を実施した村の少なくとも 50%の住民が、プロジェクト関係機関が実施するトキ保護と地域住民の参加型モデル事業に対して総合的に満足する。 2. トキ保全に携わる第 3 者専門家が、事業対象地において人とトキの共生環境が総合的に改善したと判断する。 3. トキ保護や農業、観光を担当する各当局、農業合作社、「農家楽」経営者、観光事業者、教育機関、民間団体などが、人とトキの共生環境づくりに関するテーマ毎（有機農業促進、エコツーリズム振興、環境教育推進、水田・冬水田拡大など）の協議を行う。

成果 4 項目はいずれも達成が見込まれており、プロジェクト目標は協力期間終了までに概ね達成されると判断できる。

トキ保護と地域住民の参加モデル事業は、第 3 者評価調査の結果やヒアリングの結果から参加した村の満足度は概して高く、人とトキの共生環境の改善に貢献したと判断できる。

関係機関・関係者による共生環境づくりの協議については、モデル事業実施地区ごとに成果報告会・交流会を複数回開催し、県政府、民間団体、企業・合作社等への成果波及を図っている（洋県有機梨栽培、寧陝中薬材栽培・水田回復・自然体験、董寨有機茶栽培）。

2.4 上位目標達成の見込み

上位目標	指標
対象地域およびその他の関連地域において、人とトキの共生モデルの発展と普及を通じて、中国の国家環境保護計画の推進と里山イニシアティブの実施に貢献する。	1. 事業で提言された内容が関連の保全政策に反映される。 2. トキの野生復帰とモニタリング及びデータ管理など技術資料が手引書化され、他地域でも参照される。 3. 事業対象地での取り組みが、他の地域の関係者に参照される。 4. トキ保全の取り組みが国際的なイベントで少なくとも年に 1 回継続的に発表される。

上位目標は、技術資料の手引書化等プロジェクト期間中に出される成果が継続的に活用されることが前提となる。国際的なイベントでの発表はプロジェクト期間中に行われている。プロジェクト成果の活用が見込みが明確となるとプロジェクト終了後の達成見込みが一定程度見通せると思われる。

2.5 事業実施プロセスの検証

2.5.1 プロジェクトサイトの選定と連携

プロジェクトはトキの放鳥計画がある3か所を活動サイトとした。活動はサイト毎に計画を策定し事業を進めた。プロジェクトサイト間の技術交流、情報共有等がプロジェクトを通じて促進された。情報交換・共有のための仕組みや体制づくりはこれからである。

2.5.2 プロジェクトオフィスの設置

プロジェクトオフィスは、中国側事務局である北京全国鳥類バンディングセンター、陝西省西安に設置された。西安事務所の設置は、陝西省林業庁、洋県、寧陝県等のカウンターパートと意思疎通を機動的に行うことに貢献した。他方、西安事務所は、全国鳥類バンディングセンター内の北京事務所と物理的な距離があったが、両事務所間で密接な連絡を取ったことによりプロジェクトは順調に進捗した。

2.5.3 外国人立ち入り制限に対する対応

プロジェクトサイト2か所（陝西省洋県、寧陝県）では外国人立ち入り制限があり、日本人専門家の立ち入りには事前許可を得る必要があった。プロジェクト前半は、関係者の尽力により活動に大きな影響を与えることなく進めることが出来た。一方、プロジェクト後半は同許可取得が難しくなり、国家林業局をはじめとした中国側の各方面への働きかけにもかかわらず、当該サイトでは日本人専門家による直接の技術移転が困難となった。プロジェクトの運営方法を日本人専門家による技術指導から、中国側カウンターパート、プロジェクトスタッフ及び地元の専門家による技術指導に変更する必要が生じた。

日本人専門家による直接指導が難しくなった結果、日本の里山再生等により培ってきた多様な主体の参加による組織運営・事業管理方法をカウンターパートに対して伝える副次的な効果があった。

2.5.4 効果的な広報活動

プロジェクトは数多くの広報ツールを活用して積極的な発信を行った。プロジェクト活動の四季報やウェイボー（SNS）での発信、地元の小学生が参加するトキ絵画コンテスト、絵本の読み聞かせ等、プロジェクト活動を周知して環境教育効果を得るために積極的な取り組みを行った。また、広報により自然環境ツアーの実施団体とのコネクションを得られたり、地域住民からトキ目撃情報が提供される等の効果もあった。プロジェクトが作成したトキのデザインのエコバックやグッズは地域の環境教育や国際会議等の発表において有効に活用された。

第3章 評価結果

評価5項目による評価結果の概要は下表の通り：

3.1 妥当性（高い）

本プロジェクトは、日中共同トキ保護計画の目的と方針、方法と一致しており、中国の国家環境保護第12次五ヵ年計画、野生動物保護法、トキ保護に関する政策・施策などとも合致している。また、生物多様性条約（愛知目標、里山イニシアティブ）やラムサール条約などに対する両国の国際的なコミットメントを扶助する事業である。更に、JICAは中国における「環境問題等地球規模の問題に対処するための協力」を重視しており実施の意義は高い。

3.2 有効性（高い）

地域住民を含む関係者は、モデル事業や啓発活動を通じて、トキの生息環境の改善と生計向上や地域振興を両立することの重要性を更に深く理解するようになった。また、モデル事業等は住民から支持を得て、より積極的に取り組みに参加する者が現れてきており、本プロジェク

トの提示するモデルの有効性が確認できる。有機農業振興や水田の回復、野生のトキのモニタリング体制強化などは各サイトで着実な成果が出ている。政府、教育機関、住民等が協力して取り組んでおり、地域の生態系に配慮した農業の推進や、水路等の確保によるトキの生息環境の改善、環境教育を通じた環境意識の改善効果が確認でき、プロジェクト目標である「人とトキが共生できる環境づくり」にプロジェクトが貢献したと言える。モデル事業対象地における、有機認証取得を促進する自治体補助金や農業合作社の契約栽培が住民参加型事業モデル構築を促進した。

3.3 効率性(やや高い)

プロジェクトは、中国国内の人的リソースを有効に起用しており、限られた財源の中で効率的な投入をした。日本人専門家の活動の制約も、現地スタッフにより大部分がカバーされた。また、董寨のトキモニタリング活動は、最後の1年間の技術指導は日本人専門家を派遣せずに全国鳥類バンディングセンターのカウンターパートが代行した。トキの順化ケージの建設では、プロジェクトが資材の一部を供与し、外務省の草の根無償、中国政府による建設費の負担などを組み合わせた効率的な投入が確認された。供与機材のなかには、当初使用状況などを記録していないものもあったが、多くは有効に活用されており、公共性を担保するために一部の資機材は農業合作社を通じて供与・管理し、受益農民と協定書を結ぶなどの工夫を行っている。モデル事業による生計向上や環境教育活動は、トキ保護施策に対する農民及びモデル事業関係者の支持を高めたと判断される。

一方、ニーズと費用対効果に留意し、事業インプットの利用状況や効果をモニタリングすれば、効率性はさらに改善する可能性がある。

日本人専門家やカウンターパート職員が適正に配置され、その技術力が効率的に活用されているが、中国における外国人の訪問に関する規定から、一部地域における日本人専門家の行動が制約されたことが、活動の効率性に一定程度影響を与えた。

3.4 インパクト(高い)

生計向上活動等の波及効果は、寧陝県寨沟村や羅山県董寨で有機農業とエコツーリズムを軸にした村づくり事業が合作社により進められており、また、董寨では羅山県政府が今後5年間で県内のすべての茶の栽培を有機に転換する方針を示しているなど進展がみられる。

トキの野生復帰サイトが、プロジェクト実施期間中に2か所から6か所に増加したこと、寧陝県でプロジェクトサイトの省級自然保護区設立手続きが進められていることなどはプロジェクトによる間接的なインパクトと評価できる。野生復帰とモニタリング技術については、カウンターパート執筆のハンドブックが作成されており、今後、サイト外を含めた研修会の開催等により、当該技術の波及が期待される。

プロジェクトが作成した環境教育マテリアル等は、保護区職員や地域の教員によって引き続き活用されており、寧陝県では学校の正規授業に盛り込まれる例も見られた。

また、プロジェクトによる貢献や取り組みを対外的に発信しており、中国トキ保護30周年シンポジウム(2011年)、日中韓豪合同二国間渡り鳥保護会合、アジア湿地シンポジウム、ラムサール条約締約国会議(2012年)、第16回世界鳥類学会、世界公園会議、日中韓トキ会議、日中韓豪合同二国間渡り鳥保護会合(2014年)などにおいてプロジェクト専門家やカウンターパートが事例紹介をした。

3.5 持続性(中程度)

プロジェクト成果の持続性を確保するためには、「人とトキの共生」に向けた関係者の理念の転換、技術の定着と有効活用及び人材の育成が核となる。

技術交流や研修事業などの能力向上は確認されている。カウンターパートは一部人事異動があったが、組織としての持続性は確保されている。また、プロジェクトが供与したトキのモニタリング・飼育機材は各サイトで有効に活用されており、維持管理経費が確保されれば引き続き活用される見込みである。董寨ではプロジェクトが提案したモニタリング手法が導入されており、今後も活用の見込みと期待される。

有機農業振興やエコツーリズムなど、一部モデル事業では、農業合作社やNPOを巻き込んで、商業ベースに乗せるための取り組みが進み、農産物（有機米や有機茶）は商品化まで了している。地方自治体の農業振興の補助金や農業合作社からの有機農業導入への資金援助は事業の持続性確保のために有効であり、継続が期待される。

順化ケージなど一部の供与資機材や施設については、補修・維持管理計画を明確にし、将来も持続させる必要がある。また、各プロジェクト実施サイトは、サイト間の技術交流や情報共有及び定期交流事業の重要性を認識しており、従って今後もこの連携体制が続くことが重要である。地方政府においては、環境教育やエコツーリズム等プロジェクトが実施した活動の意義や重要性を認識し、これらの活動主体に対する支援を継続することが期待される。

第4章 結論

日中両国政府及び関係部局の支援のもと、日本人専門家、カウンターパート職員及び中国国内専門家の多大な尽力により、プロジェクトは計画に沿って実施され、概ね想定された成果を上げている。事業対象地が分散し、関係機関も多い中で、トキの飼育、順化およびモニタリングに必要な施設を整備し、資機材の充足や研修、実地指導などを通じてカウンターパート機関のモニタリング等の能力が強化された。また、野生のトキの生息環境改善を担う住民を巻き込み、トキとその生息環境をリソースとした生計向上・地域振興のモデルを示したこと、環境教育の促進による意識の向上や転換は、「人とトキの共生」実現に貢献している。特に河南省羅山県でトキの野生復帰と生態系に配慮した地域づくりが同時進行で顕著な進捗を見せた。

また、中国国内と日本側の双方に対する広報活動にも力を入れており、プロジェクトの存在感を高めるのみならず、市民や意思決定者に対するトキ保護に関する宣伝にも貢献している。日本の地方自治体や研究機関、市民団体など、トキ保護に関係する様々な組織へのサポートを行っており、トキの保護を通じた日中の技術交流と友好に貢献している。

さらにプロジェクトは、里山イニシアティブが、持続可能な自然資源の利用と管理を実践していく際に重要とする視点からのいくつかの取り組みを実施し、同イニシアティブの推進に貢献しつつある。

第5章 提言

5.1 プロジェクト終了までの提言

(1) プロジェクト成果の取りまとめと共有

本プロジェクトはトキと共生するための地域環境づくりのモデルをプロジェクト期間中に提示した。モニタリング技術、生計向上活動、環境啓発活動が今後も継続されると共に、各地で参照されるためには、プロジェクト成果を適切に取りまとめて、広く関係者に共有することが必要である。

プロジェクトとしての提言案のとりまとめ、分野別報告書の作成、各プロジェクトサイトでの共有をプロジェクト終了までに行うべきである。

(2) トキ保護啓発ツールの有効活用

本プロジェクトは、広報ツールとしてトキの絵本等を作成し、トキ保護の重要性を広く伝えるために貢献してきた。プロジェクトが作成した広報ツールの有効活用の方法を残り期間において考えることが必要である。プロジェクトサイトの各県林業局、保護区は今後も地域や学校との関係を継続し、環境教育が継続し、効果を拡大するように尽力することが必要である。また、自然体験ツアーについて、今後も継続的に実施がなされるよう、関係機関が指導者育成や活動フィールドの整備を通じてバックアップすることが期待される。

(3) 供与機材の維持管理体制の確認

JICA が供与した機材は適切な管理のもと、引き続き維持管理がなされるよう、プロジェクトは適切な管理責任者を指名する必要がある。

また、トキ順化ケージ、水田用水路等のプロジェクトが支援したインフラは、トキの生息環境の継続確保のために重要である。今後も維持管理が適切になされるよう予算を確保することが必要である。

(4) 地域づくり分野について

保護区と地域の関係者の協働による事業・活動の継続がトキ保護にとって極めて重要である。また、各プロジェクトサイトにおける活動実施体制をプロジェクト終了時まで強化することや、トキ保護当局が、政府関係機関、小学校、農業合作社、民間団体といった多様な関係者による共働の軸となり、引き続き調整、実施、支援に積極的な役割を果たすことが重要である。

(5) 生計向上活動の自立的発展の確保

プロジェクトによる対象サイトでの生計向上支援は、有機梨の栽培、有機茶栽培等、自立的に発展している事業も確認されている。今後のトキ生息域拡大に対応して「人とトキが共生できる地域環境」を広げていくためには、プロジェクトの経験を取りまとめたうえで、広く共有することが重要である。プロジェクト残り期間において対応がとられることが期待される。また、長期的な農業推進のためには住民に対する低利で長期の融資が望まれる。

5.2 プロジェクト終了後の提言

調査団は、プロジェクト終了後にトキの保護を継続・拡大するために重要な点を次のとおり提言する。

(1) 情報交換・共有の促進

プロジェクトが実施を支援した定例会が効果的であったことから、プロジェクト終了後も、洋県及び各放鳥実施地区が参加する情報交換会の開催が望まれる。その会合に日本側関係者が参加できれば日中間の技術交流の機会ともなろう。

(2) モニタリング体制の強化

広域的なデータの集計、分析、施策へのフィードバック及び研修などを行うための組織能力の育成が必要となる。

また、ボランティアの育成によるモニタリング活動の強化や、生徒の参加による調査の実施や住民協力の促進をとおした多面的なモニタリングの実施が望まれる。そのための人材の育成と活動への支援が必要となる。

（３）モデル事業の定着のための取り組み

自然体験プログラムの展開に有効な受け入れ施設の整備が必要である。特に都市の子供が安心して利用できる施設（キャンプ場・トイレ等）のモデル整備が望まれる。また、有機農業の更なる普及のために、有機・減農薬農産品の販路拡大のための専門家の指導、消費者を対象としたツアーの実施、アンテナショップ開設、研修の実施、マニュアルの整備などが必要である。

（４）日中トキ保護協力の継続

上記の活動に関連して、トキ生息地の関係者や児童・学生の相互訪問等による国民レベルでの交流を確保することが望まれる。

第6章 教訓

本プロジェクトは野生生物保護のプロジェクトとして、トキという絶滅危惧種の保護と現地住民の生計向上を密接に結びつけた積極的な試みを行い、今後の類似案件の参考となる大きな成果を挙げた。その過程から導き出された主な教訓を以下に記載する。

（１）プロジェクト広報体制

希少な野生生物の保全等、地域住民の支援や理解を得た上で実施する必要がある事業においては、広報活動は重要なプロジェクト実施ツールである。このプロジェクトでは、開始時点から広報を重要な業務と位置付け、視覚的な広報素材作成担当のローカル・スタッフを配置し、環境教育担当専門家と共同で迅速に多数の広報素材を作成することにより、住民の環境啓発に大きな効果をもたらした。

（２）地元リソースの効果的な活用

本プロジェクトが目指す地域環境づくりのニーズはサイトにより多岐にわたり、果樹、茶、生薬栽培やドジョウ養殖などでは地域の条件に対応した専門的技術指導を必要としていたため、地元の専門家リソースを優先的に探して活用した。同活用は、技術的な適合やコスト面で有効であった。

（３）環境教育所管省庁との連携について

絵本など多様な教材や手法を用いた小学校等における環境教育活動は、子供たちに歓迎され教育効果をもたらした。この取り組みを継続し、広げるためには、JCC のメンバー等に学校教育関連部局を含めることで、自然環境保全部門と学校教育担当部門が連携しやすい体制を確保することが望ましい。

（４）生計向上モデル事業の選定について

生計向上のモデル事業の効果を最大化するためには、十分な現況把握と分析を行うことが重要である。このプロジェクトでは、対象サイトの地域住民の生業やニーズ、既存の生計向上への取り組みや産品の販路を的確に把握し、更に、地方政府の政策的支援の可能性を十分に考慮することにより、モデル事業を成功に導いた。各サイトの背景などを十分に考慮して、新たな生計向上手段を導入するだけでなく、地域の住民が経験を有する農業等の在来技術を改善することにより、限られたプロジェクト期間で効果を出すことが可能となる。

別添資料リスト

- 別添資料 01：プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）
- 別添資料 02：PO
- 別添資料 03：在外事業強化費実績
- 別添資料 04：主要供与資機材リスト
- 別添資料 05：現地再委託調査一覧
- 別添資料 06：現地コンサルタントとサポートスタッフ活用実績
- 別添資料 07：日本人専門家専門家派遣実績と業務分掌
- 別添資料 08：セミナー等の開催支援と参加実績
- 別添資料 09：中国国内研修実績
- 別添資料 10：本邦研修実施実績
- 別添資料 11：C/P 配置実績
- 別添資料 12：環境教育活動実績
- 別添資料 13：環境教育教材実績
- 別添資料 14：エコツアー・自然体験活動実績

プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM)

プロジェクト名：人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト

プロジェクト実施期間：5 年間

(The Project for Harmonization of Local Community and the Crested Ibis)

ターゲットグループ：陝西省洋県/寧陝県・河南省羅山県の地域住民、トキを含む自然環境保全に関わる

プロジェクトエリア：陝西省洋県/寧陝県・河南省羅山県

行政等関係者

Ver 3.0

要約	指標	入手手段	外部条件
上位目標 対象地域およびその他の関連地域において、人とトキの共生モデルの発展と普及を通じて、中国の国家環境保護計画の推進と里山イニシアティブの実施に貢献する。	1. 事業で提言された内容が関連の保全政策に反映される。 2. トキの野生復帰とモニタリング及びデータ管理など技術資料が手引書化され、他地域でも参照される。 3. 事業対象地での取り組みが、他の地域の関係者に参照される。 4. トキ保全の取り組みが国際的なイベントで少なくとも年に 1 回継続的に発表される	1. 関連保全政策に関する文書、聞き取り調査 2. 手引書、聞き取り調査 3. 訪問者リスト、聞き取り調査 4. 発表時の資料、聞き取り調査	なし。
プロジェクト目標 対象地域において、人とトキの共生に向けた環境が整備される。	1. モデル事業を実施した村の少なくとも 50%の住民が、プロジェクト関係機関が実施するトキ保護と地域住民の参加型モデル事業に対して総合的に満足する。 2. トキ保全に携わる第 3 者専門家が、事業対象地において人とトキの共生環境が総合的に改善したと判断する。 3. トキ保護や農業、観光を担当する各当局、農業合作社、「農家楽」経営者、観光事業者、教育機関、民間団体などが、人とトキの共生環境づくりに関するテーマ毎（有機農業促進、エコツーリズム振興、環境教育推進、水田・冬水田拡大など）の協議を行う。 4. 人とトキが共生する地域環境づくりをサポートする政策に関する提言が意思決定者に提出される。	1. アンケート調査、聞き取り調査 2. 第 3 者専門家の報告書 3. 協議議事録、聞き取り調査 4. 提言書、プロジェクトの定期報告書、聞き取り調査	自然環境条件の大幅な変更がない（大規模な開発行為がトキの生息地を脅かさないなど）。
成果 1：環境情報（トキを含む自然環境および社会環境）が整備される。 2：トキの野生復帰を行う体制が構築される。 3：住民参加型事業のモデルが構築される。 4：トキを含む自然環境保全に関する関係者の意識が向上する。	1.1 環境情報に関する報告書が作成される。 1.2 自然環境情報の管理・共有の仕組みと改善方法を C/P 職員が明確に説明できる。 2.1 ケージや湿地環境、ドジョウ養殖施設、モニタリング機材など、事業を通じて整備され、ハードウェアが適正に利用・維持管理される。 2.2 中堅のモニタリング技術者が 20 人育成される（研修や実地訓練の結果を実践している）。 3.1 少なくとも 6 種類のモデル事業が提案され、モデル事業やその受益者の選定方法や選定結果に関係者が賛成する。 3.2 付随資料に詳細を記載。 4.1 少なくとも 20 人の教師や環境教育の人材が、作成されたガイドブックやマニュアル、或いは教材などを適正に活用・説明できる。 4.2 付随資料に詳細を記載。	1.1 報告書 1.2 聞き取り調査 2.1 現地視察、聞き取り調査、プロジェクトの定期報告書やその他の資料 2.2 現地視察、聞き取り調査、プロジェクトの定期報告書（研修実績） 3.1 事業提案書等関連資料、プロジェクトの定期報告書、聞き取り調査 3.2 付随資料に詳細を記載 4.1 聞き取り調査と報告書 4.2 付随資料に詳細を記載。	中国におけるトキ保護政策に変更がない。 農産物の価格が市場で暴落しない。

	4.3 ウェイボー(中国版フェイスブック)の登録者数が2,000人を超える。 4.4 セミナー・シンポジウムに参加した人の80%がイベントに総合的に満足する。	4.3 ウェイボー 4.4 セミナー・シンポジウム終了時のアンケート調査、セミナー報告書	
<u>活動</u> 1-1 自然環境・社会経済状況の基礎調査を実施する。 1-2 基礎調査結果を踏まえ、人とトキが共生する地域環境づくりに関する政策提言を行う。 1-3 調査結果をプロジェクト関係者間で共有する体制を構築する。 2-1 順化訓練技術およびモニタリング技術向上のための技術交換を行う。 2-2 飼育繁殖、順化訓練および放鳥に備えた環境整備を行う。 2-3 野生トキのモニタリングを実施し、その結果を共有する。 2-4 野生トキのモニタリング手法に関する文書を取りまとめ、将来の手引書等の作成準備を行う。 3-1 住民の生活環境に関する現状と課題を把握する。 3-2 ニーズ調査を実施する。(行政機関、住民の意識調査など) 3-3 住民の生計向上や生活環境改善に資する事業の実施可能性を調査する。 3-4 モデル事業実施に関する研修を行う。 3-5 実施可能性のある事業をモデル的に実施する。 3-6 モデル事業の実施状況のモニタリングおよび成果の評価を行う。 3-7 モデル事業の評価結果を踏まえて政策に提言する。 4-1 環境教育の現状把握、計画立案、実施、評価を行う。 4-2 技術交換・情報交換を目的としたスタディーツアーを実施する。 4-3 広報ツールを作成する。 4-4 プロジェクト活動内容・成果を普及するためのセミナー・シンポジウムを開催する。 4-5 環境教育を担う人材育成を行う 4-6 モデルとなる環境教育を実施し、普及や制度化に向けた働きかけを行う。 4-7 過去、現在、未来の関連事業・スキームを結び付けて、日中のトキ保全に関する技術交流を促進する。	<u>日本側投入</u> 1. 長期専門家 2. 短期専門家 3. 研修生受入 4. 機材供与 5. ローカルコストの一部負担	<u>中国側投入</u> 1. 事務スペース等の提供 2. カウンターパートの配置と経費負担 3. ローカルコスト負担	<u>前提条件</u> なし。

別添資料 01B : PDM の付随資料（事業対象地ごとの指標）

	洋 県	寧 陝 県	羅 山 県
アウトプット 3 : 住民参加型事業のモデルが構築される。			
指標 3.2	i. モデル事業実施地区の先駆的農民がプロジェクトで紹介した技術を実践できる	i. トキや美しい棚田などの観光資源を活用したエコツーリズムの支援活動が関係組織によって継続する	i. 合作社とその連合会、茶業事務所などの関係機関が有機茶栽培と販売に関する研修を自主的に実施できる
入手手段	現地視察、聞き取り調査	聞き取り調査、現場視察	現地視察、聞き取り調査
	ii. 合作社等の組織により、有機栽培資機材の利用やメタン汚泥利用が継続される	ii. トキ生息地域で、少なくとも 20 の農家が、新たに糧食、換金作物、又は中薬材の無農薬・減農薬栽培に取り組む、もしくは冬水田を回復させる	ii. 合作社等の組織により、有機栽培資機材の利用やメタン汚泥利用が継続される
入手手段	現地視察、聞き取り調査、合作社の汚泥利用に関する記録	現場視察、聞き取り調査	現地視察、聞き取り調査、合作社の汚泥利用に関する記録
	iii. トキ生息地域で少なくとも 20 の農家が冬水田を回復させる。		
入手手段	現地視察、聞き取り調査		
	iv. プロジェクトで育成された人材が関連技術をエコツーリズムに活用する		
入手手段	現場視察、聞き取り		

	洋 県	寧 陝 県	羅 山 県
アウトプット 4 : トキを含む自然環境保全に関する関係者の意識が向上する。			
指標 4.2	i. C/P 機関やトキ愛護団体が環境教育・宣伝に関するプロジェクトの提案を自主的に実施できる	i. 環境教育がトキ生息地の学校教育の中（特にカリキュラムの中の自由時間のようなものの中）で定例化する	i. 霊山鎮の小学校の教師の少なくとも 10 名が、トキの生態に関して説明できる
入手手段	聞き取り調査	聞き取り調査	アンケート調査、聞き取り調査
			ii. バードウォッチングのコースが来訪者に有効に利用される。
入手手段			現場視察、聞き取り調査

	重点的に、又は継続的に活動を実施する期間
	準備段階、フォローアップ期間、又は必要に応じ随時に活動を実施する期間

別添資料 03:人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト 在外事業強化費実績

年	期 間	在外事業強化費
1 年 目	2010 年 09 月 - - - 2011 年 03 月	2,778,959.75 円
2 年 目	2011 年 04 月 - - - 2012 年 03 月	3,361,641.72 円
3 年 目	2012 年 04 月 - - - 2013 年 03 月	2,276,112.20 円
4 年 目	2013 年 04 月 - - - 2014 年 03 月	1,654,389.47 円
5 年 目	2014 年 04 月 - - - 2015 年 03 月	1,568,303.40 円
合計		11,639,406.54 円

No	機材名	規格	数量	単価	合計	調達日	設置場所	機材の状態	利用状況	使用機関	用途
				(万円)	(万円)	(年・月・日)					
1	野化网笼(順化ケージ)	3200m ²	1	111.0	111.0	2012年3月1日	寧陝秦沟野生復帰基地	良好	想定された目的・頻度で使われている。	寧陝	野生復帰の体制整備
2	野化网笼(順化ケージ)	2800m ²	1	80.0	80.0	2012年3月1日	董寨保護区飼育センター	良好	想定された目的・頻度で使われている。	羅山	野生復帰の体制整備
3	野化网笼维护(順化ケージ修復)	5000m ²	1	130.0	130.0	2011年3月1日	洋県トキ飼育センター	良好	想定された目的・頻度で使われている。	洋県(ケージ用監視カメラ含む)	野生復帰の体制整備
4	孵卵器	P-008A-TOK152	3	3.7	11.1	2012年3月13日	董寨保護区飼育センター、寧陝林業局野生復帰基地	良好	想定された目的・頻度で使われている。	羅山(2台)、寧陝(1台)	野生復帰の体制整備
5	育雛器	TOK152	2	8.3	16.6	2012年3月13日	董寨保護区飼育センター、寧陝林業局野生復帰基地	良好	想定された目的・頻度で使われている。	羅山(1台)、寧陝(1台)	野生復帰の体制整備
6	刻印器	IS200	1	4.3	4.3	2011年9月23日	PJ事務局	良好	想定された目的・頻度で使われている。	北京	トキ装着用ナンバー入りカラーリング作成
7	越野車(ジープ型車両)	丰田陆地巡洋艦	3	63.3	189.9	2011年5月25日	洋県保護区管理局、寧陝林業局、董寨自然保護区管理局	良好	想定された目的・頻度で使われている。	洋県、寧陝、羅山	プロジェクト活動、環境教育等
8	多功能商务车(ミニバン)	丰田普瑞维亚2.4	1	47.4	47.4	2011年7月22日	陝西林業庁	良好	想定された目的・頻度で使われている。	陝西林業庁	専門家活動、プロジェクト業務
9	皮カ(ピックアップトラック)	尼桑 D22 2.4 MT 4x4	3	18.0	54.0	2011年3月25日	洋県保護区管理局、寧陝林業局、董寨自然保護区管理局	良好	想定された目的・頻度で使われている。	洋県、寧陝、羅山(各1台)	専門家活動、野外観測
10	摩托车(オートバイ)	錢江 禧王QJ125	7	0.8	4.7	2012年3月16日	董寨自然保護区管理局	良好	想定された目的・頻度で使われている。	羅山	野外観測
11	摩托车(オートバイ)	鈴木 QS125-SE	5	0.7	3.4	2013年3月19日	寧陝林業局トキモニタリングステーション(秦沟、皇冠、湯坪、筒車湾、龍王)各1台	良好	想定された目的・頻度で使われている。	寧陝	野外観測
12	摩托车(オートバイ)	錢江 臥龍125	8	0.7	5.4	2012年10月24日	洋県保護区管理局(保護科3台、保護ステーション5台(龍亭×2、花園×1、華陽×2))	良好	想定された目的・頻度で使われている。	洋県	野外観測
13	単筒望远镜(望遠鏡・接眼レンズ)	KOWA TSN-774 + TE-10Z	4	2.1	8.4	2011年1月17日	洋県保護区管理局、寧陝林業局、董寨自然保護区、陝西林業庁	良好	想定された目的・頻度で使われている。	洋県、寧陝、羅山、陝西林業庁(各1台)	野外観測
14	単筒望远镜(望遠鏡・接眼レンズ)	Diascope 85	2	2.1	4.2	2011年3月21日	PJ事務局	良好	想定された目的・頻度で使われている。	北京	野外観測
15	単筒望远镜(望遠鏡・接眼レンズ)	尼康 ED82A + 25-75X	9	2.2	19.8	2011年2月21日	洋県保護区管理局、寧陝林業局、董寨自然保護区、西安事務所	良好	想定された目的・頻度で使われている。	洋県(4台)、寧陝(2台)、董寨(2台)、西安事務所(1台)	野外観測
16	三脚架(含云台)(三脚・雲台)	Manfrotto 055CX3+701HDV	23	0.5	12.0	2011年2月21日	洋県保護区管理局、寧陝林業局、董寨自然保護区、西安事務所、陝	良好	想定された目的・頻度で使われている。	洋県、寧陝、羅山(各7台)、陝西林業庁(1台)、西安事務所(1台)	野外観測
17	三脚架(含云台)(三脚・雲台)	金種 EL530A	2	0.2	0.4	2011年3月21日	PJ事務局	良好	想定された目的・頻度で使われている。	北京	野外観測
18	数码相机(一眼レフカメラ+標準レンズ)	尼康 D300S + 18-105	9	1.1	9.9	2011年3月8日	洋県保護区管理局、寧陝林業局、董寨自然保護区、西安事務所	良好	想定された目的・頻度で使われている。	洋県(3台)、寧陝(2台)、羅山(2台)、西安事務所(2台)	野外観測、記録
19	数码相机(一眼レフカメラ+標準レンズ)	尼康 D7000	2	1.3	2.6	2012年9月25日	洋県保護区管理局	良好	想定された目的・頻度で使われている。	洋県	野外観測、記録
20	长焦镜头(望遠レンズ)	适马 APO 120-400 OS	9	0.6	5.6	2011年3月8日	洋県保護区管理局、寧陝林業局、董寨自然保護区、西安事務所	良好	想定された目的・頻度で使われている。	洋県(3台)、寧陝(2台)、羅山(2台)、西安事務所(2台)	野外観測、記録
21	数码相机(デジカメ)	尼康 P8100	8	0.3	2.5	2012年9月24日	洋県保護区管理局	良好	想定された目的・頻度で使われている。	洋県	野外観測、記録
22	数码相机(デジカメ)	尼康 P300	2	0.3	0.5	2011年3月23日	西安事務所	良好	想定された目的・頻度で使われている。	西安事務所	プロジェクト業務、記録
23	数码摄像机(デジタルビデオカメラ)	索尼 HVR-V1C	4	1.1	4.4	2011年9月8日	洋県保護区管理局、寧陝林業局、董寨自然保護区、西安事務所	良好	想定された目的・頻度で使われている。	洋県、寧陝、羅山、西安事務所(各1台)	野外観測、記録
24	数码摄像机(デジタルビデオカメラ)	索尼 HDC-AX2000E	1	2.9	2.9	2011年3月18日	PJ事務局	良好	想定された目的・頻度で使われている。	北京	野外観測、記録
25	測距器	尼康550AS	1	0.5	0.5	2011年2月21日	西安事務所	良好	想定された目的・頻度で使われている。	西安事務所	野外観測、記録
26	双筒望远镜(双眼鏡)	尼康 12×42DCF	14	0.4	6.0	2011年2月21日	洋県保護区管理局、寧陝林業局、董寨自然保護区、西安事務所	良好	想定された目的・頻度で使われている。	洋県(5台)、寧陝(3台)、羅山(3台)、西安事務所(3台)	野外観測
27	双筒望远镜(双眼鏡)	Victory 8×32T	2	1.3	2.6	2011年3月21日	PJ事務局	良好	想定された目的・頻度で使われている。	北京	野外観測
28	双筒望远镜(双眼鏡)	尼康 MONARCH 8x36	5	0.3	1.5	2013年3月13日	寧陝林業局	良好	想定された目的・頻度で使われている。	寧陝	野外観測
29	双筒望远镜(双眼鏡)	尼康 岡野SPORTSTAR EX 8x25D GF	20	0.1	1.6	2011年11月30日	西安事務所	良好	想定された目的・頻度で使われている。	西安事務所	エコツアー、環境教育
30	台式电脑(含办公软件) (デスクトップPC、ソフトウェア含む)	联想 IdeaCentre K300	2	0.7	1.4	2011年3月18日	PJ事務局	良好	想定された目的・頻度で使われている。	北京	プロジェクト業務
31	台式电脑(デスクトップPC)	联想 M4340	4	0.5	2.0	2012年11月29日	洋県保護区管理局	良好	想定された目的・頻度で使われている。	洋県	モニタリングデータ集計
32	台式电脑(含办公软件) (デスクトップPC、ソフトウェア含む)	DELL XPS8300	1	0.9	0.9	2011年12月6日	西安事務所	良好	想定された目的・頻度で使われている。	西安事務所	エコツアー、環境教育
33	ノートパソコン	東芝 L600	5	0.5	2.3	2011年3月10日	洋県保護区管理局、寧陝林業局、董寨自然保護区、西安事務所		想定された目的・頻度で使われている。	洋県、寧陝、羅山(各1台)、西安事務所(2台)	プロジェクト業務
34	ノートパソコン	索尼	3	1.1	3.3	2011年3月18日	PJ事務局、西安事務所	良好	想定された目的・頻度で使われている。	北京(2台)、西安事務所(1台)	プロジェクト業務
35	打印机(A3プリンター)	惠普HP7500A	5	0.3	1.6	2011年2月15日	洋県保護区管理局、寧陝林業局、董寨自然保護区、西安事務所	良好	想定された目的・頻度で使われている。	洋県、寧陝、羅山、陝西林業局、西安事務所(各1台)	プロジェクト業務
36	打印机(A4プリンター)	惠普DeskJet 2050	1	0.1	0.1	2010年10月20日	西安事務所	良好	想定された目的・頻度で使われている。	西安事務所	プロジェクト業務
37	打印机(A4プリンター)	MP259	2	0.1	0.2	2010年10月1日	西安事務所	良好	想定された目的・頻度で使われている。	西安事務所	プロジェクト業務
38	复印机(コピー機)	FUJIXEROX	1	3.2	3.2	2011年9月23日	西安事務所	良好	想定された目的・頻度で使われている。	西安事務所	プロジェクト業務
39	扫描仪(スキャナー)	EPSON V330	1	0.1	0.1	2011年11月8日	西安事務所	良好	想定された目的・頻度で使われている。	西安事務所	プロジェクト業務
40	传真机(ファクシミリ)	CANON L160	1	0.2	0.2	2011年3月18日	PJ事務局	良好	想定された目的・頻度で使われている。	北京	プロジェクト業務
41	投影仪(含幕布)(プロジェクター、スクリーン含む)	SONY VPL-EX175	5	0.9	4.5	2011年3月4日	洋県保護区管理局、寧陝林業局、董寨自然保護区、陝西林業庁	良好	想定された目的・頻度で使われている。	洋県、寧陝、羅山、北京、陝西林業庁(各1台)	環境教育、普及啓発

42	大画面液晶电视(液晶テレビ)	松下TH-P50U30C	1	0.7	0.7	2011年9月23日	西安事務局	良好	想定された目的・頻度で使われている。	西安事務局	環境教育、普及啓発
43	GPS(ハンディGPS)	GARMIN GPSmap 60CSx	16	0.4	6.1	2011年2月18日	洋県保護区管理局、寧陝林業局、董寨自然保護区、西安事務所	良好	想定された目的・頻度で使われている。	洋県(5台)、寧陝(5台)、羅山(5台)、西安事務局(1台)	野外観測
44	GPS(ハンディGPS)	GARMIN GPSmap 60CSx	8	0.3	2.6	2012年9月19日	洋県保護区管理局	良好	想定された目的・頻度で使われている。	洋県	野外観測
45	GPS送信器	Northstar 30g GPS送信器	6	2.7	16.4	2012年2月24日	董寨自然保護区	良好	使用中、放鳥後はトキの位置情報収集	羅山	放鳥モニタリング
46	トキデコイ		4	1.8	7.2	2011年11月28日	洋県保護区管理局展示館、寧陝林業局、董寨自然保護区、西安事務	良好	想定された目的・頻度で使われている。	洋県、寧陝、羅山、西安事務局(各1台)	環境教育、普及啓発
47	メタン汚泥バキュームカー	7Y-1150D1	2	2.86	5.72	2011年10月1日	洋県草バ村有機梨合作社	良好	想定された目的・頻度で使われている。	洋県草バ村有機梨合作社	有機梨の栽培用
48	小型耕運機	1WG6.3-135FC-Z	2	0.65	11.2	2011年10月1日	洋県草バ村有機梨合作社	良好	想定された目的・頻度で使われている。	洋県草バ村有機梨合作社	有機梨の栽培用
49	メタン汚泥バキュームカー	ZYPJ - 14100GXE	2	2.18	4.36	2012年3月16日	董寨靈鼎峰有機茶合作社	良好	想定された目的・頻度で使われている。	董寨靈鼎峰有機茶合作社	有機茶の栽培用
50	テレメトリー	A1-2B	10	0.35	3.5	2014年7月18日	董寨自然保護区	良好	使用中、放鳥後はトキの位置情報収集	羅山	野外観測
51	環境改善用バイク		2	1.28	2.6	2015年3月12日	寧陝林業局	良好	想定された目的・頻度で使われている。	寧陝	エコツアー

合計	(単位: 万元)	823.07
----	----------	--------

自然調査情況一覽表

場所	時間	課題	発注先/依頼先	費用(元)	成果品名	成果品納入日
洋県	2011年4月18日-20日	2011年春季野生トキ調査	洋県保護区管理局	5,000	2011年春季野生トキ調査報告書	2011年5月8日
	2011年11月17日-23日	2011年秋季野生トキ個体数調査	洋県保護区管理局	5,000	2011年秋季野生トキ個体数調査報告書	2011年11月10日
寧陝	2011年8月	トキ餌の春季調査	西北農林科技大学	36,640	トキ餌豊富度の調査報告書	2012年1月20日
	2011年10月	トキ餌の秋季調査	西北農林科技大学	11,800	トキ餌豊富度の調査報告書	2012年1月20日
	2012年1月	トキ餌の冬季調査	西北農林科技大学	24,050	トキ餌豊富度の調査報告書	2012年1月20日
董寨	2012/2/12日-18日	水田中の生物豊富度の調査	北京林業大学	6,290	董寨自然調査報告書	2012年4月8日

合計 88,780

社会調査情况一覧表

場所	時間	課題	発注先/依頼先	費用	成果品名	成果品納入日
洋県	2012年1月3日-5日	トキ生息地に関わる社会調査	北京林業大学	35,350元	朱鹮保护项目区 2011年农村社会经济和环境状况 调研报告	2012年3月14日
宁陕	2012年1月5日-8日	トキ生息地に関わる社会調査				
董寨	調査なし					

洋県有機農業持続性発展調査

時間	2011年11月12月
課題	洋県及び寧陝県における有機産業の現状と発展課題の把握
発注先/依頼先	中国社会科学院農村発展研究所
費用	110,110元
成果品名	陝南朱鹮活动区域内生态农业可持续发展的研究报告书
成果品納入日	2012年3月

別添資料05-4:現地再委託調査一覧

第三者専門家の指標データ現地調査

場所	時間	発注先/依頼先	費用	成果品名	成果品納入日
洋県	2014年11月24日 - 2015年1月20日	陝西省動植物研究所	20524.3元	中日合作人与朱鹮和谐共存的地区环境建设项目评估报告-洋县・宁陕	H27.3.1
寧陝					
董寨	2014年12月7日 - 12月30日	河南師範大学	23406元	人与朱鹮和谐共存的地区环境建设项目河南董寨项目区评估报告	2015年3月

別添資料 06: 現地コンサルタントとサポートスタッフ活用実績

氏名	勤務期間			担当分野
派遣会社経由契約				
索 文娜	2011 年 01 月	- - -	現在	総務アシスタント
種 璟珂	2011 年 10 月	- - -	現在	業務通訳
アルバイト				
周 霞	2011 年 02 月	- - -	2011 年 8 月	通訳補助兼アシスタント
岩下 拓	2011 月 08 月	- - -	2011 年 10 月	臨時通訳・広報編集
小池 真実	2011 年 10 月	- - -	2014 年 12 月	環境教育・広報・普及啓発アシスタント
劉 玉卓	2011 年 12 月	- - -	2012 年 3 月	環境教育グッズ・広報ツールのデザイン
	2012 年 08 月	- - -	2013 年 3 月	
曹 煜	2011 年 12 月	- - -	2012 年 3 月	環境教育グッズ・広報ツールのデザイン
庄 苗苗	2012 年 07 月	- - -	2015 年 3 月	通訳補助・翻訳・微博管理

別添資料 07： 日本人専門家専門家派遣実績と業務分掌

氏名	派遣期間	担当分野
長期専門家		
森 康二郎	2010 年 9 月 21 日 - 2015 年 9 月 20 日	チーフアドバイザー
米田 重玄	2010 年 9 月 21 日 - 2012 年 9 月 20 日	鳥類保護
平野 貴寛	2010 年 12 月 11 日 - 2015 年 9 月 20 日	環境教育/業務調整
中島 卓也	2012 年 9 月 11 日 - 2014 年 8 月 30 日	鳥類保護/普及
短期長専門家		
雲山 蘇	2010 年 9 月 25 日 - 2011 年 3 月 10 日 2011 年 5 月 9 日 - 2011 年 8 月 12 日 2011 年 10 月 19 日 - 2012 年 3 月 23 日 2012 年 10 月 11 日 - 2013 年 1 月 11 日	参加型開発
中島 卓也	2011 年 7 月 29 日 - 2012 年 3 月 30 日	鳥類モニタリング

専門家 業務分掌

1. チーフアドバイザー

- プロジェクト運営全般に関する協力体制の構築
- プロジェクト運営管理に関する指導・助言
- プロジェクト戦略（出口戦略含む）の策定
- プロジェクト活動計画の作成・見直し
- プロジェクト活動計画に基づくプロジェクト進捗管理
- 広報戦略・広報計画の作成と実施
 - マスコミ等への対応（日本/中国）
 - ワークショップ等の計画・立案
 - 学会誌等への投稿
- 関係者/関係機関との連絡調整
 - 北京関係者/地方省関係者との連絡調整
 - 北京一地方省連絡調整の支援
 - 日本国内関係者（国内支援委員等）との連絡調整
 - 周辺国/第3国との連絡調整（広域支援）
 - 他ドナー/国際機関等との調整・協議

2. 鳥類保護

- 飼育繁殖の管理技術向上のための技術交換
- 順化訓練技術およびモニタリング技術向上のための技術交換

- 順化訓練および放鳥に備えた環境整備
- 野生トキのモニタリングの実施と、その結果の共有
- モニタリングの結果を踏まえたトキの活動範囲・行動の把握および保護計画・政策への提言
- 上記に関する進捗管理と評価

3. 参加型開発

- 住民の生活環境に関する現状と課題の把握
- ニーズ調査の実施（行政機関、住民の意識調査など）
- 住民の生計向上や生活環境改善に資する事業の実施可能性の調査
- モデル事業実施に関する研修の実施
- 実施可能性のある事業をモデル的に実施
- モデル事業の実施状況のモニタリングおよび成果の評価
- モデル事業の評価結果を踏まえた政策への提言
- 上記に関する進捗管理と評価

4. 業務調整員/環境教育

(運営管理業務)

- チーフアドバイザーの行う運営管理業務を補佐し、また相手国機関との協議を踏まえ、協力計画(実施計画、年間計画)のとりまとめを行う。
- 年間計画(専門家派遣計画、研修員受入計画、機材供与計画、現地業務費執行計画、ローカルコスト負担事業計画)の進捗状況の管理を行う。
- 合同調整委員会への参加等を通じ、相手国期間のプロジェクト実施計画(インプットの規模等、プロジェクトを取り巻く環境)の把握を行う。
- 提出する報告書の作成にあたり、チーフアドバイザーを補佐する。
- 各種の広報活動を通してプロジェクトを積極的に宣伝する。
- プロジェクトの専門家の行う技術移転に関する計画立案に関し、協議を行い、実施について支援する。
- プロジェクトの円滑な実施に支障が生じた場合、関係機関、チーフアドバイザーと連携し、その解決にあたる。
- 日本側チームの活動に伴う公金管理、物品管理、事務・会計・庶務を取りまとめ、その計画的な執行を図る。
- セミナー・シンポジウムの運営に関し、チーフアドバイザー、中国側関係者と調整し、その準備・運営・評価を行う。

(促進業務)

- 相手国、JICA、日本人専門家間の連絡・調整役として、JICA 事務所等と協議をしつつ活動の効率化を図る。
- 年次計画の進行に支障となる事項(機材通関、C/P の配置、相手国の予算等)に常時注意を払い、問題が生じた場合には、相手国、日本大使館、JICA 事務所等について十分に協議し、その打開策を見つけ出すとともにその解決の促進を図る。

(環境教育)

- 環境教育に関する現状、課題、将来計画の把握
- 環境教育のニーズの把握
- 環境教育活動の現地リソースの把握
- 環境教育活動計画の作成
- 環境教育活動の実施
- 環境教育活動の実施状況のモニタリングおよび成果の評価
- 評価結果を踏まえ、今後に向けた提言

別添資料08: セミナー等の開催支援と参加実績

題名	対象者	場所	参加者数	期間	
				開始日	終了日
プロジェクト始動式・中日専門家ワークショップ	プロジェクト関係者・日中専門家	西安	50	2010年12月23日	
トキ再発見30周年記念国際検討会	国家林業局、省、市県行政官、研究者、日本環境省、日本研究者	洋県	90	2011年5月23日	2011年5月24日
タイ林業セミナー 平野 発表	プロジェクト・C/P	タイ	28	2011年8月7日	2011年8月10日
JICA西部地域行政官研修 米田、中島 講義	内蒙古自治区科学技術庁職員、研修参加者(行政、区科技庁、企業等)	内蒙古自治区	70	2011年9月14日	2011年9月16日
第2回アジア湿地シンポジウム(分科会) 森 発表	国内外湿地保護関係行政官、研究者、NGO等	無錫	約60	2011年10月10日	2011年10月13日
JICA林業セミナー 森 発表	国家林業局、JICA、林野庁、企業、NGO関係者	北京	約60	2011年12月7日	2011年12月8日
ラムサールCOP サイドイベント 平野 発表	ラムサール条約加盟国及びNGO	ルーマニア		2012年7月5日	2012年7月10日
陝西師範大学校日本語系 平野、中島、森 トキ講義	陝西師範大学校日本語系学生、教員	西安	60～100	2012年3月2日 2012年3月15日 2012年5月13日	
陝西師範大学校日本語系 森、中島 トキ講義	陝西師範大学校日本語系学生、教員	西安	50～	2013年3月2日 2013年5月22日	
陝西師範大学校インターン受け入れ	陝西師範大学校日本語系四年生	西安	2	2012年9月	2012年11月
COP10ブース展示	COP10参加者	インド		2012年10月8日	2012年10月12日
信陽師範大学日本語系 中島 トキ講義	信陽師範大学日本語系学生、教員	信陽	80	2014年5月27日	
信陽師範大学 ボランティアグループへの講義 中島	信陽師範大学生	董寨	8	2014年6月30日	
信陽師範大学日本語系 中島 トキ講義	信陽師範大学日本語系・英語系学生、教員	信陽	150	2014年10月20日	
国際鳥類学会議 中島 ポスター発表	世界中の鳥類専門家及び関係者	東京		2014年8月18日	2014年8月24日
日中韓トキ保護シンポジウム 劉冬平発表	日本、中国、韓国トキ保護の関係機関	徳清		2014年11月10日	2014年11月12日
世界公園会議 里山サイドイベント 森発表	世界公園会議関係者	シドニー	約40	2014年11月13日	2014年11月14日

別添資料09
順化訓練、モニタリング技術向上

研修名	対象者	指導者	場所	参加者数	期間	研修日数
カラーリング製作	全国鳥類バンディングセンター、漢中トキ自然保護区職員	環志中心、劉CP、米田専門家	洋県	6	2011年4月10日	1
カラーリング製作	全国鳥類バンディングセンター、漢中トキ自然保護区職員	同	洋県	7	2011年4月25日	1
北載河国際バンディング研修会	各省標識調査従事者	環志中心、劉CP、米田専門家	河北省秦皇島市	45	2011/5/9～12	4
遼寧省日中共同ズグロカモメバンディング	遼寧双台子河口・丹東鴨綠江国家級自然保護区職員、中国林科院研究員等	同	遼寧省盤錦市	11	2011/6/11～20	10
佐渡モニタリング手法紹介	董寨自然保護区職員	中島専門家	董寨	9	2011年8月5日	1
佐渡モニタリング手法紹介	寧陝県林業局、トキ野生復帰基地職員	同	寧陝	10	2011年9月6日	1
佐渡モニタリング手法紹介	漢中トキ自然保護区職員	同	洋県	9	2011年9月13日	1
合同モニタリング研修会	董寨自然保護区、寧陝県林業局、漢中トキ自然保護区職員、情報員	北京林業大学 丁長青、環志中心、洋県保護区管理局 崔天慶、米田専門家	洋県	30	2011/11/20～24	5
合同モニタリング・カラーリング研修	董寨自然保護区、寧陝県林業局職員	米田専門家	洋県	7	2012/4/22～28	7
野生復帰経験交流会(例会)	陝西省林業庁、漢中トキ自然保護区、寧陝県林業局、董寨自然保護区職員	洋県保護区管理局 慶保平、陝西省常秀雲、董寨保護区管理局 朱家貴	西安	22	2012年10月26日	1
野生復帰・順化訓練技術指導(GPS送信器装着)	董寨自然保護区職員	環志中心、劉CP、中島専門家	董寨	5	2013年3月14～16日	2
放鳥トキ個体識別、モニタリング手法指導	董寨自然保護区管理局職員	同	董寨	5	2013年10月1日	1
繁殖期モニタリング現場指導	董寨自然保護区管理局職員	同	董寨	4	2014年2～6月 1～2回/月 1～2日/回	2
合同モニタリング研修会	全国鳥類バンディングセンター、陝西省林業庁、寧陝県林業局、漢中トキ自然保護区管理局、董寨自然保護区職員	環志中心、劉CP、董寨保護科 王科、寧陝野生復帰基地 李夏、洋県保護区管理局 劉義	董寨	16	2014/10/9～10	2

モデル事業関連

【洋県有機梨栽培 2011年度】

研修名	対象者	指導者	場所	参加者数	期間	研修日数
有機梨栽培管理(集合研修)	草バ村有機梨栽培モデル農家及び一般梨農家	西北農林大学 徐凌飛 教授 洋県有機弁公室 白建西 主任 洋県園芸技術工作站 雍明理 高級工芸師 プロジェクト専門家 蘇雲山 博士 漢中端豊生物科技有限公司 李阳	洋県草坝村	約100	2011/6/16～17	2
有機梨栽培管理 (集合研修)	〃	漢中植物研究所 高文 教授/所長 洋県有機弁公室 白建西 主任 洋県農業局 李成德 高級工芸師 洋県園芸技術工作站 雍明理 高級工芸師	〃	約70	2011/10/22～23	2
有機梨栽培管理 (集合研修)	〃	漢中植物研究所 廖孝忠 研究員 洋県園芸技術工作站 雍明理 高級工芸師	〃	約100	2012年2月24日	1

【2012年度】

内容	対象者	指導者	場所	参加者数	期間	研修日数
有機梨栽培管理 (集合研修・現場研修初回)	草坝村有機梨栽培積極農家	漢中植物研究所 高文 教授/所長 漢中植物研究所 廖孝忠/曹偉剛 研究員	洋県草坝村 7組及び1組モデル梨園	約60	2012年5月23日	1
有機梨栽培管理 (継続研修)	〃	漢中植物研究所 廖孝忠/曹偉剛 研究員	〃	27	2012年6月19日	1
〃	〃	〃	〃	21	2012年7月12日	1
〃	〃	〃	〃	17	2012年7月31日	1
〃	〃	〃	〃	30	2012年8月16日	1
〃	〃	〃	〃	16	2012年10月23日	1
〃	〃	〃	〃	14	2012年11月20日	1
洋県有機産業研修会 (集合研修)	洋県政府曹副県長、有機弁公室、陝西省林業庁、自然保護区管理局、県内有機生産企業・合作社、草バ村民	洋県有機弁 肖向東副主任、社会科学院农村发展研究所 曹斌、北京有機農庄公司 李小雪副総、漢中植物研究所 高文所長、山東省畜牧業協会 田知明、日本新潟 専門家 掘井	洋県 湖光軒宾馆	約80	2012年11月27日	1
有機梨栽培管理 (現場研修 先進梨園参観)	草バ村有機梨栽培積極農家	漢中植物研究所 高文 教授/所長 廖孝忠/曹偉剛 研究員	漢中植物研究所梨園	20	2012年11月28日	

【2013年度】

内容	対象者	指導者	場所	参加者数	期間	研修日数
有機梨栽培管理（現場研修）	草バ村有機梨栽培 モデル農家(8戸)外	漢中植物研究所 廖孝忠/曹偉剛 研究員	洋泉草坝村1組モデル梨園	15	2013/5/14	1
〃	〃	〃	〃	13	2013/6/1	2
〃	〃	〃	〃	13	2013/6/13	3
〃	〃	〃	〃	14	2013/7/9	4
〃	〃	〃	〃	21	2013/7/25	1
〃	〃	〃	〃	31	2013/7/31	1
〃	〃	〃	〃	30	2013/8/9	1
〃	〃	〃	〃	16	2013/9/3	1
〃	〃	〃	〃	6	2013/10/10	1
〃	〃	〃	〃	10	2013/10/18	1
有機梨栽培管理（集合研修及び現場研修）	草バ村有機梨栽培農家	漢中植物研究所 高文 教授/所长 廖孝忠/曹偉剛 研究員	洋泉草坝村村委会 議室及びモデル梨園	42	2013/10/29	1
有機梨栽培管理（現場研修）	草バ村有機梨栽培 モデル農家(8戸)外	廖孝忠/曹偉剛 研究員	洋泉草坝村1組モデル梨園	14	2013/11/19	1
〃	〃	〃	〃	6	2013/12/3	1
〃	〃	〃	〃	6	2014/1/8	1
〃	〃	〃	〃	5	2014/3/10	1
有機梨栽培管理(集合研修)	草バ村有機梨栽培モデル農家及び一般梨農家	日本新潟 専門家 掘井、西安妙耕社 王総、漢中植物研究所 廖孝忠/曹偉剛 研究員	〃	80	2014/3/17	1

【2014年度】

内容	対象者	指導者	場所	参加者数	期間	研修日数
有機梨栽培管理（現場研修）	草バ村有機梨栽培 モデル農家(4戸)外	廖孝忠/曹偉剛 研究員	洋泉草坝村1組モデル梨園	16	2014/4/22	1
〃	〃	〃	〃	11	2014/6/11	1
〃	〃	〃	〃	7	2014/7/9	1
〃	〃	〃	〃	8	2014/7/31	1
〃	〃	〃	〃	10	2014/8/17	1
〃	〃	〃	〃	8	2014/11/12	1
〃	〃	〃	〃	6	2015/1/22	1
〃	〃	〃	〃	〃	2015/2/11	1
洋泉有機梨栽培モデル事業報告会（集合研修・報告会）	草バ村有機梨栽培農家 洋泉有機関係者	漢中植物研究所 高文所長、洋泉有機弁公室 肖向前、妙耕社 高敏經理、洋泉 張副所長	草坝村村委会議室	50	2015年4月1日	1

【寧陝 有機栗、中薬材栽培】

研修名	対象者	指導者	場所	参加者数	期間	研修日数
板栗栽培管理（現場、集合研修）	寨溝村民、県林業駅職員	安康市林業駅 陳 育朝	寨沟村2組栗園、三星賓館	約30	2011/3/9～10	2
板栗・猪苓栽培管理（集合、現場研修）	寨溝村民	県科技協会 胡茂毅、県食用菌弁 馬玉平	寨溝村委、2組現場	約60	2011年12月9日	1
板栗・天麻栽培管理（集合研修）	寨溝村民	県科技協会 胡茂毅、県食用菌弁 馬玉平	寨溝村委	約80	2012年3月12日	1
猪苓・天麻栽培管理（集合研修）	寨溝村民	県食用菌弁 馬玉平、現地農民専門家 周茂財	寨溝村委	約30	2012年12月18日	1
猪苓栽培管理（集合研修）	寨溝村民	県食用菌弁 馬玉平	寨溝村委	約40	2013年10月28日	1
寨溝村モデル事業成果交流会	県政府、県林業局、鎮政府、専門家、合作社、村民	馬玉平、寨溝村 鄭文書、合作社、西安アウトドア 劉	林業局會議室	約30	2015年3月24日	1

【董寨 有機茶栽培 2012年度】

研修名	対象者	指導者	場所	参加者数	期間	研修日数
有機茶栽培管理（春季茶園管理及び茶葉收穫）	保護局 朱副局长、羅山県能源駅王駅長、靈山鎮 余副鎮長、董橋村 盧書記 高村長、合作社 李明水、村民	信陽農業専門學校 袁丁教授	天橋村村委 會議室	40	2012年3月3日	1
有機茶栽培管理（現場研修）	合作社社員、周辺茶業農民	羅山県茶葉弁 李書勝	合作社茶園	20	2012年4月3日	1
〃	合作社社員	合作社 李明水	合作社 加工場	18	2012年4月6日	1
〃	〃	合作社 李明朝	〃	22	2012年4月15日	1

別添資料10

C/P 研修
(中国国内)

04参照

(本邦研修)

番号	対象者	場所	参加者数	期間	
				開始日	終了日
第1回カウンターパート研修	国家林業局：劉立軍、王曉潔 バンディングセンタ：陸軍 洋県政府：王志安 トキ自然保護区管理局：蒙進榮 河南省林業庁：王学会 董寨自然保護区管理局：阮祥鋒	東京→佐渡→豊岡→関西	6	2011年10月23日	2013/10/31
第2回カウンターパート研修	国家林業局：孫念軍 バンディングセンタ：劉冬平 陝西省林業庁：常秀雲 洋県政府：蒙燕紅 トキ自然保護区管理局：王超 河南省林業庁：師永全 董寨自然保護区管理局：王科	関西→豊岡→大阪→佐渡→沖縄	7	2012年7月18日	2013/7/28
第3回カウンターパート研修	バンディングセンタ：陳麗霞 トキ自然保護区管理局：闫魯 董寨自然保護区管理局：溪波	東京→佐渡→新潟→東京	3	2013年8月26日	2013/9/4
第4回カウンターパート研修	国家林業局合作司：孫尼尼 国家林業局保護司：田雲鵬 バンディングセンタ：馬天 陝西省林業庁：闫方 洋県政府：張健 トキ自然保護区管理局：慶保平、路晋 河南省林業庁：卓衛華 董寨自然保護区管理局：潘茂盛 羅山県政府：李煥偉	東京→佐渡→新潟→金沢→能登→金沢→東京	10	2014年8月15日	2014/8/24

別添資料11

No	姓名	所属及び職位	担当分野	開始時間	終了時間	備考
	陸軍 劉冬平	中国林業科学研究院全国鳥類バンディングセンター主任 全国鳥類バンディングセンター助理研究員	PJ事務局主任、PJ全体運営管理 PJ具体運営管理、主にトキ保護、野生復帰活動	2010/9 2010/9		
	白永慶 楚龍飛 常秀雲 闫方 申紅霞	陝西省林業庁副巡視員 陝西省林業庁野生動植物保護・自然保護区管理处処長 陝西省林業庁調研員（省野生動植物保護協会副秘書長） 陝西省林業庁野生動植物保護・自然保護区管理处宣伝科科长 陝西省林業庁野生動植物保護・自然保護区管理处宣伝科員	PJ運営全体調整管理 PJ運営全体調整管理 PJ運営全体調整管理 PJ運営全体調整管理 PJ運営全体調整管理	2010/9 2010/9 2010/9 2010/9 2011/3		
	丁海華 路宝忠 翟天慶 慶保平 柯立 闫魯 路晋 李佳 曾建文 全昭紅	漢中トキ国家級自然保護区管理局局長 漢中トキ国家級自然保護区管理局副局長（元） 漢中トキ国家級自然保護区管理局副局長（元） 漢中トキ国家級自然保護区管理局副局長 漢中トキ国家級自然保護区管理局保護科科长 漢中トキ国家級自然保護区管理局保護科科长 漢中トキ国家級自然保護区管理局科研科（元）長青保護区管理局（現） 漢中トキ国家級自然保護区管理局科研科（元）保護科（現） 漢中トキ国家級自然保護区管理局科研科 漢中トキ国家級自然保護区管理局科研科	PJ全体運営管理 PJ全体運営管理 PJ全体運営管理 PJ全体運営管理 トキ保護 トキ保護 其の他PJ活動 其の他PJ活動 其の他PJ活動 其の他PJ活動	2010/9 2010/9 2010/9 2010/9 2010/9 2014/11 2014/11 2012/5 2011/5 2014/9 2014/9	2012/6 2012/6 2014/11 2014/9 2014/9	定年 定年 定年 転職 転職
	柯小偉 李自斌 陳文貴 田寧朝 田毅均 李夏	寧陝県林業局局長 寧陝県林業局副局長 寧陝県林業局総エンジニア（元） 寧陝県林業局動植物保護ステーション長 寧陝県林業局動植物保護ステーション副ステーション長 寧陝県林業局野生復帰基地主任	PJ運営全体調整管理 PJ運営全体調整管理 PJ運営全体調整管理 PJ運営全体調整管理 PJ運営全体調整管理 トキ保護、野生復帰活動	2011/5 2012/5 2010/9 2010/9 2012/5 2010/9	2012/5 2012/5	定年
	王学会 楊智勇	河南林業庁副庁長 河南林業庁調研員	PJ運営全体調整管理 PJ運営全体調整管理	2010/9 2010/9		
	阮祥峰 潘茂盛 朱家貴 溪波 祝文平 呉青 王科 黄学全 蔡靖徳	董寨国家級自然保護区管理局局長 董寨国家級自然保護区管理局局長 董寨国家級自然保護区管理局副局長 董寨国家級自然保護区管理局研究所所長 董寨国家級自然保護区管理局宣教科科長 寨国家級自然保護区管理局宣教科科員 寨国家級自然保護区トキ飼育センター主任 寨国家級自然保護区トキ飼育センター主任 荒田保護ステーション	PJ全体運営管理 PJ全体運営管理 PJ全体運営管理 鳥類保護、モニタリング 宣伝教育 宣伝教育 トキ飼育繁殖、野生復帰 トキ飼育繁殖、野生復帰 トキ野製復帰後のモニタリング	2010/9 2014/3 2010/9 2010/9 2010/9 2013/10 2010/9 2012/9 2013/10	2014/3	転職

別添資料12
環境教育活動実績

内容	対象者	場所	参加者数	期間		実施後の評価報告書の 有無
				開始日	終了日	
小学校書画・作文コンクール	小学生(洋県の小学校10校)	洋県	150	2011年10月20日	2011年11月24日	四季報/4号・5号
朱鷺湖小学校環境教育活動	小学生(5年生)	洋県	15	2012年4月12日		四季報/5号
洋県槐樹関鎮白路完全小学校環境教育活動	小学生(1～6年)	洋県	320	2012年4月12日		四季報/6号
董橋小学校環境教育活動	小学生(1～3年)	羅山県	40	2012年5月9日		四季報/6号
高寨小学校環境教育活動	小学生(1～6年)	羅山県	300	2012年5月10日		四季報/6号
周家坎村農村宣伝活動	小学生(1～6年)・住民	洋県	150	2012年11月19日		四季報/8号
陝西省師範大学講義	大学生(日本語学部)	西安市	80	2012年11月23日		
西安 高新第一小学校	小学生	西安市	30	2012年12月6日		四季報/8号
蒙家渡村農村宣伝活動	住民	洋県	30	2012年12月19日		四季報/8号
寧陝小学校環境教育活動	小学生(5年生)	寧陝県	300	2012年3月2日		四季報/5号
寧陝小学校書画コンクール・トキ絵本読み聞かせ	小学生(1～6年の代表者)	寧陝県	120	2013年1月7日		四季報/8号
科学探鳥(バードウォッチング)研修会	中国全土野鳥関係者	羅山県	30	2012年6月2日	2012年6月3日	バートウォッチング・エコ ツアーシンポジウム報告 書
西安市高新小学校トキ絵本読み聞かせ	小学生(1年生)	西安市	50	2012年12月6日		四季報/8号
陝西省師範大学講義	大学生(日本語学部)	西安市	20	2013年4月2日		
董寨高寨小学校環境教育活動	小学生	羅山県	20	2013年4月11日		四季報/8号
董寨董橋小学校環境教育活動	小学生	羅山県	20	2013年4月11日		四季報/8号
陝西省第32回愛鳥週間	全民	西安野生動物園	500	2013年4月13日		
西安高新第二学校環境教育活動	教師及び生徒	西安市	300	2013年5月13日		
寧陝小学校百メートル絵描き活動	小学生(1～6年)	寧陝県	150	2013年5月15日		四季報/9号
西安華徳福小学校環境教育活動	教師及び生徒	西安市	12	2013年5月21日		
陝西省師範大学講義	大学生(日本語学部)	西安市	20	2013年5月21日		
寧陝小学校トキ野製復帰基地参観活動	小学生	寧陝県	15	2013年9月25日		四季報/11号
保安小学校、高寨小学校環境教育活動	小学生	羅山県	80	2013年10月30日		
寧陝県小学校環境教育活動	小学生	寧陝県	30	2013年11月1日		四季報/11号

羅山県、張窪、靈山と前峰小学校環境教育活動	小学生	羅山県	100	2013年12月12日		復命書
高寨小学校環境教育活動	小学生	羅山県	20	2014年1月17日		復命書
洋県普及啓発活動	住民	羅山県	多数	2014年1月18日		復命書
前峰小学校環境教育活動	教師及び生徒	羅山県	170	2014年3月12日		復命書
張窪小学校環境教育活動	小学生	羅山県	22	2014年3月17日		復命書
アースアワートキ保護宣伝	住民	西安市	50	2014年3月29日		復命書
紅堂小学校環境教育活動	小学生	羅山県	60	2014年4月23日		復命書
朱鷺湖小学校環境教育活動	小学生	洋県	20	2014年5月20日		復命書
信陽師範大学の普及啓発活動	大学生(日本語学部)	信陽市	80	2014年5月27日		復命書
保安小学校環境教育活動	小学生	羅山県	50	2014年5月28日		復命書
肖畝小学校環境教育活動	小学生	羅山県	50	2014年5月28日		復命書
寧陝県 親子自然体験活動	小学生	寧陝県	60	2014年6月1日	2014年6月2日	四季報/11号
白馬小学校環境教育活動	小学生	羅山県	60	2014年6月11日		四季報/11号
寧陝小学校環境教育活動	小学生	寧陝県	1600	2014年6月16日		四季報/11号
筒車湾、老城、華厳小学校環境教育活動	校長先生	寧陝県	4	2014年6月17日		四季報/11号
周家坎小学校環境教育活動	教師及び生徒	洋県	15	2014年6月18日		四季報/11号
信陽師範大学の普及啓発活動	大学生(英語・日本語学部)	信陽市	150	2014年10月21日		復命書
万河小学校環境教育活動	小学生(1-3年生)	羅山県	105	2014年10月22日		復命書
蓮湖区古都西苑保育園環境教育活動	幼児	西安市	50	2014年10月28日		復命書
墨子橋小学校環境教育活動	4年生	洋県	60	2014年11月25日		復命書
寧陝小学校環境教育活動	小学生	寧陝県	80	2014年11月26日		復命書
華厳小学校環境教育活動	小学生	寧陝県	60	2014年11月26日		復命書
湯坪小学校環境教育活動	小学生	寧陝県	80	2014年11月27日		復命書
平橋小学校環境教育活動	小学生(3-6年生)	羅山県	110	2014年12月25日		復命書
昌湾小学校環境教育活動	小学生	羅山県	100	2014年12月26日		復命書
天橋小学校環境教育活動	小学生	羅山県	50	2015年1月8日		復命書
寧陝県小学校環境教育活動	小学生	寧陝県	300	2015年3月12日	JICAカップ絵画コンクール 及び手書き新聞表彰式	復命書
寧陝県小学校環境教育活動	小学生	寧陝県	40	2015年3月12日	トキ演劇	復命書

別添資料13

環境教育教材(実績)

名称/内容	配布対象者	作成時期 開始	終了	製作部数	配布先・配布数		特記事項
					主な配布先	配布部数	
リュック	各サイト小学生	2011年9月	2012年2月	3000	各サイト小学校	北京:30、西安:50、洋県:1000、寧陝:1000、董寨:900 十、JICA:10、佐渡:10	
トキ文房具セット	各サイト小学生	2011年11月	2012年2月	30000	各サイト小学校	北京:150、西安:3500、洋県:10000、寧陝:8000、董寨:8000 十、JICA:200、佐渡:150	
トキペンケース	各サイト小中学生	2011年11月	2012年2月	12500	各サイト小学校	北京:200、西安:1000、洋県:4000、寧陝:3500、董寨:3500 十、JICA:200、佐渡:100	
トキノート	各サイト保護区・PJ関係者	2011年12月	2011年12月	10000	各サイト小学校	北京:100、西安:600、洋県:3500、寧陝:2500、董寨:3000、 JICA:200、佐渡:100	
董寨野鳥ガイドブック	各サイト小学生・エコツアー参加者	2011年9月	2011年12月	2000	各サイト小学校	洋県:500、寧陝:500、董寨:1000	
トキの絵本(低学年用)	各サイト小学生・小学校	2012年3月	2012年3月	1000	各サイト小学校	洋県:300、寧陝:300、董寨:400	
トキの絵本(高学年用)	各サイト小学生・小学校	2012年3月	2012年3月	1000	各サイト小学校	洋県:300、寧陝:300、董寨:400	
トキの絵本(電子版)		2015年1月					
野鳥下敷き	各サイト小中学生 普及啓発活動参加者	2011年11月	2012年2月	10000	各サイト小学校	北京:10、西安:50、洋県:3000、寧陝:1440、董寨:5500	
トキ折り紙	各サイト小学生普及啓発活動参加者	2012年3月	2012年7月	5000	各サイト小学校	西安:1000、洋県:1000、寧陝:1000、董寨1000、陝西林業庁:1000	
董寨放鳥宣伝用トキFQAパンフレット	各サイト小中学生 普及啓発活動参加者	2013年9月	2013年11月	2500	各サイト小学校	董寨各小学校:1500	
洋県バードウォッチングマニュアル	各サイト小中学生 普及啓発活動参加者	2015年3月	現在	3000	各サイト小学校		
2013年寧陝小学校活動作品集	PJ関係者全て	2014年3月	同年	200	PJ関係者全て	北京:30、洋県:10、董寨:10、 日本関係者:30	
2014年寧陝小学校活動作品集	PJ関係者全て	2015年3月	現在	200	PJ関係者全て		
デコイ(トキの実物大模型)	各サイト保護区・事務所	2011年10月	現在	4	各サイト	洋県:1、董寨:1、西安事務所:1、 寧陝:1予定	
広報ツール (実績)							
名称/内容	配布対象者	作成時期 開始	終了	製作部数	配布先・配布数		特記事項
					配布先	部数	
プロジェクト広報誌(四季報)1号	PJ関係者全て	2011年4月	2011年7月	500(日) 500(中)	中国語版:国家林業局、 バンディングセンター、河南省 省林業庁、陝西省林業 庁、董寨保護区、洋県保 護区、寧陝林業局、閩連 大学の日本語学部等	トキ30周年:中日各200、 各サイト:200、北京:100、 日本:100	
プロジェクト広報誌(四季報)2号		2011年10月	2011年11月	500(日) 500(中)		各サイト:300、北京:100、 日本:200	
プロジェクト広報誌(四季報)3号		2011年12月	2012年1月	1000(日) 1000(中)		西安師範大学:中日各 200、西北大学:中日各 200、交通大学:中日各 200、北京関係者: 200(中)、北京事務所: 100(日)、日本関係者: 100(日)、各サイト:200(中)	
プロジェクト広報誌(四季報)4号		2012年1月	2012年2月	1500(日) 1500(中)		同上	
プロジェクト広報誌(四季報)5号		2012年5月	2012年6月	1500(日) 1500(中)		同上	
プロジェクト広報誌(四季報)6号		2012年8月	2012年9月	1000(日) 1000(中)		同上	
プロジェクト広報誌(四季報)7号		2012年12月	2013年1月	1000(日) 1000(中)		同上	
プロジェクト広報誌(四季報)8号		2013年4月	2013年5月	1000(日) 1000(中)		同上	
プロジェクト広報誌(四季報)9号		2013年8月	2013年9月	1000(日) 1000(中)		同上	
プロジェクト広報誌(四季報)10号		2013年12月	2014年1月	1000(日) 1000(中)		同上	
プロジェクト広報誌(四季報)11号		2014年5月	2014年12月	1000(日) 1000(中)		同上	

プロジェクトパンフレット(初版)		2011年4月	同月	2000(中) (日)		トキ30周年セミナー、タイ林業セミナー、第2回アジア湿地シンポジウム等:2000(中日)	
プロジェクトパンフレット(2版)	PJ関係者全て	2011年8月	2011年9月	1000(中) 1000(英)		ラムサールCOP:500(英)、COP10ブース展示:500(英)JCC会議:100(中)、各研修会:500(中)	配布部数は2012年3月末日現在
プロジェクトパンフレット(3版)		2012年5月	2012年7月	10000(中)		西安各大学:600(中)、JCC:100(中)、北京事務所:100、パンディングセンター:100	
プロジェクトパンフレット(4版)		2014年8月	2014年8月	500(日)		国際鳥類学会:300(日)	
西安園芸博覧会トキ宣伝パンフレット	中国国内の市民一般	2011年4月	同月	20000		博覧会の観光客:20000	
董寨保護区宣伝パンフレット	保護区関係者	2011年9月	現在	10000	河南省内	保護区関係者及び観光客	
董寨放鳥宣伝用トランプ	保護区周辺の住民	2013年1月	同年	4000	董寨保護区	保護区周辺の住民:4000	
董寨放鳥宣伝用看板	保護区周辺の住民	2013年1月	同年	6	董寨保護区	彭新張橋、靈山大馬、朱堂万河、朱堂白馬、靈山九里、鉄ト北安各1枚	
董寨放鳥宣伝用携帯ショットメッセージ	保護区周辺の住民	2013年10月	同日	250000	羅山県内	羅山県の移動通信ユーザ:250000	
董寨放鳥宣伝用ポスター	保護区周辺の住民	2013年11月	現在	5000	羅山県内	放鳥式:1000、各村、鎮の農民:4000	
董寨放鳥宣伝用テレビCM	保護区周辺の住民	2013年11月	同月	1ヶ月	羅山県内	羅山県内テレビ放送	
董寨放鳥宣伝用テレビ字幕	保護区周辺の住民	2013年11月	同月	1ヶ月	羅山県内	羅山県内テレビ放送	
董寨放鳥宣伝用CD	中国国内の市民一般	2013年11月	現在	1	関係者	董寨保護区管理局:1	
董寨放鳥宣伝用トキFQAパンフレット	保護区周辺の住民	2013年11月	現在	2500	羅山県内	董寨保護区:300、各小学校:500、住民1000	
プロジェクトホームページ	日本・それ以外の市民一般	2011年6月	現在	1サイト	-	-	
プロジェクト微博アカウント	中国国内の市民一般		現在	1サイト	-	-	随時更新
トキエコバック(1-2版)	各サイト保護区・PJ関係者研修参加者、普及啓発活動参加者、環境教育活動参加者等	2011年11月	2012年3月	3000	各サイト・PJ関係者	洋県:700、寧陝:500、董寨:700、JICA:50、佐渡:50	
トキ・オナガギエコバック(3版)	董寨保護区周辺の住民研修参加者、普及啓発活動参加者、環境教育活動参加者等	2013年10月	2013年12月	2000	羅山県内	董寨保護区周辺の住民:2000(モニタリングの同時、普及啓発活動のツール)	
トキエコバック(4版)	各サイト保護区・PJ関係者研修参加者、普及啓発活動参加者、環境教育活動参加者等	2014年7月	2014年7月	1000	各サイト、PJ関係者	パンディングセンター:200、董寨:200、寧陝:200、定例会:100、中日韓国際セミナー:50、親子活動:250、	
トキエコバック(5版)	各サイト保護区・PJ関係者研修参加者、普及啓発活動参加者、環境教育活動参加者等	2014年3月	2014年3月	2000	各サイト、PJ関係者	寧陝県成果報告会:100	
トキマグカップ	各サイト保護区・PJ関係者研修参加者、普及啓発活動参加者、環境教育活動参加者等			714	各サイト・PJ関係者	北京:10、西安:104、洋県:200、寧陝:150、董寨:150、JICA:50、佐渡:50	
トキのしおり	各サイト保護区・PJ関係者研修参加者、普及啓発活動参加者、環境教育活動参加者等	2013年4月		10000	各サイト・PJ関係者	陝西省林業庁:3000、寧陝小学校:500、西安の小学校:2000、董寨の小学校:1000、洋県小学校:1000	
寧陝県朱鷺保護宣伝用看板	寧陝県内、地域住民	2014年10月	2014年11月	2	寧陝県県内	高速道路入口:1、国道:1	
バードウォッチング・エコツアーシンポジウム宣伝ポスター	董寨保護区	2012年	2012年	1000部	各小学校	各小学校:1000	
洋県トキカレンダー	洋県保護区・住民	2010年	2010年	10000部	洋県保護区、住民、小中学校	洋県保護区、住民、小中学校:10000	
トキ普及啓発用カレンダー	各サイト保護区・学校	2011年	2011年	12000部	各サイト保護区・学校	洋県:4000、寧陝:3000、董寨:3000、北京:500、陝西省林業庁:1000、その他:500	
洋県有機梨カレンダー	洋県保護区・地域住民	2012年	2012年	2000部	洋県保護区、住民、小中学校	洋県保護区、住民、小中学校:2000	
寧陝トキカレンダー	寧陝保護区・地域住民	2012年	2012年	2000枚	寧陝県、住民、小中学校	寧陝県、住民、小中学校:2000	
董寨トキ普及啓発用壁掛けカレンダー	董寨保護区・地域住民	2012年	2012年	2000部	寧陝県、住民、小中学校	董寨保護区、農民、小学校:2000	

董寨トキ普及啓発用卓上カレンダー	董寨保護区・地域住民	2012年	2012年	4000部	羅山県内関係者	羅山県内関係者:4000	
洋県トキカレンダー	各サイト保護区・学校	2013年	2013年	2000部	洋県保護区、住民、小中学校	洋県保護区、住民、小中学校:2000	
寧陝トキカレンダー	寧陝県内、地域住民	2013年	2013年	2000部	寧陝県、住民、小中学校	寧陝県、住民、小中学校:2000	
董寨トキカレンダー	董寨保護区・地域住民	2013年	2013年	4000部	董寨保護区、農民、小学校	董寨保護区、農民、小学校:2000	
洋県トキカレンダー	各サイト保護区・学校	2014年	2014年	2000部	洋県保護区、住民、小中学校	洋県保護区、住民、小中学校:2000	
寧陝トキカレンダー	寧陝県内、地域住民	2014年	2014年	2000部	寧陝県、住民、小中学校	寧陝県、住民、小中学校:2000	
董寨トキカレンダー	董寨保護区・地域住民	2014年	2014年	5000部	保護区、農民、小学校、羅山県内関係者	保護区、農民、小学校、羅山県内関係者:5000	
洋県トキカレンダー	各サイト保護区・学校	2015年	2015年	4000部	洋県保護区、住民、農民、小中学校	洋県保護区、住民、農民、小中学校:4000	
寧陝トキカレンダー	寧陝県内、地域住民	2015年	2015年	3000部	寧陝県、住民、小中学校	寧陝県、住民、小中学校:3000	
董寨トキカレンダー	董寨保護区・地域住民	2015年	2015年	5000部	保護区、農民、小学校、羅山県内関係者	保護区、農民、小学校、羅山県内関係者:5000	
トキTシャツ灰	PJ関係者	2012年	2012年	100枚	バードウォッチング研修会	バードウォッチング研修会:100	
トキTシャツ白	PJ関係者	2011年	2011年	200枚	JCC、定例会、モデル事業会	JCC:30、定例会:10、モデル事業研修会:170	

別添資料14

エコツアー試行実績

ツアー名	参加者・人数	コース及び活動内容	実施日/日程	実施後の評価・報告等
洋県 トキツアー	西安在住邦人 22名	西安→洋県:トキ飼養場、トキねぐら、蔡倫墓 →楼観台:希少動物救護繁殖センター→西安	2011年12月17-18日 1泊2日	参加者アンケート 実施報告書 12/28
寧陝 洋県 漢中 トキと三国志史跡ツアー	日本からの旅行者(環境省OB) 9名	西安→楼観台:希少動物センター→寧陝:寨沟棚田→洋県:飼養場、野生トキ →漢中:諸葛孔明墓など→西安	2012年7月3-5日 2泊3日	参加者アンケート 四季報7号 2012年8月
董寨 トキと茶摘みツアー	北京在住邦人(ODA 関係者)10名	北京→董寨:飼養場、霊鼎峰有機茶園など →北京	2014年4月19-20日 1泊2日	参加者アンケート 実施報告書 5/9
董寨 バードウォッチングと茶摘みツアー	武漢野鳥愛好者グループ	武漢→董寨:飼養場、白雲BWコース、霊鼎峰有機茶園など→武漢	2015年4月10-11日 1泊2日	

親子自然体験活動実績

場所・活動テーマ	実施日/日程	参加者数	主な活動	実施後の評価・報告等
寧陝 寨沟村 里山歩き	2013年4月5日(清明節) 日帰り	17組36名	里山ハイキング、トキ解説・観察、牛耕作業見学、かかし作りなど	
洋県 なしもぎツアー	2013年8月17-18日(土日) 1泊2日	2組6名	梨もぎ、トキ観察、街並み見学など	
寧陝 寨沟村 稲刈り体験	2013年9月20-21日(中秋節) 1泊2日	約40名	稲刈り、生きものの観察、トキ観察など	参加者アンケート

寧陝 寨沟村 清掃ボランティア	2013年11月16日(土) 日帰り	9名	ゴミ拾い、トキ観察、お絵かきなど	
寧陝 寨沟村 水田復活作業	2013年12月6日(金) 日帰り	35名	放棄水田の鋤起こし、除草手伝いなど	
洋県 油菜・梨花探勝ツアー	2014年4月6-7日(清明節) 1泊2日	29名	油菜・梨花節探勝、トキ観察、お絵かきなど	
寧陝 寨沟村・朱家嘴村 田植え体験	2014年6月1-2日(端午節) 1泊2日	約60名	田植え、村の祭り、粽づくりなど	参加者アンケート
洋県 なしもぎツアー	2014年8月16-17日(土日) 1泊2日	17名	梨もぎ、トキ観察、街並み見学など	
寧陝 寨沟村 稲刈り体験	2014年10月2-3日(国慶節) 1泊2日	約50名	稲刈り、クリ拾い、動植物観察など	NPOへのヒアリング
				各活動の復命書 NPOの年間活動報告書

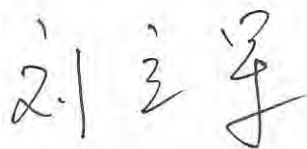
**中日技术合作
关于人与朱鹮和谐共存的地区环境建设项目
终期评估协议备忘录**

中日双方为确认技术合作人与朱鹮和谐共存的地区环境建设项目(以下称“项目”)的实施成果、评估情况、剩余时间内的课题及今后的方向,组成了由中方国家林业局刘立军及日方日本国际协力机构神内圭为团长的联合评估调查团,于2015年4月16日至2015年4月24日进行了调查。

联合评估调查团对中日两国相关人员以访谈及现场考察的形式进行了调查。调查结果体现在后附的联合终期评估调查报告中,中日双方就报告书内容达成一致,并决定将评估调查结果提交本项目的联合协调委员会,同时向双方政府汇报。

本备忘录正本为中日文各一式两份,两种文本具有同等效力。

2015年4月24日 中国 西安



刘 立军
中国国家林业局
对外合作项目中心
终期评估调查团团长



神内 圭
日本国际协力机构
地球环境部
终期评估调查团团长

附加文件

中华人民共和国
人与朱鹮和谐共存的地区环境建设项目
终期联合评估调查报告

西 安

2015 年 4 月 24 日

第1章 调研概要

1.1 序文

根据 2010 年 1 月 29 日中华人民共和国与日本国政府之间签署的实施协议会谈纪要（以下称“R/D”），于 2010 年 9 月 25 日启动了为期五年的人与朱鹮和谐共存的地区环境建设项目（以下称“项目”）。

依照现行的项目逻辑框架表（以下称“PDM”）第三版，项目目标如下：

【项目目标】

在项目实施地区，完善人与朱鹮和谐共存的环境建设。

【总体目标】

在项目地区及相关地区，通过完善和推广人与朱鹮和谐共存的示范模式，为促进中国的生态文明建设和履行国际生物多样性公约做出贡献。

日本国际协力机构（以下称“JICA”）为有效实施技术合作，采用项目周期管理（以下称“PCM”）作为项目管理方法。本报告书作为 PCM 方法的一个环节，是在距项目合作期结束还有大约半年之际实施的终期评估概要报告书。

1.2 调研目的

本次终期评估的目的如下：

- (1) 确认项目活动的实施成果。
- (2) 以评估五科目（妥当性、有效性、效率性、影响、持续性）为基础评估项目。
- (3) 确认项目剩余期间内需要解决的课题以及今后的工作方向。

中日双方的相关人员共同实施上述评估工作，将调研结果制作成终期评估报告书提交联合协调委员会（以下称“JCC”）。

此次终期评估是基于 2013 年 5 月制作的 PDM 第三版（**附件资料 1**）和项目活动计划（以下称“P0”）第四版（**附件资料 2**）的内容实施的。

1.3 终期评估调查团构成

(1) 中方

姓名	所属单位	职务
刘立军 路宝忠 熊林春	国家林业局对外合作项目中心 陕西汉中朱鹮国家级自然保护区管理局 河南省信阳市野生动植物保护协会、河南省信阳市野生动植物保护管理站	副主任 原副局长、教授级高工 秘书长、高工

(2) 日方

姓名	专业	所属单位	来华日期
神内圭	总负责	JICA 地球环境部森林与自然环境组 森林与自然环境保护第一组课长	4/16-25
吉井雅彦	自然环境保护	原环境省自然环境局环境信息分析官	4/16-25

三戸森宏治	评估计划	JICA 地球环境部森林与自然环境组 森林与自然环境保护第一课	4/16-25
吉田进一郎	评估分析（1）	JICA 中国事务所	4/17-24
李 飞雪	评估分析（2）	JICA 中国事务所	4/17-24

1.4 评估方法

1.4.1 评估程序

中日双方组成联合评估调查团，对项目 PDM(附件资料 1)、项目活动计划表（P0、附件资料 2）、项目自我评估表、问卷等进行了资料分析，对项目相关单位和人员进行了访谈式调研，并对部分项目地区进行了实地考察等。以此为基础形成了终期联合评估调查报告书。

1.4.2 调研内容

确认项目的实际开展情况。

按照 R/D 及 PDM 的计划内容，对项目的投入情况、成果产出情况和项目目标的实现程度进行查证。

实施过程的查证

纵观项目实施的全过程，对项目工作是否按照计划开展、项目执行过程的监督以及项目内部沟通是否顺畅进行查证。

评估五科目

- (1) 妥当性：
援助项目在目标群体、受援国、援助机构的重视程度以及与政策、方针之间的协调性。
- (2) 有效性：
衡量援助项目的目标实现程度的尺度。
- (3) 效率性：
检查相对于投入所产出的成果(定性及定量)。是用于表示达成援助项目所期待的结果、表示使用了最小成本资源的经济术语。为确认是否采用了最有效率的过程，通常需要与其他工作开展情况进行比较。
- (4) 影响：
开展援助项目直接或间接地、有意或无意地产生的正面、负面的变化。包括援助项目给当地社会、经济、环境以及其他发展指标带来的主要影响和效果。
- (5) 可持续发展：
确认援助机构提供合作的项目结束后，援助项目所产生的效果是否持续。援助项目必须在环境层面、财政层面上具有可持续性。

第2章 项目业绩

本章对 PDM 中的指标值所涉及的相关项目实际业绩，进行综合性记述。

2.1 投入业绩

调研期间确认的中日双方对项目的投入实际情况如下

中方

- 对口人员（以下称“C/P”）配备：34 名（截至 2015 年 3 月末）

明细：林业科学研究院全国鸟类环志中心 2 名、陕西省林业厅 5 名、陕西汉中朱鹮国家级自然保护区管理局 10 名、宁陕县林业局 6 名、河南省林业厅 2 名、河南董寨国家级自然保护区管理局 9 名、翻译 1 名、司机 1 名

• 预算措施 至 2015 年 3 月共计 1,261 万元（C/P 活动经费、项目办公经费、日方提供设备的维护费、大网笼用地和施工费、司机的人员经费等）

- 项目办公室：全国鸟类环志中心

日方

- 长期专家：总计 165MM（项目于 2015 年 9 月结束前的计划）

1. 专家组首席顾问 60MM
2. 业务协调/环境教育 57MM
3. 鸟类保护 48MM

- 短期专家：共计 25MM

鸟类保护、参与式开发领域 2 名

• 材料器材和设备提供：823 万元（三个项目点大网笼材料费、四驱越野车 3 台、商务车 1 台、皮卡车 3 台、录像机、OA 设备、野外监测器材等）

- 当地活动经费：1,164 万元（至 2015 年 3 月）

试验施工费、技术培训费、翻译费

- C/P 赴日培训：26 名

2.2 项目活动实际开展情况

2.2.1 成果 1 的实现程度

成果 1	指标
完善环境信息（包含朱鹮在内的自然和社会环境）	1.1 制作有关环境信息的报告。 1.2 对口人员能够充分了解自然环境信息的管理和共享方式及其改善方法并能够进行明确的讲解。

进行了三处项目实施地朱鹮栖息环境相关的基础调查，在洋县和宁陕县进行了针对示范项目对象村的社会环境基础调查，并都形成了报告书，发送给对口机构。

在野外监测信息管理及其共享方面，在董寨引进了依据项目指导制作的信息记录模板，也被洋县和宁陕县借用参考。另外，还通过召开各方参加的野外监测培训会以及项目定期例会等形式，在各地对口人员之间实现了朱鹮栖息和繁殖情况等的信息共享。通过继续保持各地之间的信息共享形式，期待进一步加强信息完善与共享。

2.2.2 成果 2 的实现程度

成果 2	指标
建立朱鹮野化放飞的相关体系	2.1 通过项目的实施，使得大网笼、湿地环境、泥鳅养殖设施、监测器材等得以完善，硬件设施得到正确利用和维护管理。 2.2 培养骨干野外监测技术人员 20 人。（将集中授课以及现场培训的内容付诸于实践）。

项目完善或提供的野化放飞训练大网笼、水利设施（修复）、泥鳅养殖设施、监测器材等设施和设备得到正确利用和维护管理。大网笼分别投入到三处项目实施地的朱鹮驯化饲养中使用。值得一提的是，项目提供支援的董寨已经进行了两次放飞并成功实现了放飞朱鹮在自然环境下的繁殖，野化放飞机制得到了完善。通过项目投入对水渠进行了修复和完善，并在对口机构或村落方面的维护管理下，在农户的生产活动中发挥作用。泥鳅养殖设施最初存在一些技术等问题，目前已经解决，项目选定的农户仍在使用的。保护区长期收购，保障了农户经营的积极性，带动了周围若干家农户开始养殖泥鳅。

通过举办培训班、现场指导，提升了负责野外朱鹮监测的技术人员的能力，目前活跃在各地的野外监测岗位。特别是通过完善数字环标记形式，能够更好地区分不同地域的野生种群和个体，获得了各种必要的信息，便于采取保护措施。野外监测队伍是在克服人员、经费、设备等短缺的条件下，努力完成了任务。

2.2.3 成果 3 的实现情况

成果 3	指标
建立示范性的社区参与型模式	3.1. 至少提出 6 类示范项目的方案，示范项目及其受益者的选定方法和选定结果得到相关方的认可。 3.2. 详见附件 1。

在三处项目实施地开展了七项示范项目。在洋县草坝村的有机梨树栽培项目中，参加过培训的农户将自己学到的技术教给别的农户，产生了良好的传帮带效果。项目分别在四个地点实施了水渠等的修复工作，惠及 300 家农户、约恢复水田 380 亩。

宁陕县，在寨沟村实施了有机板栗和中药材（猪苓、天麻）栽培、亲子自然体验活动等示范项目。期望实现高收益的猪苓栽培农户由一开始的 11 家增加到 50 家，板栗、天麻的栽培户也很稳定。与 NPO 一起实施的亲子自然体验活动，在参加者的支持下得以持续开展，已落实到村里，成为固定项目。在寨沟村、朱家嘴村实施了水渠等修复项目，惠及 90 家农户、恢复与修复水田约 90 亩，恢复了梯田景致。在寨沟村还通过与合作社签署协议，开展 140 亩水田的无农药有机大米的栽种。

在董寨，项目通过专业合作社的茶园，实施了有机茶栽培示范项目。项目在持续开展技术培训的同时，还提供了沼气抽渣运输车、诱虫灯等材料器材和设备，同时在尝试开展采茶旅游，提高栽培技术，开拓销售渠道方面提供了多元化支援。这里已经成了先进的有机茶栽培基地，已开始举办面向科研院所的研讨会，并多次接待来自周边地区的考察。项目提供的器材、设备由合作社继续使用。

2.2.4 成果 4 的实现情况

成果 4	指标
提高包含从事朱鹮保护在内的自然环境保护工作者和当地社区公众的意识	4.1. 至少有 20 名教师或环境教育人员，能够正确地运用项目制作的指南、手册或教材等进行讲解。 4.2. 在附加资料中详述。 4.3. 微博（中国版 Facebook）关注人数超过 2000 人。 4.4. 参加座谈会、研讨会的人中有 80%对活动总体上表示满意。

三地由小学教师等构成的共计 29 名环境教育人才，利用项目编写的教材做了相关说明讲解。项目编写的教材和指南等被用于在保护区、学校、村落开展的环境教育和宣传活动。

宣传方面，经确认项目 SNS 注册人数超过 2300 人，座谈会、研讨会参加者的满意度较高。宁陕县的示范项目成果交流会、董寨的有机茶栽培示范项目报告会信息，在县政府网站刊载。

在洋县，保护区工作人员已经能够开展项目引进的宣传推广活动。

在宁陕县，在小学校里已经将环境教育课程作为教学计划中的一环，定期实施。

在董寨，向 11 所小学开展了有关朱鹮的讲解活动，听过课的老师也能够对朱鹮的栖息生态环境进行初步的说明。观鸟路线仍然被来访者持续采用。在项目的援助下，设立了说明引导牌。

2.3 项目目标的实现程度

项目目标	指标
在项目实施地区，完善人与朱鹮和谐共存的环境建设。	1. 实施示范项目的村落中，至少 50% 的民众对于项目实施机构以及相关机构开展的朱鹮保护工作和社区参与型示范项目，总体上满意。 2. 从事朱鹮保护工作的第三方专家，对项目实施地区人与朱鹮和谐共存环境，作出总体上有所改善的判断。 3. 朱鹮保护以及农业、旅游的各管理部门、农业合作社、农家乐经营者、旅游从业者、教育机构、民间团体等，召开有关人与朱鹮和谐共存的环境建设相关主题的联席会议（促进有机农业发展、发展生态旅游、开展环境教育、扩大水田和冬水田等）。

四项成果均有望得以实现，由此可判断项目合作期间内，大致可实现项目目标。

朱鹮保护和社区参与的示范项目起到的效果，根据第三方评估调研的结果以及访谈结果，判断参与项目的村落人们的满意程度比较高，对人与朱鹮和谐共存的环境改善起到了促进作用。

由相关单位、相关人员参加的关于和谐共存的环境建设的协商会议，在示范项目实施地分别召开了成果汇报会、交流会，成果的效应扩大到了县级政府部门、民间团体、企业以及专业合作社。（洋县的有机梨栽培、宁陕县的中药材栽培/水田恢复/自然体验、董寨的有机茶栽培）。

2.4 总体目标的实现预测

总体目标	指标
在项目地区及相关地区，通过完善和推广人与朱鹮和谐共存的示范模式，为促进中国的生态文明建设和履行国际生物多样性公约作出贡献	1. 项目提出的建议反映到相关保护政策中。 2. 朱鹮野化放飞、野外监测及数据管理等技术资料成为指南性的文件，可为其他地区提供参考。 3. 项目实施地区开展的工作，可为其他地区的相关人员提供参考。 4. 至少每年一次在相关国际性活动中，展示朱鹮保护项目成果。

总体目标方面，实现的前提条件是，项目实施期内，继续编制技术指导手册等资料。项目实施期间在国际性活动中展示了项目成果。如果能够明确项目成果的推广应用计划，可以判断在项目结束后有望在一定程度上实现总体目标。

2.5 项目实施过程的查证

2.5.1 项目实施地的选定及合作

选定了已经具有朱鹮放飞计划的三个地点作为项目活动实施地。以每个实施地为单位单独制定项目工作计划并开展相关活动。通过实施项目，促进了项目实施地之间的技术交流和信息共享等，下一步是要建立信息交流和共享的方式和机制。

2.5.2 项目办公室的设置

项目办公室分别设在位于北京的全国鸟类环志中心和陕西省西安市。设在西安的项目办公室方便了与陕西省林业厅、洋县、宁陕县等对口人员保持顺畅的沟通。尽管两个项目办公室存在地域上的距离，但是通过内部密切联系，项目工作得以顺利开展。

2.5.3 关于外国人进入实施地受限的应对措施

两个项目实施地（陕西省洋县、宁陕县）针对外国人限制进入，日本专家进入该地需要事前申请并获得许可。项目前半期，在相关人员的努力下，项目活动开展未受到大的影响。而项目后半期，获得许可的难度加大，虽经国家林业局协调中方相关部门，但日本专家仍无法亲赴该项目实施地进行直接的技术传授。项目调整了开展方式，由日本专家直接进行技术指导的方式，改为由中方对口人员或项目中方助理以及当地专家进行技术指导。

日本专家不能够直接进行指导，一定程度上影响了面向对口人员传授日本关于实施里山恢复等措施积累起来的基于多方主体参与建立起来的机构运营、项目管理方法的传授效果。

2.5.4 效果明显的宣教活动

项目充分利用多种宣教工具，积极介绍了相关信息。通过四季报和微博（SNS）介绍项目活动、举办当地小学生参加的朱鹮绘画比赛、绘本阅读等形式，积极扩大项目活动的认知度，取得了环境教育效果。还通过开展宣教活动，与自然环境体验活动实施机构建立了合作渠道，还产生了当地居民发现朱鹮提供信息等效果。项目制作的以朱鹮为主题的环保袋和其它用具，有效应用于地区环境教育活动以及国际会议等的展示。

第3章 评估结果

五项评估结果概要如下：

3.1 妥当性（高）

项目与中日共同保护朱鹮计划的目的和方针、方法保持一致，符合中国国家环境保护第12个五年规划、野生动物保护法、与朱鹮保护相关的政策规定的要求。也是一项帮助两国履行生物多样性公约（爱知目标、里山倡议）及湿地公约等国际承诺的项目。同时，JICA 重视在中国开展“以解决环境等全球规模的问题为目的的合作”，因此本项目实施的意义深远。

3.2 有效性（高）

通过开展示范项目和宣传活动，当地居民等相关人员进一步理解了改善朱鹮的栖息环境、提高生活水平和地区振兴可以共同发展的重要性。另外，由于示范项目得到了当地居民的支持，涌现了积极参与项目活动的人员，由此可判断本项目所树立的示范项目具有有效的示范效应。各实施地关于发展有机农业、恢复水田、强化野外朱鹮监测机制等工作顺利，确实取得了成果。并且可以确认到如下效果：政府部门、教育部门、当地居民等相互配合开展工作，农业生产考虑地区生态环境因素、通过对水渠等的保护修复改善朱鹮的栖息环境、通过环境教育提高环保意识。由此，可以判断促进了项目目标（人与朱鹮和谐共存的环境建设）的实现。在示范项目实施地，当地政府对获得有机认证的提供政府补贴、农业专业合作社与农户之间的签约生产，促进了居民参与式项目示范模式的建立。

3.3 效率性（比较高）

项目有效利用当地的人力资源，在财政有限的条件下，进行了有效的投入。日本专家的活动虽受到制约，但通过项目的当地工作人员开展了大量工作进行了弥补。另外，董寨的朱鹮野外监测工作，最后一年的技术指导，未派遣日本专家，而是由全国鸟类环志中心的对口专家代替实施的。朱鹮野化放飞训练大网笼的建设方面，项目提供了部分材料、仪器和设备，同时利用了日本外务省的利民工程援助项目和中国政府提供的配套建设资金等综合形式，提高了资金使用效率。虽然有些设备未能保留使用情况记录，但实际上基本都得到了有效利用，并且为了确保其公有性，部分器材设备通过农业合作社进行提供和管理，采取了一些办法，如和受益农民签订协议等。通过示范项目改善生活水平和环境教育活动，可判断，确实提高了农民对朱鹮保护政策的支持程度、也提高了示范项目参与人员对项目的支持程度。

如能对需求和成本的效益加以留意，对项目投入的利用状况及效果加以跟踪管理，会进一步提高效率。日本专家和对口人员配备到位，其技术能力得到有效发挥。但是，由于中国的相关规定，日本专家在部分地区的活动受到限制，对活动效率产生了一定程度的影响。

3.4 影响（高）

在改善生活水平活动的波及效果方面，专业合作社在宁陕县寨沟村、罗山县董寨，围绕有机农

业和生态旅游开展了的农村建设项目，取得了进展。此外，在董寨也确认到新的发展动向，据悉罗山县政府计划利用今后五年的时间，将全县茶叶种植全部转换为有机种植。

项目实施期间，朱鹮放飞地点从 2 处发展到 6 处，宁陕县已经在申请设立项目实施地区的省级自然保护区，这些可以评价为通过项目产生的间接影响。野化放飞和野外监测技术方面，由对口人员执笔编写了相关手册，今后可以通过举办有项目实施地以外的其它地区参加的研讨会等，扩大该技术的影响。

项目编写的环境教育材料，保护区工作人员和当地教师将继续使用。宁陕县已将环境教育纳入正式课程。

此外，对外传递项目的贡献和活动内容，在 2011 年的中国朱鹮保护三十周年研讨会、2012 年和 2014 年的中日澳韩政府间候鸟保护协定会议、2012 年的亚洲湿地论坛和国际湿地公约缔约国大会、2014 年的第 16 届世界鸟类学会、世界公园会议和中日韩朱鹮会议等会议上，项目专家和对口人员都做过相关情况介绍。

3.5 可持续性（中）

相关人员对于人与朱鹮和谐共存的观念转变、对于技术的灵活利用和人才培养是项目成果实现可持续发展的核心。

经确认，技术交流和培训能力得到了提高。对口人员有部分人事变动，但作为一个组织机构，其持续性得到保障。此外，项目提供的朱鹮监测和饲养设备在各地区得到很有效的利用，今后如果能够确保维护管理经费，那么有希望继续得到有效利用。董寨引进了项目提议的监测方式，希望今后还能继续使用。

有机农业振兴、生态旅游等部分示范项目，吸纳了农业专业合作社和 NPO 的参与，引进商业运营模式开展活动，农产品中的有机米和有机茶已经转化为商品。地方政府为振兴农业制定了补贴制度、农业专业合作社向有机农业生产注入资金的方式，有效地保证了项目的持续发展，期待今后能够继续开展。

对大网笼等一些由项目提供的器材设备和设施方面，需要制定出明确的修复和维护管理计划，以保持其可持续性。项目实施各相关单位认识到各实施地之间的技术交流、信息共享及定期人员交流非常重要，今后有必要保持合作机制的连续性。地方政府意识到环境教育和生态旅游等项目实施活动的意义和重要性，有望继续支持这方面的活动。

第4章 结论

在中日两国政府及相关部门的指导和支持下，在日本专家、项目对口人员及中方专家的不懈努力下，项目得以按照计划实施，基本上取得了预期的成果。虽然项目对象地区分散、相关机构众多，却依然完成了朱鹮的饲养、野化训练和野外监测所必须的设施建设，并通过充实设备、举办培训班和现场培训等活动，加强了对口单位的监测管理等能力建设。并且，鉴于当地居民承担着改善野生朱鹮栖息环境的重担，项目活动中将当地居民纳入其中，并将朱鹮及其栖息环境作为资源基础，开展振兴地区经济的示范活动。从而促进了朱鹮保护工作的进一步发展。通过开展环境教育，促进意识的提高和理念的转变，为实现“人与朱鹮共存”做出了贡献。特别是河南省罗山县将朱鹮的野化放飞和生态环境保护有机结合，促进了地区发展。

项目致力于针对中国国内和日本方面的宣传活动，不仅增强了项目的影响力，而且向市民和决策者宣传了朱鹮保护工作。同时向日本地方政府及科研机构、市民团体组织等与朱鹮保护有关的各类组织机构提供了支持，通过朱鹮保护促进了中日技术交流和中日友好。

里山倡议提倡自然资源的可持续利用与管理，项目基于这一理念，开展了一些相关工作，对里山倡议的发展做出了贡献。

第5章 建议

5.1 项目实施期内的建议

（1）项目成果的总结与分享

本项目在实施期内，建立了人与朱鹮和谐共存的地区环境建设的示范。今后将继续开展提高野外监测技术、提高生活水平的活动以及环境教育活动。同时，为了给各地提供参照，需要对项目成果进行适当的总结归纳，便于在更多的相关人员之间实现共享。

项目应该总结一个建议方案，各项目实施地分领域制作报告书并于项目结束前，在各项目实施地实现共享。

（2）朱鹮保护宣教用具的有效利用

本项目制作了朱鹮绘本等系列宣教用具，为扩大宣传朱鹮保护的重要性做出了贡献。项目剩余时间里应该对项目制作的宣教用具的有效利用方法进行总结。今后，项目实施地所在的各县林业局、保护区需要继续保持与社区以及学校之间的联系，继续开展环境教育活动，尽量努力扩大其效果。在自然体验活动方面，期待今后通过相关机构对指导人员的培养和活动场地的建设，为继续实施相关活动提供支持。

（3）确保日方提供器材设备的维护管理机制

为了能够对 JICA 提供的器材设备进行妥当的管理，项目应该指定合适的人选作为设备管理责任人，并保持持续的管理机制。另外，对于项目提供支援建设的大网笼、水田灌水渠系等基础设施，是持续开展朱鹮栖息环境保护的重要保障，应该确保必要的经费预算，以应对今后的维护管理。

（4）地区建设

保护区和项目实施地相关方的共同努力，持续开展项目和相关活动对于朱鹮保护是至关重要的。项目结束前，重点在于加强各项目实施地的活动实施机制。在政府相关部门、小学、农业合作社、民间团体等的多方合作机制中，以负责朱鹮保护的政府部门为核心，发挥协调政府相关部门，指导、协调、实施和支持小学、农业合作社、民间团体等的主体作用。

（5）确保提高生活水平开展相关工作方面的可持续性

通过本项目实施的有机梨栽培、有机茶栽培等示范项目，促进了项目地居民生活水平的提高，可确认这些是属于具有独立发展可能性的项目。今后，为了应对朱鹮栖息范围的扩大，“人与朱鹮和谐共存的地区环境”逐步宽阔，重要的工作内容是总结项目经验，实现广泛的共享。期待能够在项目剩余期间内完成。另外，为了能够使农业得到长期发展，希望建立面向一般农户的低息长期融资。

5.2 对项目结束后的建议

评估调查团针对项目结束后继续和扩大朱鹮保护事业，重点提出以下几点建议：

（1）促进信息交流与分享

鉴于项目实施期间召开的例会具有效果，希望项目结束后召开由洋县以及各再引入地区参加的信息交流会。届时日方希望有机会参加，以达到中日间技术交流的目的。

（2）加强野外监测机制建设

开展广泛的数据收集分析，并将结果反映到政策层面以及开展培训等组织能力建设是必要的。

希望通过培养志愿者，加强野外监测工作；通过学生参与、社区合作等形式实现多渠道的野外监测。为此，人材培养和对其活动的支持是必要的。

（3）巩固示范项目成果

建立有效地接待自然体验活动的示范设施是必要的。特别是能够保证城市儿童放心使用的必要设施（露营地、盥洗设施等）。

为进一步推广有机农业，需要专家为建立有机和低残留农药农产品的销售渠道提供指导、组织消费者考察、开设商品销售旗舰店、举办培训、完善手册等。

（4）继续开展中日朱鹮保护合作

希望开展与上述活动相关的活动，例如通过朱鹮栖息地相关人员或青少年的互访等形式，促进两国人民之间的交流。

第6章 经验与启示

本项目作为保护野生物种的项目，把保护濒临灭绝的朱鹮和提高当地居民生活水平有机地结合起来，进行了积极地尝试和探索，并取得了一定的成效。为今后类似项目的执行提供了参考和借鉴。由此总结出以下几点主要经验与启示：

（1）项目宣传机制

对于需要获得地区居民的支持和理解才能够实施的珍稀野生动植物保护等项目来说，宣传工作是项目实施的重要措施。本项目从启动之初就将宣传工作列为重点内容，配备了负责设计制作视觉宣传材料的本地工作人员，与负责环境教育的专家一起及时完成了为数众多的宣传材料，对启发居民的环境保护意识起到了较大的推动作用。

（2）有效利用当地资源

针对本项目所提出的地区环境建设需求，不同的实施地开展了各自不同的工作，农业指导方面需要在果树、茶叶、中药材栽培及泥鳅养殖等方面进行适合当地情况的专业技术性指导。项目优先在当地寻找相关专家并发挥其作用。这一做法在技术的适用性和成本层面都是有效的。

（3）关于与环境教育部门之间的合作

使用绘本等多种环境教育教材、采用多种手法对小学等开展的环境教育，深受孩子们的欢迎，取得了效果。为持续采取并推广此项措施，希望通过将学校教育相关部门纳入 JCC 成员等方式，确保建立便于自然环境保护部门及学校教育相关部门协作的机制。

（4）关于提高生活水平示范项目的选定

为了使提高生活水平示范项目的效果最大化，充分掌握并分析现状是重要的。项目准确掌握了对象地区居民的生活情况、需求、现行的生活改善措施和产品销路，考虑到了地方政府采取政策性保障措施的可能性，使示范项目取得了成功。通过充分考虑各地的背景等情况，不仅可以采用新的提高生活水平的方法，还可以通过改善地区居民传统的农业技术等，使项目在有限的实施期间内产出效果。

附件资料清单

- 附件资料 01: 项目设计逻辑框架表 (PDM)
- 附件资料 02: PO
- 附件资料 03: 当地活动经费
- 附件资料 04: 主要提供器材清单
- 附件资料 05: 现地再委托调查一览表
- 附件资料 06: 当地顾问和人员利用情况
- 附件资料 07: 日本专家派遣情况和专业划分
- 附件资料 08: 研讨会召开情况
- 附件资料 09: 中国国内培训情况
- 附件资料 10: 赴日培训情况
- 附件资料 11: C/P 配备情况
- 附件资料 12: 环境教育活动开展情况
- 附件资料 13: 环境教育教材情况
- 附件资料 14: 生态旅游和自然体验活动情况

项目逻辑框架（PDM）

项目名称：人与朱鹮和谐共存的地区环境建设项目
(The Project for Harmonization of Local Community and the Crested Ibis)
项目地区：陕西省洋县、宁陕县，河南省罗山县

项目实施期间：5 年
目标群体：陕西省洋县、宁陕县和河南省罗山县的社区居民、担任包括朱鹮在内的自然环境保护管理等相关人员

第三版

概要	指标	获得方式	外部条件
总体目标 在项目地区及相关地区，通过完善和推广人与朱鹮和谐共存的示范模式，为促进中国的生态文明建设和履行国际生物多样性公约作出贡献。	1. 项目提出的建议反映到相关保护政策中。 2. 朱鹮野化放飞、野外监测及数据管理等技术资料成为指南性的文件，可为其他地区提供参考。 3. 项目实施地区开展的工作，可为其他地区的相关人员提供参考。 4. 至少每年一次在相关国际性活动中，展示朱鹮保护项目成果。	1. 相关保护政策文件、访谈调查 2. 指南、访谈调查 3. 来访人员名单、访谈调查 4. 演讲资料、访谈调查	无
项目目标 在项目实施地区，完善人与朱鹮和谐共存的环境建设。	1. 实施示范项目的村落中，至少 50% 的民众对于项目实施机构以及相关机构开展的朱鹮保护工作和社区参与型示范项目，总体上满意。 2. 从事朱鹮保护工作的第三方专家，对项目实施地区人与朱鹮和谐共存环境，作出总体有所改善的判断。 3. 朱鹮保护以及农业、旅游的各管理部门、农业合作社、农家乐经营者、旅游从业者、教育机构、民间团体等，召开有关人与朱鹮和谐共存的环境建设相关主题的联席会议（促进有机农业发展、发展生态旅游、开展环境教育、扩大水田和冬水田等）。 4. 将支持人与朱鹮和谐共存的地区环境建设相关政策建议提交给决策部门。	1. 问卷调查、访谈调查 2. 第三方报告书 3. 会议备忘录、访谈调查 4. 建议书、项目定期报告书、访谈调查	自然环境条件不出现大幅度改变。
成果 1：完善环境信息（包含朱鹮在内的自然环境和社会环境）。 2：建立朱鹮野化放飞的相关体系。	1.1. 制作有关环境信息的报告书。 1.2. 对口人员能够充分了解自然环境信息的管理和共享方式及其改善方法并能够进行明确的讲解。 2.1. 通过实施项目，大网笼、湿地环境、泥鳅养殖设施、监测器材等得以完善，硬件设施得到正确利用和维护管理。 2.2. 培养骨干野外监测技术人员 20 人。（将集中授课以及现场培训的内容付诸于实践）。	1.1 报告书 1.2 访谈调查 2.1 本地考察、访谈调查、项目定期报告书及其他资料 2.2 本地考察、访谈调查、项目定期报告书（培训情况）	中国的朱鹮保护政策不变。 农产品市场价格不出现暴跌。

3：建立示范性的社区参与型模式。 4：提高包含从事朱鹮保护在内的自然环境保护工作者和当地社区公众的意识。	3.1. 至少提出 6 类示范项目的方案,示范项目及其受益者的选定方法和选定结果得到相关方的认可。 3.2. 在附加资料中详述。 4.1. 至少有 20 名教师或环境教育人员,能够正确地运用项目制作的指南、手册或教材等进行讲解。 4.2. 在附加资料中详述。 4.3. 微博(中国版 Facebook)关注人数超过 2000 人。 4.4. 参加座谈会、研讨会的人中有 80%对活动总体上表示满意。	3.1 项目建议书、项目定期报告书、访谈调查 3.2 在附加资料中详述 4.1 访谈调查、报告书 4.2 在附加资料中详述 4.3 微博 4.4 座谈会、研讨会结束后实施的问卷调查结果、研讨会报告书	
<u>活动</u> 1-1 开展自然环境及社会经济状况的基础调查。 1-2 在调查结果的基础上,为有关人与朱鹮和谐共存的地区环境建设提供政策上的建议。 1-3 建立项目相关人员间的调查结果的共享体系。 2-1 开展技术交流以提高野化技术和监测技术。 2-2 开展饲养繁殖、野化放飞训练及放飞所需的环境建设。 2-3 开展野生朱鹮的监测,共享监测结果。 2-4 汇总整理野生朱鹮监测方法相关资料,为将来编制指南做准备。 3-1 掌握社区生活环境的现状及问题。 3-2 实施需求调查。(行政机关、社区的意识调查) 3-3 调查开展提高社区生活水平、改善生活环境项目的可行性。 3-4 开展与示范项目相关的培训。 3-5 实施具有可行性示范项目 3-6 对示范项目区的执行情况的监督和效果评估。 3-7 根据项目评估结果,为政策制定提供建议。 4-1 掌握环境教育的现状,制定环境教育计划,实施并评估。 4-2 开展实地学习,交流技术和信息。 4-3 确定宣传方法。 4-4 举办研讨会推广项目活动内容、成果。 4-5 培养担任环境教育的人才。 4-6 实施示范环境教育,推动宣传普及活动并形成规范。 4-7 结合过去、现在、将来的相关事业和开展方法,促进中日朱鹮保护相关技术交流。	<u>日方投入</u> 1. 长期专家 2. 短期专家 3. 接受赴日进修 4. 提供设备 5. 分摊部分配套资金	<u>中方投入</u> 1. 提供办公地点等 2. 配备对口人员及其费用 3. 承担本地活动经费	<u>前提条件</u> 无

附件资料 01B PDM 的附加资料：各项目实施地的指标

	洋县	宁陕县	罗山县
成果 3：建立示范性的社区参与型模式。			
指标 3.2	i. 项目实施地区的农民积极分子能够将项目传授的有机农业方面的技术运用于实践中	i. 相关部门能够继续发展以朱鹮和乡村景观等为资源的生态旅游活动	i. 合作社及其联合会、茶业办公室等相关机构能够自主开展有关有机茶栽培和销售的培训
获取方式	实地考察、访谈调研	访谈调研、实地考察	实地考察、访谈调研
	ii. 通过合作社等组织继续利用有机种植设备及沼气肥料	ii. 在朱鹮栖息地，至少新增 20 家农户参与种植无公害粮食作物、经济作物，或者栽培中草药，或者恢复冬水田。	ii. 通过合作社等组织继续利用有机种植设备及沼气污泥肥料
获取方式	实地考察、访谈调研、合作社开展污泥利用的相关记录	实地考察、访谈调研	实地考察、访谈调研、合作社开展污泥利用的相关记录
	iii. 在朱鹮栖息地，至少有 20 家农户恢复冬水田		
获取方式	实地考察、访谈调研		
	iv. 项目培养的专业人员继续将相关技术应用到生态旅游中		
获取方式	实地考察、访谈调研		
	洋县	宁陕县	罗山县
成果 4：提高包含从事朱鹮保护在内的自然环境保护工作者和当地社区公众的意识。			
指标 4.2	i. C/P 所属单位和朱鹮爱鸟协会能够独立实施与环境教育、宣传有关的项目建议方案	i. 朱鹮栖息地所在学校能够开设一定课时的环境教育课程（特别是课程表当中的可支配时间段）	i. 灵山镇小学校的教师中至少有 10 名能够讲解有关朱鹮的生态知识
获取方式	访谈调研	访谈调研	问卷调查、访谈调研
			ii. 观鸟人员能够有效利用项目设计的观鸟路线
获取方式			实地考察、访谈调研

附件资料2：人与朱鹮和谐共存的地区环境建设项目 项目活动计划（PO）

2013年5月31日修改

活 动	负责部门	项目实施期间																																													
		2010					2011					2012					2013					2014					2015																				
		十	十一	十二	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	一	二	三	四	五	六	七	八	九										
成果1：环境信息（包含朱鹮在内的自然环境和社会环境）。																																															
1-1	自然调查																																														
	社会经济情况调查																																														
1-2	在调查结果的基础上，为有关人与朱鹮和谐共存的地区环境建设提供政策上的建议。																																														
1-3	建立项目相关人员间的调查结果的共享体系。																																														
成果2：建立朱鹮野化放飞的相关体系。																																															
2-1	开展技术交流以提高野化技术和监测技术。																																														
2-2	开展饲养繁殖、野化放飞训练及放飞所需的环境建设。																																														
2-3	开展野生朱鹮的监测，共享监测结果。																																														
2-4	汇总整理野生朱鹮监测方法相关资料，为将来编制指南做准备。																																														
成果3：建立示范性的社区参与型模式。																																															
3-1	掌握社区生活环境的现状及问题。																																														
3-2	实施需求调查。（行政机关、社区的意识调查）																																														
3-3	调查开展提高社区生活水平、改善生活环境项目的可行性。																																														
3-4	开展与示范项目相关的培训。																																														
3-5	实施具有可行性示范项目。																																														
3-6	对示范项目区的执行情况的监督和效果评估。																																														
3-7	根据项目评估结果，为政策制定提供建议。																																														
成果4：提高包含从事朱鹮保护在内的自然环境保护工作者和当地社区公众的意识。																																															
4-1	掌握环境教育的现状，制定环境教育计划。																																														
	开展环境教育活动，对结果进行评估。																																														
4-2	开展实地学习，交流技术和信息。																																														
4-3	确立宣传方法，开展宣传活动。																																														
4-4	举办研讨会推广项目活动内容、成果。																																														
4-5	培养担任环境教育的人才。																																														
4-6	实施示范环境教育，推动宣传普及活动并形成规范。																																														
4-7	结合过去、现在、将来的相关事业和开展方法，促进中日朱鹮保护相关技术交流。																																														

重点且持续开展的活动期间

准备阶段、后续跟踪期间或根据需要随机实施期间

附件资料 03：人与朱鹮和谐共存的地区环境建设项目 在外事业强化费的实际支出情况

年度	期 间			在外事业强化费
第一年度	2010 年 09 月	- - -	2011 年 03 月	2,778,959.75 元
第二年度	2011 年 04 月	- - -	2012 年 03 月	3,361,641.72 元
第三年度	2012 年 04 月	- - -	2013 年 03 月	2,276,112.20 元
第四年度	2013 年 04 月	- - -	2014 年 03 月	1,654,389.47 元
第五年度	2014 年 04 月	- - -	2015 年 03 月	1,568,303.40 元
合计				11,639,406.54 元

No	機材名	規格	数量	単価	合計	調達日	設置場所	機材の状態	利用状況	使用機関	用途
				(万元)	(万元)	(年・月・日)					
1	野化放飞驯化大网笼	3200m ²	1	111.0	111.0	2012年3月1日	宁陕寨沟野化放飞基地	良好	按照预定目的・频率使用中。	宁陕	野化放飞的体制建设
2	野化放飞驯化大网笼	2800m ²	1	80.0	80.0	2012年3月1日	董寨保护区饲养中心	良好	按照预定目的・频率使用中。	罗山	野化放飞的体制建设
3	野化放飞大网笼的修护	5000m ²	1	130.0	130.0	2011年3月1日	洋县朱鹮饲养中心	良好	按照预定目的・频率使用中。	洋县(包括大网笼用监视系统)	野化放飞的体制建设
4	孵化器	P-008A-TOK152	3	3.7	11.1	2012年3月13日	董寨保护区饲养中心、宁陕林业局野化放飞基地	良好	孵化后按照预定目的・频率使用中。	罗山(2台)、宁陕(1台)	野化放飞的体制建设
5	育雏器	TOK152	2	8.3	16.6	2012年3月13日	董寨保护区饲养中心、宁陕林业局野化放飞基地	良好	孵化后按照预定目的・频率使用中。	罗山(1台)、宁陕(1台)	野化放飞的体制建设
6	雕刻机	TS200	1	4.3	4.3	2011年9月23日	项目办公室	良好	按照预定目的・频率使用中。	北京	朱鹮用彩色环志的制作
7	越野车	丰田陆地巡洋舰	3	63.3	189.9	2011年5月25日	洋县保护区管理局、宁陕林业局、董寨自然保护区管理局	良好	按照预定目的・频率使用中。	洋县、宁陕、罗山	项目活动、环境教育等
8	多功能商务车	丰田普瑞维亚2.4	1	47.4	47.4	2011年7月22日	陕西省林业厅	良好	按照预定目的・频率使用中。	陕西林业厅	专家活动、项目业务
9	皮卡车	尼桑 D22 2.4 MT 4x4	3	18.0	54.0	2011年3月25日	洋县保护区管理局、宁陕林业局、董寨自然保护区管理局	良好	按照预定目的・频率使用中。	洋县、宁陕、罗山(各1台)	专家活动、野外监测
10	摩托车	钱江 禧王QJ125	7	0.8	4.7	2012年3月16日	董寨自然保护区管理局	良好	按照预定目的・频率使用中。	罗山	野外观测
11	摩托车	铃木 QS1 2 5 -SE	5	0.7	3.4	2013年3月19日	宁陕林业局朱鹮野外监测保护站(寨沟、皇冠、汤坪、筒车湾、龙王)各1台	良好	按照预定目的・频率使用中。	宁陕	野外观测
12	摩托车	钱江 臥龍 1 2 5	8	0.7	5.4	2012年10月24日	洋县保护区管理局(保护科3台、保护站5台(龙庭×2、花园×1、华阳×2))	良好	按照预定目的・频率使用中。	洋县	野外观测
13	单筒望远镜(望远镜+目镜)	KOWA TSN-774 + TE-10Z	4	2.1	8.4	2011年1月17日	洋县保护区管理局、宁陕林业局、董寨自然保护区、陕西林业厅	良好	按照预定目的・频率使用中。	洋县、宁陕、罗山、陕西省林业厅(各1台)	野外观测
14	单筒望远镜(望远镜+目镜)	Diascope 85	2	2.1	4.2	2011年3月21日	PJ事務局	良好	按照预定目的・频率使用中。	北京	野外观测
15	单筒望远镜(望远镜+目镜)	尼康 ED82A + 25-75X	9	2.2	19.8	2011年2月21日	洋县保护区管理局、宁陕林业局、董寨自然保护区、西安事务所	良好	按照预定目的・频率使用中。	洋县(4台)、宁陕(2台)、董寨(2台)、西安办事处(1台)	野外观测
16	三脚架(含云台)	Manfrotto 055CX3+701HDV	23	0.5	12.0	2011年2月21日	洋县保护区管理局、宁陕林业局、董寨自然保护区、西安事务所、陕西林业厅	良好	按照预定目的・频率使用中。	洋县、宁陕、罗山(各7台)、陕西省林业厅(1台)、西安办事处(1台)	野外观测
17	三脚架(含云台)	金種 EL530A	2	0.2	0.4	2011年3月21日	项目办公室	良好	按照预定目的・频率使用中。	北京	野外观测
18	数码照相机(单反照相机+标准镜头)	尼康 D300S + 18-105	9	1.1	9.9	2011年3月8日	洋县保护区管理局、宁陕林业局、董寨自然保护区、西安办事处	良好	按照预定目的・频率使用中。	洋县(3台)、宁陕(2台)、罗山(2台)、西安办事处(2台)	野外观测、记录
19	数码照相机(单反照相机+标准镜头)	尼康 D7000	2	1.3	2.6	2012年9月25日	洋县保护区管理局	良好	按照预定目的・频率使用中。	洋县	野外观测、记录
20	长焦镜头	适马 APO 120-400 OS	9	0.6	5.6	2011年3月8日	洋县保护区管理局、宁陕林业局、董寨自然保护区、西安办事处	良好	按照预定目的・频率使用中。	洋县(3台)、宁陕(2台)、罗山(2台)、西安办事处(2台)	野外观测、记录
21	数码照相机	尼康 P8100	8	0.3	2.5	2012年9月24日	洋县保护区管理局	良好	按照预定目的・频率使用中。	洋县	野外观测、记录
22	数码照相机	尼康 P300	2	0.3	0.5	2011年3月23日	西安办事处	良好	按照预定目的・频率使用中。	西安办事处	项目业务、记录
23	数码摄像机	索尼 HVR-V1C	4	1.1	4.4	2011年9月8日	洋县保护区管理局、宁陕林业局、董寨自然保护区、西安办事处	良好	按照预定目的・频率使用中。	洋县、宁陕、罗山、西安办事处(各1台)	野外观测、记录
24	数码摄像机	索尼 HDC-AX2000E	1	2.9	2.9	2011年3月18日	项目办公室	良好	按照预定目的・频率使用中。	北京	野外观测、记录
25	测距器	尼康550AS	1	0.5	0.5	2011年2月21日	西安办事处	良好	按照预定目的・频率使用中。	西安办事处	野外观测、记录
26	双筒望远镜	尼康 12×42DCF	14	0.4	6.0	2011年2月21日	洋县保护区管理局、宁陕林业局、董寨自然保护区、西安办事处	良好	按照预定目的・频率使用中。	洋县(5台)、宁陕(3台)、罗山(3台)、西安办事处(3台)	野外观测
27	双筒望远镜	Victory 8×32T	2	1.3	2.6	2011年3月21日	项目办公室	良好	按照预定目的・频率使用中。	北京	野外观测
28	双筒望远镜	尼康 MONARCH 8x36	5	0.3	1.5	2013年3月13日	宁陕县林业局	良好	按照预定目的・频率使用中。	宁陕	野外观测
29	双筒望远镜	尼康 阔野SPORTSTAR EX 8x25D CF	20	0.1	1.6	2011年11月30日	西安办事处	良好	按照预定目的・频率使用中。	西安办事处	生态旅游、环境教育
30	台式电脑(含办公软件)	联想 IdeaCentre K300	2	0.7	1.4	2011年3月18日	项目办公室	良好	按照预定目的・频率使用中。	北京	项目业务
31	台式电脑	联想 M4340	4	0.5	2.0	2012年11月29日	洋县保护区管理局	良好	按照预定目的・频率使用中。	洋县	整理野外监测数据
32	台式电脑(含办公软件)	DELL XPS8300	1	0.9	0.9	2011年12月6日	西安办事处	良好	按照预定目的・频率使用中。	西安办事处	生态旅游、环境教育
33	笔记本	东芝 L600	5	0.5	2.3	2011年3月10日	洋县保护区管理局、宁陕林业局、董寨自然保护区、西安办事处	良好	按照预定目的・频率使用中。	洋县、宁陕、罗山(各1台)、西安办事处(2台)	项目业务
34	笔记本	索尼	3	1.1	3.3	2011年3月18日	项目办公室、西安办事处	良好	按照预定目的・频率使用中。	北京(2台)、西安办事处(1台)	项目业务
35	打印机(A3)	惠普HP7500A	5	0.3	1.6	2011年2月15日	洋县保护区管理局、宁陕林业局、董寨自然保护区、西安办事处	良好	按照预定目的・频率使用中。	洋县、宁陕、罗山、陕西林业厅、西安办事处(各1台)	项目业务
36	打印机(A4)	惠普DeskJet 2050	1	0.1	0.1	2010年10月20日	西安办事处	良好	按照预定目的・频率使用中。	西安办事处	项目业务
37	打印机(A4)	MP259	2	0.1	0.2	2010年10月1日	西安办事处	良好	按照预定目的・频率使用中。	西安办事处	项目业务
38	复印机	FUJIXEROX	1	3.2	3.2	2011年9月23日	西安办事处	良好	按照预定目的・频率使用中。	西安办事处	项目业务
39	扫描仪	EPSON V330	1	0.1	0.1	2011年11月8日	西安办事处	良好	按照预定目的・频率使用中。	西安办事处	项目业务
40	传真机	CANON L160	1	0.2	0.2	2011年3月18日	项目办公室	良好	按照预定目的・频率使用中。	北京	项目业务

41	投影仪（含幕布）	SONY VPL-EX175	5	0.9	4.5	2011年3月4日	洋县保护区管理局、宁陕林业局、董寨自然保护区、陕西林业厅	良好	按照预定目的・频率使用中。	洋县、宁陕、罗山、北京、陕西省林业厅(各1台)	环境教育、普及宣传
42	大屏幕液晶电视	松下TH-P50U30C	1	0.7	0.7	2011年9月23日	西安办事处	良好	按照预定目的・频率使用中。	西安办事处	环境教育、普及宣传
43	GPS	GARMIN GPSmap 60CSx	16	0.4	6.1	2011年2月18日	洋县保护区管理局、宁陕林业局、董寨自然保护区、西安办事处	良好	按照预定目的・频率使用中。	洋县(5台)、宁陕(5台)、罗山(5台)、西安办事处(1台)	野外观测
44	GPS	GARMIN GPSmap 60CSx	8	0.3	2.6	2012年9月19日	洋县保护区管理局	良好	按照预定目的・频率使用中。	洋县	野外观测
45	GPS发射器	Northstar 30g GPS送信器	6	2.7	16.4	2012年2月24日	董寨自然保护区	良好	按照预定目的・频率使用中。	罗山	放鸟后的野外监测
46	朱鹮模型		4	1.8	7.2	2011年11月28日	洋县保护区管理局展示馆、宁陕县林业局、董寨自然保护区、西安办事处	良好	按照预定目的・频率使用中。	洋县、宁陕、罗山、西安办事处(各1台)	环境教育、普及宣传
47	抽渣机	7Y-1150D1	2	2.86	5.72	2011年10月1日	洋县草坝村有机梨合作社	良好	按照预定目的・频率使用中。	洋县草坝村有机梨合作社	有机梨种植
48	微耕机	1WG6.3-135FC-Z	2	0.65	11.2	2011年10月1日	洋县草坝村有机梨合作社	良好	按照预定目的・频率使用中。	洋县草坝村有机梨合作社	有机梨种植
49	抽渣机	ZYPJ - 14100GXE	2	2.18	4.36	2012年3月16日	董寨灵鼎峰有机茶叶合作社	良好	按照预定目的・频率使用中。	董寨灵鼎峰有机茶叶合作社	有机茶种植
50	跟踪发射器	A1-2B	10	0.35	3.5	2014年7月18日	董寨国家级自然保护区	良好	按照预定目的・频率使用中。	罗山	野外监测
51	环境改善用摩托车		2	1.28	2.56	2015年3月12日	宁陕县林业局	良好	按照预定目的・频率使用中。	宁陕	环境建设
合計					(単位:万元)	823.07					

自然环境调查情况一览表

地点	时间	课题	委托方	费用	成果名称	成果提交日
洋县	2011年4月18日-20日	2011年春季野生朱鹮调查	洋县保护区管理局	5,000	2011年春季野生朱鹮调查报告	2011年5月8日
	2011年11月17日-23日	2011年秋季野生朱鹮个体数调查	洋县保护区管理局	5,000	2011年秋季野生朱鹮个体数调查报告	2011年11月10日
宁陕	H23.8.1	朱鹮食物源的春季调查	西北农林科技大学	36,640	朱鹮食物丰富度调查报告	2012年1月20日
	H23.10.1	朱鹮食物源的秋季调查	西北农林科技大学	11,800	朱鹮食物丰富度调查报告	2012年1月20日
	H24.1.1	朱鹮食物源的冬季调查	西北农林科技大学	24,050	朱鹮食物丰富度调查报告	2012年1月20日
董寨	2012/2/12日-18日	稻田生物丰富度调查	北京林业大学	6,290	董寨自然调查报告	2012年4月8日
合计				88,780		

社会调查情况一览表

地点	时间	课题	委托方	费用	成果名称	成果提交日
洋县	2012年1月3日 - 5日	朱鹮栖息地的社会调查	北京林业大学	35,350元	朱鹮保护项目区 2011年农村社会经济和环境状况 调研报告	2012年3月14日
宁陕	2012年1月5日 - 8日	朱鹮栖息地的社会调查				
董寨	没有开展调查活动					

洋县有机农业可持续向发展调查

时间	2011年11月12月
课题	洋县及宁陕县有机产业的现状和可发展课题的掌握
委托方	中国社会科学院农村发展研究所
费用	110, 110元
成果名称	陕南朱鹮活动区域内生态农业可持续发展的研究报告书
成果提交日	H24. 3. 1

附件资料05-4: 現地再委托調査一覧

第三方专家项目指标实地考察

場所	時間	発注先/依頼先	費用	成果品名	成果品納入日
洋県	2014年11月24日 - 2015年1月20日	陝西省動植物研究所	20524.3元	中日合作人与朱鹮和谐共存的地区环境建设项目评估报告-洋县・宁陕	H27.3.1
寧陝					
董寨	2014年12月7日 - 12月30日	河南師範大学	23406元	人与朱鹮和谐共存的地区环境建设项目河南董寨项目区评估报告	H27.3.1

附件资料 06：本地雇员情况一览表

姓名	工作期间			主管内容
由派遣公司签约				
索 文娜	2011 年 01 月	- - -	现在	总务助理
种 璟珂	2011 年 10 月	- - -	现在	业务翻译
临时签约				
周 霞	2011 年 02 月	- - -	2011 年 8 月	翻译兼助理
岩下 拓	2011 月 08 月	- - -	2011 年 10 月	临时翻译・四季报编制
小池 真实	2011 年 10 月	- - -	2014 年 12 月	环境教育・普及宣传助理
刘 玉卓	2011 年 12 月 2012 年 08 月	- - - - - -	2012 年 3 月 2013 年 3 月	环境教育用宣传品的设计
曹 煜	2011 年 12 月	- - -	2012 年 3 月	环境教育用宣传品的设计
庄 苗苗	2012 年 07 月	- - -	2015 年 3 月	翻译助理兼微博管理

附件资料 07：日方派遣专家实际情况与业务分工

姓名	派遣期间	负责领域
长期专家		
森 康二郎	2010 年 9 月 21 日 - 2015 年 9 月 24 日	首席顾问
米田 重玄	2010 年 9 月 21 日 - 2012 年 9 月 20 日	鸟类保护
平野 贵宽	2010 年 12 月 11 日 - 2015 年 9 月 24 日	环境教育/业务协调
中岛 卓也	2012 年 9 月 11 日 - 2014 年 8 月 30 日	鸟类保护/宣传普及
短期专家		
云山 苏	2010 年 9 月 25 日 - 2011 年 3 月 10 日 2011 年 5 月 9 日 - 2011 年 8 月 12 日 2011 年 10 月 19 日 - 2012 年 3 月 23 日 2012 年 10 月 11 日 - 2013 年 1 月 11 日	社区参与型开发
中岛 卓也	2011 年 7 月 29 日 - 2012 年 3 月 30 日	鸟类野外监测

专家 业务分工

1. 首席顾问

- 构筑有关项目整体运营的合作机制
- 关于项目运营管理的指导・建议
- 筹划项目战略（包含出口战略）
- 制订・调整项目活动计划
- 基于项目活动计划管理项目进展情况
- 制订并实施宣传战略・宣传计划
 - 新闻媒体等方面的对应（日本/中国）
 - 研修会等的计划安排・方案制订
 - 向学会杂志等投稿
- 协调同相关人员/相关机构的联络
 - 协调同北京相关人员/地方各省相关人员的联络
 - 协助北京一地方省上的联络
 - 协调同日本国内相关人员（国内协助委员等）的联络
 - 协调同周边国家/第 3 国家的联络（广范围协助）
 - 同其他援助组织/国际机构等的协调・商讨

2. 鸟类保护

- 开展技术交流以提高饲养、繁殖的管理技术
- 开展技术交流以提高野化放飞技术及野外监测技术
- 开展野外放飞训练及放飞所需的环境建设
- 开展野生朱鹮的监测，共享监测结果

- 根据野外监测结果掌握朱鹮的活动范围・活动情况，为制定保护计划・政策提供建议
- 上述内容有关的进展情况管理和评估

3. 社区参与型开发

- 掌握社区生活环境的现状及课题
- 实施需求调查（行政机关、社区的意识调查等）
- 调查开展提高社区生活水平、改善生活环境项目的可行性
- 开展与示范项目相关的培训
- 实施具有可行性的示范项目
- 对示范项目区的执行情况的监督和效果评估
- 根据对示范项目的评估结果，为政策制定提供建议
- 上述内容有关的进展情况管理和评估

4. 业务协调员/环境教育

（运营管理业务）

- 辅助首席顾问管理项目运营，并根据同对方国家合作机构的协商，归纳整理协助计划（实施计划、年度计划）。
- 监督管理年度计划（专家派遣计划、研修人员接收计划、器材提供计划、当地业务费用执行计划、地方费用负担计划）的执行情况。
- 通过参加联合协调委员会，掌握对方国家合作机构的项目实施计划（投入的规模等、项目所处的环境）。
- 辅助首席顾问完成需要提交的报告书。
- 通过各种宣传活动积极宣传本项目。
- 关于项目专家开展的有关技术转移的活动计划进行协商，并支援实施。
- 项目实施过程中遇到障碍时，同相关机构、首席顾问协力合作解决问题。
- 汇总管理日本专家组开展活动时产生的公款、物品以及事物・会计・总务工作，确保其有计划执行。
- 关于研修会・研讨会，同首席顾问、中方相关人员进行协调，开展会议的准备・运营・评估工作。

（促进业务）

- 作为对方国家同 JICA、日本专家组之间的联络协调员，在与 JICA 事务所进行协商的同时提高活动效率。
- 时常注意可能影响年度计划开展的事项（器材通关、C/P 配置、对方国家预算等），出现问题时，同对方国家、日本大使馆、JICA 事务所等充分协商，找出解决办法解决问题。

（环境教育）

- 掌握环境教育现状、课题以及将来的计划
- 掌握环境教育需求
- 掌握环境教育的当地资源
- 制定环境教育活动计划
- 实施环境教育活动
- 环境教育活动执行情况的监督和成果评估
- 根据评估结果提出今后的建议

附件资料09:协办召开研讨会等或参会情况表

内容	对象者	地点	参加人数	期间	
				开始日期	结束日期
项目启动仪式·中日专家研讨会	项目相关人员·中日专家	西安	50	2010年12月23日	
朱鹮重新发现30周年纪念国际研讨会	国家林业局、省事先行政官员、研究人员、日本环境省、日本研究人员	洋县	90	2011年5月23	2011年5月24日
泰国林业国际会议演讲	项目、C/P	泰国	28	2011年8月7日	2011年8月10日
JICA西部地区行政官员培训讲座	内蒙古自治区科学技术厅工作人员、培训人员(行政、区科技厅、企业等)	内蒙古自治区	70	2011年9月14日	2011年9月16日
第二次亚洲国际湿地研讨会(分会)演讲	国内外湿地保护相关行政官员、研究人员、NGO等	无锡	約60	2011年10月10日	2011年10月13日
JICA林业会议演讲	国家林业局、JICA、林业厅、企业、NGO相关人员	北京	約60	2011年12月7日	2011年12月8日
拉姆萨湿地公约演讲	拉姆萨湿地公约加盟国以及NGO	罗马尼亚	多次	2012年7月5日	2012年7月10日
陕西师范大学日语系朱鹮讲座(2012年)	陕西师范大学日语系学生、教员	西安	60~100	2012年3月2日 2012年3月15日 2012年5月13日	
陕西师范大学日语系朱鹮讲座(2013年)	陕西师范大学日语系学生、教员	西安	50~	2013年3月2日 2013年5月22日	
陕西师范大学实习生的接受	陕西师范大学校日本語系四年生	西安	2	2012年9月	2012年11月
COP10展示会议	COP10参加人员	印度	多次	2012年10月8日	2012年10月12日
信阳师范大学日语系(中岛专家 朱鹮讲座)	信阳师范大学日语系学生、教师	信阳	80	2014年5月27日	
信阳师范大学 面向志愿者小组的讲座	信阳师范大学学生	董寨	8	2014年6月30日	
信阳师范大学日语系(中岛 朱鹮讲座)	信阳师范大学日语系·英语系学生、教师	信阳	150	2014年10月20日	
国际鸟类学会会议 中岛 海报	世界各鸟类专家以及相关人士	东京		2014年8月18日	2014年8月24日
中日韩朱鹮保护国际研讨会 刘冬平	中国、日本、韩国朱鹮保护相关机构	德清		2014年11月10日	2014年11月12日
世界公园会议 里山分论坛 森	世界公园会议相关人员	悉尼	约40	2014年11月13日	2014年11月14日

附件资料09
提高野化放飞训练、野外监测的技术

培训名称	对象	指导人	地点	参加人数	时间	培训天数
彩环的制作	全国鸟类环志中心、汉中朱鹮保护区管理局职员	环志中心刘博士、米田专家	洋县	6	2011年4月10日	1
彩环的制作	全国鸟类环志中心、汉中朱鹮保护区管理局职员	〃	洋县	7	2011年4月25日	1
北戴河国际环志研讨会	各省环志调查相关人员	环志中心刘博士、米田专家	河北省秦皇岛市	45	2011/5/9-12	4
辽宁省中日共同环志黑嘴鸥	辽宁双台子河口、丹东鸭绿江国家级自然保护区职员及中国林科院研究员等	〃	辽宁省盘锦市	11	2011/6/11-20	10
佐渡野外监测方法介绍	董寨自然保护区职员	中岛专家	董寨	9	2011年8月5日	1
佐渡野外监测方法介绍	宁陕县林业局、朱鹮野化放飞基地职员	〃	宁陕	10	2011年9月6日	1
佐渡野外监测方法介绍	汉中朱鹮保护区管理局职员	〃	洋县	9	2011年9月13日	1
野外监测培训会	董寨自然保护区、宁陕县林业局、汉中朱鹮保护区管理局职员、信息员	北林大 丁长青，环志中心 刘冬平，洋县保护局管理局 翟大庆，米田专家	洋县	30	2011/11/20-24	5
共同野外监测及环志培训会	董寨自然保护区、宁陕县林业局职员	米田专家	洋县	7	2012/4/22-28	7
野化放飞经验交流会(例会)	陕西省林业厅、汉中朱鹮保护区、宁陕县林业局、董寨自然保护区职员	洋县保护局 庆保平，陕西省 常秀云，董寨保护局 朱家贵	西安	22	2012年10月26日	1
野化训练及放飞技术指导（佩戴GPS发射器）	董寨自然保护区职员	环志中心刘冬平、中岛专家	董寨	5	2013年3月14-16日	2
放飞朱鹮个体识别、野外监测技术指导	董寨自然保护区管理局职员	〃	董寨	5	2013年10月1日	1
繁殖期野外监测现场指导	董寨自然保护区管理局职员	〃	董寨	4	2014年2-6月 1-2回/月 1-2日/回	
野外监测培训会	全国鸟类环志中心、陕西省林业厅、宁陕林业局、汉中朱鹮保护区管理局、董寨自然保护区职员	环志中心 刘冬平，董寨保护局 王科，宁陕野化放飞基地 李夏，洋县保护局 刘义	董寨	16	2014/10/9-10	2

成果3 培训:示范项目相关

【洋县有机梨种植 2011年度】

培训内容	对象	指导人	地点	参加人数	时间	培训天数
有机梨种植(集中培训)	草坝村有机梨种植示范农户及一般种植户	西北农林科技大学 徐凌飞 教授 洋县有机办公室 白建西 主任 洋县园艺技术指导站 雍明理 高级园艺师 项目专家 苏云山 博士 汉中端丰生物科技有限公司 李阳	洋县草坝村	约100	2011/6/16~17	2
有机梨种植（集中培训）	〃	汉中植物研究所 高文 教授/所长 洋县有机办公室 白建西 主任 洋县农业局 李成德 高级农艺师 洋县园艺技术指导站 雍明理 高级园艺师	〃	约70	2011/10/22~23	2
有机梨种植（集中培训）	〃	汉中植物研究所 廖孝忠 研究员 洋县园艺技术指导站 雍明理 高级园艺师	〃	约100	2012年2月24日	1

【2012年度】

内容	对象	指导人	地点	参加人数	时间	培训天数
有机梨种植（集中培训·首次现场培训）	草坝村有机梨种植积极农户	汉中植物研究所 高文 教授/所长 汉中植物研究所 廖孝忠/曹伟刚 研究员	洋县草坝村7组及1组示范梨园	约60	2012年5月23日	1
有机梨种植（持续培训）	〃	汉中植物研究所 廖孝忠/曹伟刚 研究员	〃	27	2012年6月19日	1
〃	〃	〃	〃	21	2012年7月12日	1
〃	〃	〃	〃	17	2012年7月31日	1
〃	〃	〃	〃	30	2012年8月16日	1
〃	〃	〃	〃	16	2012年10月23日	1
〃	〃	〃	〃	14	2012年11月20日	1
洋县有机产业培训会（集中培训）	洋县政府曹副县长、有机办公室、陕西省林业厅、自然保护区管理局、县内有机生产企业·合作社、草坝村民	洋县有机办 肖向东副主任，社会科学院农村发展研究所 曹斌，北京有机农庄公司 李小雪副总，汉中植物所 高文所长，山东省畜牧业协会 田知明，日本新潟 专家 掘井	洋县湖光轩宾馆	约80	2012年11月27日	1
有机梨种植（现场培训 先进梨园参观）	草坝村有机梨种植积极农户	汉中植物研究所 高文 教授/所长 廖孝忠/曹伟刚 研究员	汉中植物研究所梨园	20	2012年11月28日	

【2013年度】

培训内容	对象	指导人	地点	参加人数	时间	培训天数
有机梨种植（现场培训）	草坝村有机梨种植 示范农户(8户)外	汉中植物研究所 廖孝忠/曹伟刚 研究员	洋县草坝村1组示范梨园	15	2013/5/14	1
"	"	"	"	13	2013/6/1	2
"	"	"	"	13	2013/6/13	3
"	"	"	"	14	2013/7/9	4
"	"	"	"	21	2013/7/25	1
"	"	"	"	31	2013/7/31	1
"	"	"	"	30	2013/8/9	1
"	"	"	"	16	2013/9/3	1
"	"	"	"	6	2013/10/10	1
"	"	"	"	10	2013/10/18	1
有机梨种植（集中培训及现场培训）	草坝村有机梨种植农户	汉中植物研究所 高文 教授/所长 廖孝忠/曹伟刚 研究员	洋县草坝村村委会会议室及示范梨园	42	2013/10/29	1
有机梨种植（现场培训）	草坝村有机梨种植 示范农户(8户)外	廖孝忠/曹伟刚 研究员	洋县草坝村1组示范梨园	14	2013/11/19	1
"	"	"	"	6	2013/12/3	1
"	"	"	"	6	2014/1/8	1
"	"	"	"	5	2014/3/10	1
有机梨种植(集中培训)	草坝村有机梨种植示范农户及一般种植户	日本新潟 专家 堀井, 西安妙耕公司 王总, 汉中植物研究所 廖孝忠/曹伟刚 研究员	"	80	2014/3/17	1

【2014年度】

培训内容	对象	指导人	地点	参加人数	时间	培训天数
有机梨种植（现场培训）	草坝村有机梨种植 示范农户(4户)外	廖孝忠/曹伟刚 研究员	洋县草坝村1组示范梨园	16	2014/4/22	1
"	"	"	"	11	2014/6/11	1
"	"	"	"	7	2014/7/9	1
"	"	"	"	8	2014/7/31	1
"	"	"	"	10	2014/8/17	1
"	"	"	"	8	2014/11/12	1
"	"	"	"	6	2015/1/22	1
"	"	"	"		2015/2/11	1
洋县有机梨种植示范事业报告会(集中培训·报告会)	草坝村有机梨种植农户 洋县有机相关人员	汉中植物研究所 高文所长、洋县有机办公室 肖向前、妙耕公司 高敏经理、洋县 张副县长	草坝村村委会会议室	50	2015年4月1日	1

【宁陕 有机板栗、中药材种植】

培训内容	对象	指导人	地点	参加人数	时间	培训天数
板栗栽培管理（现场，集中培训）	寨沟村民， 县林业站职工	安康市林业站 陈育朝	寨沟村2组板栗园，三星宾馆	约30	2011/3/9~10	2
板栗·猪苓栽培管理（集合，现场培训）	寨沟村民	县科技协会 胡茂毅，县食用菌办 马玉平	寨沟村委， 2组现场	约60	2011年12月9日	1
板栗·天麻栽培管理（集中培训）	寨沟村民	县科技协会 胡茂毅，县食用菌办 马玉平	寨沟村委	约80	2012年3月12日	1
猪苓·天麻栽培管理（集中培训）	寨沟村民	县食用菌办 马玉平，当地农民专家 周茂财	寨沟村委	约30	2012年12月18日	1
猪苓栽培管理（集中培训）	寨沟村民	县食用菌办 马玉平	寨沟村委	约40	2013年10月28日	1
寨沟村示范项目成果交流会	县政府，县林业局，镇政府，专家，合作社，村民	马玉平，寨沟村 邓文书，合作社，西安户外 刘	林业局会议室	约30	2015年3月24日	1

【董寨 有机茶栽培 2012年度】

培训内容	对象	指导人	地点	参加人数	时间	培训天数
有机茶栽培管理（春季茶园管理及茶叶采摘）	保护局 朱副局长、罗山县能源站王站长，灵山镇余副镇长，董桥村 董书记 高村长，合作社 李明水，村民	信阳农业专门学校 袁丁教授	天桥村村委 会议室	40	2012年3月3日	1
有机茶栽培管理（现场培训）	合作社社员，周围茶农	罗山县茶叶办 李书胜	合作社茶园	20	2012年4月3日	1
"	合作社社员	合作社 李明水	合作社 加工场	18	2012年4月6日	1
"	"	合作社 李明水	"	22	2012年4月15日	1
有机茶栽培管理（集中培训）	合作社社员，周围茶农	信阳农专 袁丁	村委 会议室	35	2012年4月22日	1
有机茶栽培管理（现场培训）	合作社社员	县茶叶办 李书胜	董桥小学校	32	2012年5月3日	1
"	"	信阳农专 郭桂义	合作社	23	2012年5月20日	1
"	"	合作社 李明水	"	20	2012年6月2日	1
"	合作社社员，周围茶农	县茶叶办 李书胜	合作社茶园	12	2012年6月14日	1
"	"	县茶叶办 李书胜	"	22	2012年7月6日	1
"	加工场社员	信阳农专 郭桂义	合作社 加工场	18	2012年8月10日	1
有机茶栽培管理（集中培训）	合作社社员，周围茶农	县茶叶办 李书胜	董桥小学校	31	2012年9月15日	1
有机茶栽培管理（现场培训）	"	县茶叶办 李书胜	合作社茶园	15	2012年10月15日	1
"	合作社社员，周边茶园经营者	信阳农科院 吕立哲	"	不明	2012年10月25日	1
"	"	信阳农科院 吕立哲	合作社高山茶园	16	2012年11月21日	1
"	"	县茶叶办 李书胜	合作社茶园	26	2012年11月28日	1
"	合作社社员，村民代表	信阳市环保局 彭波	"	26	2012年12月6日	1
"	合作社社员，周边茶园经营者	县茶叶办 李书胜	"	30	2012年12月11日	1
"	"	县茶叶办 李书胜	"	20	2012年12月20日	1

【董寨 有机茶栽培 2013~2014年度】

培训内容	对象	指导人	地点	参加人数	时间	培训天数
有机茶栽培管理（现场培训）	老寨山茶业合作社社员，周边茶园老板	信阳农科院 吕立哲，县茶叶办 李书胜	老寨山合作社茶园	18	2013年7月11日	1
"	潘新镇申林茶叶合作社社员，周边茶农	县茶叶办 李书胜	申林茶叶公司	25	2013年9月25日	1
"	合作社社员	县农业局杨军章副局长，县茶叶办 李书胜	灵鼎峰合作社茶园	15	2013年11月22日	1
"	合作社社员	县李副县长，农业局，保护局长，县茶叶办 李书胜	灵鼎峰合作社茶园	7	2014年3月5日	1
董寨有机茶生产技术报告会	县李副县长，灵山镇秦镇长，保护局潘局长，罗山县茶叶企业、合作社经营者等	县茶叶办 李书胜，灵鼎峰合作社 李明水，保护局 朱副局长	灵山镇政府会议室	30	2014年10月21日	1

附件资料10

对口人员培训
(中国国内)

参照04

(赴日培训)

内容	对象	地点	参加人数	期间	
				开始日期	结束日期
第1次对口人员赴日培训	国家林业局:刘立军、王小洁 全国鸟类环志中心:陆军 洋县政府:王志安 汉中朱鹮保护区管理局:蒙进荣 河南省林业厅:王学会 董寨自然保护区管理局:阮祥锋	东京→佐渡→丰岗→关西	6	2011年10月23日	2013/10/31
第2次对口人员赴日培训	国家林业局:孙念军 全国鸟类环志中心:刘冬平 陕西省林业厅:常秀云 洋县政府:蒙燕钰 汉中朱鹮保护区管理局:王超 河南省林业厅:师永全 董寨自然保护区管理局:王科	关西→丰岗→大阪→佐渡→冲绳	7	2012年7月18日	2013/7/28
第3次对口人员赴日培训	全国鸟类环志中心:陈丽霞 汉中朱鹮保护区管理局:闫鲁 董寨自然保护区管理局:溪波	东京→佐渡→新潟→东京	3	2013年8月26日	2013/9/4
第4次对口人员赴日培训	国家林业局合作司:孙尼尼 国家林业局保护司:田云鹏 全国鸟类环志中心:马天 陕西省林业厅:闫方 洋县政府:张健 汉中朱鹮保护区管理局:庆保平、路晋 河南省林业厅:卓卫华 董寨自然保护区管理局:潘茂盛 罗山县政府:李焕伟	东京→佐渡→新潟→金泽→能登→金泽→东京	10	2014年8月15日	2014/8/24

附件资料11

No	姓名	单位	项目负责内容	工作开始	结束	特记事项
	陆军 刘冬平	中国林业科学院全国鸟类环志中心主任 全国鸟类环志中心助理研究员	项目办公室主任，项目总体运作管理 项目具体运作管理，有关朱鹮保护、野化放飞活动为主	2010/9 2010/9		
	白永庆 楚龙飞 常秀云 闫方 申红霞	陕西省林业厅副巡视员 林业厅保护处处长 林业厅调研员（省野生动植物保护协会副秘书长） 林业厅宣传科科长 林业厅宣传科员	项目运作总体协调管理 项目运作具体协调管理 项目运作具体协调管理 项目运作协调管理助理 项目运作协调管理助理	2010/9 2010/9 2010/9 2010/9 2011/3		
	丁海华 路宝忠 翟天庆 庆保平 柯立 闫鲁 路晋 李佳 曾建文 全昭红	汉中朱鹮国家级自然保护区管理局局长 汉中朱鹮国家级自然保护区管理局副局长（原） 汉中朱鹮国家级自然保护区管理局副局长（原） 汉中朱鹮国家级自然保护区管理局副局长 保护区管理局保护科长 保护区管理局保护科长 保护区管理局科研科（原）长青保护区管理局（现） 保护区管理局科研科（原）保护科（现） 保护区管理局科研科 保护区管理局科研科	项目运作总体管理 项目运作总体管理 项目运作总体管理 项目运作总体管理 有关野生朱鹮保护活动为主 有关野生朱鹮保护活动为主 其他项目活动 其他项目活动 其他项目活动 其他项目活动	2010/9 2010/9 2010/9 2010/9 2010/9 2014/11 2014/11 2012/5 2011/5 2014/9 2014/9	2012/6 2012/6 2014/9 2014/9	退休 退休 调职 调职
	柯小伟 李自斌 陈文贵 田宁朝 田毅均 李夏	宁陕县林业局局长 宁陕县林业局副局长 林业局总工程师（原） 林业局动植物保护站长 动植物保护站长副站长 林业局寨沟野化放飞基地主任	项目运作总体管理 项目运作总体管理 项目具体运作管理 项目具体运作管理 项目具体运作管理 项目具体运作管理 有关朱鹮保护、野化放飞的活动为主	2011/5 2012/5 2010/9 2010/9 2012/5 2010/9	2012/5 2012/5	退休
	王学会 杨智勇	河南省林业厅副厅长 林业厅调研员	项目运作总体协调管理 项目运作具体协调管理	2010/9 2010/9		
	阮祥峰 潘茂盛 朱家贵 溪波 祝文平 吴青 王科 黄学全 蔡靖德	董寨国家级自然保护区管理局局长 董寨国家级自然保护区管理局局长 董寨国家级自然保护区管理局副局长 保护区管理局科研所长 保护区管理局宣教科科长 保护区管理局宣教科科长 保护区朱鹮饲养站主任 保护区朱鹮饲养站主任 荒田保护站	项目运作总体管理 项目运作总体管理 项目运作总体管理 有关鸟类保护、野外跟踪活动为主 宣传活动为主 宣传活动为主 有关朱鹮饲养繁殖，野化放飞活动为主 有关朱鹮饲养繁殖，野化放飞活动为主 朱鹮野化放飞后的野外监测	2010/9 2014/3 2010/9 2010/9 2010/9 2013/10 2010/9 2012/9 2013/10	2014/3	调职

附件资料12
环境教育活动记录

活动内容	对象	地点	参见人数	时间		实施后的评价报告书
				开始日期	结束日期	
小学校书画、作文大赛	小学生(洋县小学校10校)	洋县	150	2011年10月20日	2011年11月24日	四季报/4期、5期
朱鹮湖小学校环境教育活动	小学生(5年级)	洋县	15	2012年4月12日		四季报/5期
洋县槐树关镇白路完全小学校环境教育活动	小学生(1~6年)	洋县	320	2012年4月12日		四季报/6期
董桥小学校环境教育活动	小学生(1~3年)	罗山县	40	2012年5月9日		四季报/6期
高寨小学校环境教育活动	小学生(1~6年)	罗山县	300	2012年5月10日		四季报/6期
周家坎村农村宣传活动	小学生(1~6年)、住民	洋县	150	2012年11月19日		四季报/8期
陕西省师范大学讲座	大学生(日语系)	西安市	80	2012年11月23日		
西安 高新第一小学校	小学生	西安市	30	2012年12月6日		四季报/8期
蒙家渡村农村宣传活动	住民	洋县	30	2012年12月19日		四季报/8期
宁陕小学校环境教育活动	小学生(5年级)	宁陕县	300	2012年3月2日		四季报/5期
宁陕小学校书画大赛、朱鹮绘本讲解	小学生(1~6年级代表)	宁陕县	120	2013年1月7日		四季报/6期
科学观鸟研修会	中国全国鸟类相关者	罗山县	30	2012年6月2日	2012年6月3日	观鸟、生态旅游研讨会报告书
西安市高新小学校朱鹮绘本讲解	小学生(1年级)	西安市	50	2012年12月6日		四季报/8期
陕西省师范大学讲座	大学生(日语系)	西安市	20	2013年4月2日		
董寨高寨小学校环境教育活动	小学生	罗山县	20	2013年4月11日		四季报/8期
董寨董桥小学校环境教育活动	小学生	罗山县	20	2013年4月11日		四季报/8期
陕西省第32次爱鸟周	全民	西安野生动物园	500	2013年4月13日		
西安高新第二学校环境教育活动	教师及学生	西安市	300	2013年5月13日		
宁陕小学校百米长卷绘画活动	小学生(1~6年)	宁陕县	150	2013年5月15日		四季报/9期
西安华德福小学校环境教育活动	教师及学生	西安市	12	2013年5月21日		
陕西省师范大学讲座	大学生(日语系)	西安市	20	2013年5月21日		
宁陕小学校朱鹮野化放飞基地参观活动	小学生	宁陕县	15	2013年9月25日		四季报/11期
保安小学校、高寨小学校环境教育活动	小学生	罗山县	80	2013年10月30日		
宁陕县小学校环境教育活动	小学生	宁陕县	30	2013年11月1日		四季报/11期
罗山县、张洼、贾山及前峰小学校环境教育活动	小学生	罗山县	100	2013年12月12日		活动报告书
高寨小学校环境教育活动	小学生	罗山县	20	2014年1月17日		活动报告书
洋县普及宣传活动	住民	罗山县	多数	2014年1月18日		活动报告书
前峰小学校环境教育活动	教师及学生	罗山县	170	2014年3月12日		活动报告书
张洼小学校环境教育活动	小学生	罗山县	22	2014年3月17日		活动报告书
地球一小时活动-朱鹮保护宣传	住民	西安市	50	2014年3月29日		活动报告书
红堂小学校环境教育活动	小学生	罗山县	60	2014年4月23日		活动报告书
朱鹮湖小学校环境教育活动	小学生	洋县	20	2014年5月20日		活动报告书
信阳师范大学普及宣传活动	大学生(日语系)	信阳市	80	2014年5月27日		活动报告书
保安小学校环境教育活动	小学生	罗山县	50	2014年5月28日		活动报告书
肖畈小学校环境教育活动	小学生	罗山县	50	2014年5月28日		活动报告书
宁陕县 亲子自然体验活动	小学生	宁陕县	60	2014年6月1日	2014年6月2日	四季报/11期
白马小学校环境教育活动	小学生	罗山县	60	2014年6月11日		四季报/11期
宁陕小学校环境教育活动	小学生	宁陕县	1600	2014年6月16日		四季报/11期
简車湾、老城、华严小学校环境教育活动	校长先生	宁陕县	4	2014年6月17日		四季报/11期
周家坎小学校环境教育活动	教师及学生	洋县	15	2014年6月18日		四季报/11期
信阳师范大学普及宣传活动	大学生(英語、日语系)	信阳市	150	2014年10月21日		活动报告书
万河小学校环境教育活动	小学生(1~3年级)	罗山县	105	2014年10月22日		活动报告书
莲湖区古都西苑幼儿园环境教育活动	幼儿	西安市	50	2014年10月28日		活动报告书
磨子桥小学校环境教育活动	4年级	洋县	60	2014年11月25日		活动报告书
宁陕小学校环境教育活动	小学生	宁陕县	80	2014年11月26日		活动报告书
华严小学校环境教育活动	小学生	宁陕县	60	2014年11月26日		活动报告书
汤坪小学校环境教育活动	小学生	宁陕县	80	2014年11月27日		活动报告书
平桥小学校环境教育活动	小学生(3~6年级)	罗山县	110	2014年12月25日		活动报告书
昌湾小学校环境教育活动	小学生	罗山县	100	2014年12月26日		活动报告书
天桥小学校环境教育活动	小学生	罗山县	50	2015年1月8日		活动报告书
宁陕县小学校环境教育活动	小学生	宁陕县	300	2015年3月12日	JICA杯绘画大赛及手抄报活动表彰仪式	活动报告书
宁陕县小学校环境教育活动	小学生	宁陕县	40	2015年3月12日	朱鹮剧	活动报告书

附件资料13
环境教育教材(实际制作)

名称	发放对象	制作时间 开始	结束	制作数量	发放对象·发放数量		备注
					主な发放对象	配布册数	
朱鹮书包	各实施地小学生	2011年9月	2012年2月	3000	各实施地小学校	北京: 30、西安: 50、洋县: 1000、宁陕: 1000、董寨: 900+、IICA: 10、佐渡: 10	
朱鹮文具套装	各实施地小学生	2011年11月	2012年2月	30000	各实施地小学校	北京: 150、西安: 3500、洋县: 10000、宁陕: 8000、董寨: 8000+、IICA: 200、佐	
朱鹮笔袋	各项目实施地小、中学生	2011年11月	2012年2月	12500	各实施地小学校	北京: 200、西安: 1000、洋县: 4000、宁陕: 3500、董寨: 3500+、IICA: 200、佐	
朱鹮笔记本	各项目实施地保护区、项目相关人员	2011年12月	2011年12月	10000	各实施地小学校	北京: 100、西安: 600、洋县: 3500、宁陕: 2500、董寨: 3000、IICA: 200、佐	
董寨观鸟手册	各实施地小学生·生态旅游参加者	2011年9月	2011年12月	2000	各实施地小学校	洋县: 500、宁陕: 500、董寨: 1000	
朱鹮绘本(低年级用)	各实施地小学生·小学校	2012年3月	2012年3月	1000	各实施地小学校	洋县: 300、宁陕: 300、董寨: 400	
朱鹮绘本(高年级用)	各实施地小学生·小学校	2012年3月	2012年3月	1000	各实施地小学校	洋县: 300、宁陕: 300、董寨: 400	
朱鹮绘本(电子版)		2015年1月					
鸟类垫板	各项目实施地小、中学生普及开发活动参加人员	2011年11月	2012年2月	10000	各实施地小学校	北京: 10、西安: 50、洋县: 3000、宁陕: 1440、董寨: 5500	
朱鹮折纸	各实施地小学生普及开发活动参加人员	2012年3月	2012年7月	5000	各实施地小学校	西安: 1000、洋县: 1000、宁陕: 1000、董寨1000、陕西林业厅: 1000	
董寨放飞朱鹮宣传用知识问答手册及宣传册	各项目实施地小、中学生普及开发活动参加人员	2013年9月	2013年11月	2500	各实施地小学校	董寨各小学校: 1500	
洋县观鸟手册	各项目实施地小、中学生普及开发活动参加人员	2015年3月	现在	3000	各实施地小学校		
2013年宁陕小学校活动作品集	全册项目相关人员	2014年3月	同年	200	全部项目相关人员	北京: 30、洋县: 10、董寨: 10、日本相关人员: 30	
2014年宁陕小学校活动作品集	全册项目相关人员	2015年3月	现在	200	全部项目相关人员		
朱鹮模型(与实物等大)	各项目实施地保护区·事务所	2011年10月	现在	4	各项目实施点	洋县: 1、董寨: 1、西安办公室: 1、宁陕: 1	

宣传用品（实际制作）							
名称	发放对象	制作时间		制作数量	发放对象・发放数量		备注
		开始	结束		发放对象	册数	
项目活动介绍季刊（四季报）1号	全册项目相关人员	2011年4月	2011年7月	500(日) 500(中)	中文版：国家林业局、 全国鸟类环志中心、河 南省林业厅、陕西省林 业厅、董寨保护区、洋 县保护区、宁陕林业 局、相关大学的日语学 科等 日语版：JICA总册、 JICA北京事务所、佐 渡、日本中国朱鹮保护 协会、新潟大学等	朱鹮30周年：中日各 200、各项目实施点： 200、北京：100、日 本：100	
项目活动介绍季刊（四季报）2号		2011年10月	2011年11月	500(日) 500(中)		各项目实施点：300、北 京：100、日本：200	
项目活动介绍季刊（四季报）3号		2011年12月	2012年1月	1000(日) 1000(中)		西安师范大学：中日各 200、西北大学：中日各 200、交通大学：中日各 200、北京相关人员： 200(中)、北京事务所： 100(日)、日本相关人 员：100(日)、各项目实 施点：200(中)	
项目活动介绍季刊（四季报）4号		2012年1月	2012年2月	1500(日) 1500(中)		同上	
项目活动介绍季刊（四季报）5号		2012年5月	2012年6月	1500(日) 1500(中)		同上	
项目活动介绍季刊（四季报）6号		2012年8月	2012年9月	1000(日) 1000(中)		同上	
项目活动介绍季刊（四季报）7号		2012年12月	2013年1月	1000(日) 1000(中)		同上	
项目活动介绍季刊（四季报）8号		2013年4月	2013年5月	1000(日) 1000(中)		同上	
项目活动介绍季刊（四季报）9号		2013年8月	2013年9月	1000(日) 1000(中)		同上	
项目活动介绍季刊（四季报）10号		2013年12月	2014年1月	1000(日) 1000(中)		同上	
项目活动介绍季刊（四季报）11号		2014月5月	2014年12月	1000(日) 1000(中)		同上	

项目宣传册（第一次）	全册项目相关人员	2011年4月	同月	2000(中) (日)		朱鹮30周年研讨会、泰国林业研讨会、第2届亚洲湿地研讨会等：2000(中日)	发放册数为2012年3月为止的数量
项目宣传册（第二次）		2011年8月	2011年9月	1000(中) 1000(英)		世界重要湿地公约COP：500(英)、生物多样性第十届会议展示：500(英)JCC会议：100(中)、各培训会：500(中)	
项目宣传册（第三次）		2012年5月	2012年7月	10000(中)		西安各大学：600(中)、JCC：100(中)、北京事务所：100、全国鸟类环志中心：100	
项目宣传册（第四次）		2014年8月	2014年8月	500(日)		国际鸟类学会：300(日)	
西安世园会朱鹮宣传册	中国国内的普通市民	2011年4月	同月	20000		世园会观光者：20000	
董寨保护区宣传册	保护区相关人员	2011年9月	现在	10000	河南省内	保护区相关人员及び観光客	
董寨放飞宣传用トランプ	保护区相关的住民	2013年1月	同年	4000	董寨保护区	保护区周围的住民：4000	
董寨放飞宣传用看板	保护区周围的住民	2013年1月	同年	6	董寨保护区	彭新张桥、灵山大马、朱堂万河、朱堂白马、灵山九里、铁铺北安各1件	
董寨放飞宣传手机短信	保护区周围的住民	2013年10月	同日	250000	罗山县内	罗山县的移动互联网用户：250000	
董寨放飞宣传用海报	保护区周围的住民	2013年11月	现在	5000	罗山县内	放飞仪式：1000、各村、镇的农民：4000	
董寨放飞宣传用电视广告	保护区周围的住民	2013年11月	同月	1个月	罗山县内	罗山县内电视节目收视者	
董寨放飞宣传用电视字幕	保护区周围的住民	2013年11月	同月	1个月	罗山县内	罗山县内电视节目收视者	
董寨放飞宣传用CD	中国国内的普通市民	2013年11月	现在	1	相关人员	董寨保护区管理局：1	

董寨放飞朱鹮宣传用知识问答手册及宣传册	保护区周围的住民	2013年11月	现在	2500	罗山县内	董寨保护区：300、各小学校：500、住民1000	
项目网页	日本・及其他普通市民	2011年6月	现在	1项目实施点	-	-	
项目微博	中国国内的普通市民		现在	1项目实施点	-	-	隨時更新
朱鹮环保袋(第一二次)	各项目实施地保护区・项目相关人员 培训参加者、普及开发活动参加人员、环境教育活动参加者等	2011年11月	2012年3月	3000	各项目实施点・项目相关人员	洋县：700、宁陕：500、董寨：700、JICA：50、佐渡：50	
朱鹮・白冠长尾雉环保袋(第三次)	董寨保护区周围的住民 培训参加者、普及开发活动参加人员、环境教育活动参加者等	2013年10月	2013年12月	2000	罗山县内	董寨保护区周围的住民：2000(野外监测的同时、宣教活动用材料)	
朱鹮环保袋(第四次)	各项目实施地保护区・项目相关人员 培训参加者、普及开发活动参加人员、环境教育活动参加者等	2014年7月	2014年7月	1000	各项目实施点、项目相关人员	全国鸟类环志中心：200、董寨：200、宁陕：200、定例会：100、中日韩国际会议：50、亲子活动：250、	
朱鹮环保袋(第五次)	各项目实施地保护区・项目相关人员 培训参加者、普及开发活动参加人员、环境教育活动参加者等	2014年3月	2014年3月	2000	各项目实施点、项目相关人员	宁陕县成果报告会：100	
朱鹮马克杯	各项目实施地保护区・项目相关人员 培训参加者、普及开发活动参加人员、环境教育活动参加者等			714	各项目实施点・项目相关人员	北京：10、西安：104、洋县：200、宁陕：150、董寨：150、JICA：50、佐渡：50	
朱鹮书签	各项目实施地保护区・项目相关人员 培训参加者、普及开发活动参加人员、环境教育活动参加者等	2013年4月		10000	各项目实施点・项目相关人员	陕西省林业厅：3000、宁陕小学校：500、西安的小学校：2000、董寨的小学校：1000、洋县的小学校：1000	
宁陕县朱鹮保護宣传用看板	宁陕县内、当地住民	2014年10月	2014年11月	2	宁陕县景区内	高速道路入口：1、国道：1	
观鸟・生态旅游研讨会宣传海报	董寨保护区	2012年	2012年	1000册	各小学校	各小学校：1000	
洋县朱鹮年历	洋县保护区・住民	2010年	2010年	10000册	洋县保护区、住民、中小学校	洋县保护区、住民、中小学校：10000	
朱鹮普及用年历	各项目实施地保护区・学校	2011年	2011年	12000册	各项目实施地保护区・学校	洋县：4000、宁陕：3000、董寨：3000、北京：500、陕西省林业厅：1000、其他：500	

洋县有机梨年历	洋县保护区·当地住民	2012年	2012年	2000册	洋县保护区、住民、小中学校	洋县保护区、住民、小中学校：2000	
宁陕朱鹮年历	宁陕保护区·当地住民	2012年	2012年	2000件	宁陕县、住民、小中学校	宁陕县、住民、小中学校：2000	
董寨朱鹮普及用壁挂年历	董寨保护区·当地住民	2012年	2012年	2000册	宁陕县、住民、小中学校	董寨保护区、农民、小学校：2000	
董寨朱鹮普及用桌用年历	董寨保护区·当地住民	2012年	2012年	4000册	罗山县内相关人员	罗山县内相关人员：4000	
洋县朱鹮年历	各项目实施地保护区·学校	2013年	2013年	2000册	洋县保护区、住民、小中学校	洋县保护区、住民、小中学校：2000	
宁陕朱鹮年历	宁陕县内、当地住民	2013年	2013年	2000册	宁陕县、住民、小中学校	宁陕县、住民、小中学校：2000	
董寨朱鹮年历	董寨保护区·当地住民	2013年	2013年	4000册	董寨保护区、农民、小学校	董寨保护区、农民、小学校：2000	
洋县朱鹮年历	各项目实施地保护区·学校	2014年	2014年	2000册	洋县保护区、住民、小中学校	洋县保护区、住民、小中学校：2000	
宁陕朱鹮年历	宁陕县内、当地住民	2014年	2014年	2000册	宁陕县、住民、小中学校	宁陕县、住民、小中学校：2000	
董寨朱鹮年历	董寨保护区·当地住民	2014年	2014年	5000册	保护区、农民、小学校、罗山县内相关人员	保护区、农民、小学校、罗山县内相关人员：5000	
洋县朱鹮年历	各项目实施地保护区·学校	2015年	2015年	4000册	洋县保护区、住民、农民、小中学校	洋县保护区、住民、农民、小中学校：4000	
宁陕朱鹮年历	宁陕县内、当地住民	2015年	2015年	3000册	宁陕县、住民、小中学校	宁陕县、住民、小中学校：3000	
董寨朱鹮年历	董寨保护区·当地住民	2015年	2015年	5000册	保护区、农民、小学校、罗山县内相关人员	保护区、农民、小学校、罗山县内相关人员：5000	
朱鹮短袖灰	项目相关人员	2012年	2012年	100件	观鸟培训会	观鸟培训会：100	
朱鹮短袖白	项目相关人员	2011年	2011年	200件	JCC、例会、示范项目培训会	JCC：30、例会：10、示范项目培训会：170	

附件资料14

生态旅游试行实施情况

活动名	参加者・人数	路线及活动内容	实施日期/日程	实施后的评价・报告等
洋县观赏朱鹮活动	西安在住日本人 22名	西安→洋县：朱鹮饲养场、朱鹮夜宿地、蔡伦墓→楼观台：珍稀动物救护繁育中心→西安	2011年12月17-18日 两天一夜	参加者问卷调查 实施报告书 12/28
宁陕 洋县 汉中观赏朱鹮与三国遗迹参观活动	从日本来的旅行者（环境省后援）9名	西安→楼观台：珍稀动物救护繁育中心→宁陕：寨沟梯田→洋县：饲养场、野生朱鹮→汉中：诸葛亮墓等→西安	2012年7月3-5日 三天两夜	参加者问卷调查 四季报7号 2012年8月
董寨观赏朱鹮与采茶活动	北京在住日本人（ODA 相关者）10名	北京→董寨：饲养场、灵鼎峰有机茶园等→北京	2014年4月19-20日 两天一夜	参加者问卷调查 实施报告书 5/9
董寨 观鸟与采茶活动	武汉观鸟队	武汉→董寨：饲养场、白云观鸟路线、灵鼎峰有机茶园等→武汉	2015年4月10-11日 两天一夜	

亲子自然收割水稻活动实施情况

地点・活动主题	实施日期/日程	参加人数	主要活动	实施后的评价・报告等
宁陕 寨沟村 山路行走	2013年4月5日（清明节） 当天往返	17组36名	山路行走、朱鹮解说・观察、观看耕牛犁地、做稻草人等	
洋县 摘梨活动	2013年8月17-18日（周末） 两天一夜	2组6名	摘梨、观察生物、参观老街等	
宁陕 寨沟村 体验收割水稻	2013年9月20-21日（中秋节） 两天一夜	约40名	收割水稻、观察生物、观察生物等	参加者问卷调查
宁陕 寨沟村 志愿捡拾垃圾	2013年11月16日（周六） 当天往返	9名	捡拾垃圾、观察生物、笔记大自然等	
宁陕 寨沟村 水田恢复活动	2013年12月6日（周五） 当天往返	35名	恢复弃耕水田、除草等	
洋县 油菜・梨花观赏活动	2014年4月6-7日（清明节） 两天一夜	29名	油菜・梨花节观赏、观察生物、笔记大自然等	
宁陕 寨沟村・朱家嘴村 体验插秧	2014年6月1-2日（端午节） 两天一夜	约60名	插秧、端午节庆祝活动、包粽子等	参加者问卷调查
洋县 摘梨活动	2014年8月16-17日（周末） 两天一夜	17名	摘梨、观察生物、参观老街等	
宁陕 寨沟村 体验收割水稻	2014年10月2-3日（国庆节） 两天一夜	约50名	收割水稻、拾栗子、观察动植物等	与NPO交流
				每次活动的活动报告 NPO年终报告书

